

2019（平成 31）年度

履修の手引き

長野保健医療大学

保健科学部

リハビリテーション学科

理学療法学専攻

作業療法学専攻

目次

履修について	1
1. 授業について	3
1) 学年	3
2) 学期	3
3) 単位	3
4) 授業時間	3
5) 授業科目の種類	3
6) 休講・補講・集中講義	3
2. 欠席・公欠・忌引	4
3. 履修登録	5
1) 履修登録とは	5
2) 履修登録の流れ	5
3) 履修基準について	5
4) 履修の注意事項	5
4. 他大学等の既取得単位の認定	6
1) 申請書類	6
2) 申請時期	6
3) 書類の請求および提出先	6
4) 認定の通知	6
5) その他	6
5. 卒業条件について	6
6. 試験について	8
1) 試験	8
2) 再試験・追試験	8
7. 臨床実習の単位について	8
8. 成績評価について	9
1) 評価区分	9
2) 成績通知	9
3) 再履修	9
4) GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度について	9
9. 他専攻の授業科目の履修について	10
10. 高等教育コンソーシアム信州における他大学単位の扱いについて	10
11. 学生による授業評価について	10
履修課程表	11
理学療法学専攻 履修課程表	12
作業療法学専攻 履修課程表	14
授業概要	16

履修について

1. 授業について

1) 学年

学年は、4月1日に始まり翌年3月31日までです。

2) 学期

学年を半期毎、前期と後期に区分します。

前期：4月1日から9月第3週まで

後期：9月第4週から翌年3月31日まで

3) 単位

授業科目の単位数は1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業方法に応じ授業の教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を定めています。

(1) 講義および演習 15時間から45時間の授業をもって1単位。

(2) 実験、実習および実技については30時間から45時間の授業をもって1単位。

4) 授業時間

授業時間は原則として次の通りです。授業科目によって別に指定することがあります。

時限	授業時間帯	時間
第1時限	9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0	9 0 分
第2時限	1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0	9 0 分
昼休み	1 2 : 1 0 ~ 1 3 : 0 0	5 0 分
第3時限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	9 0 分
第4時限	1 4 : 4 0 ~ 1 6 : 1 0	9 0 分
第5時限	1 6 : 2 0 ~ 1 7 : 5 0	9 0 分

※ 土曜日、日曜日、祝日に授業を行う場合があります。

5) 授業科目の種類

(1) 科目区分

本学の授業科目は、教養科目、専門基礎科目、専門科目に分けられます。

(2) 必修・選択科目など

各授業科目は、必修科目、選択科目から構成されます。

必修科目：卒業のために必ず単位を修得しなければならない科目

選択科目：定められた条件内で選択できる科目

6) 休講・補講・集中講義

(1) 休講：担当教員が都合により授業ができなくなった場合は、休講になります。連絡は一階（本館・南館）掲示板および学生用情報システム（Active Academy）で行います。

(2) 補講：休講となった授業または時間数が不足している授業等を補うために補講を行います。連絡は一階（本館・南館）掲示板および学生用情報システム（Active Academy）で行います。

(3) 集中講義：授業科目により、ある一定期間に集中して講義を行うことがあります。

2. 欠席・公欠・忌引

- 1) 欠席する場合は、本館事務室窓口に欠席届を提出してください。
- 2) 各科目において欠課、遅刻、早退した場合は、本館事務室窓口に所定の届を提出してください。
- 3) 遅刻及び早退は2回をもってその科目の1授業時間の欠課として扱われます。
- 4) 30分以上の遅刻、早退は1授業時間の欠課として扱います。
- 5) 実習については、遅刻及び早退2回をもって1日の欠席として扱います。
- 6) 公欠は次の場合とします。公欠願は本館事務室窓口に提出してください。
 - (1) 公的な事由による疾病の場合
 - (2) 就職試験受験の場合
 - (3) 公文書による対外行事に参加する場合
 - (4) その他学長が必要と認めた場合
- 7) 忌引の場合は、忌引届を本館事務室窓口に提出してください。
なお 忌引の日数(土・日曜日、休日を含む)は、次のとおりです。
父母：7日 子：7日 祖父母：3日 兄弟姉妹：3日 叔父伯母：1日

3. 履修登録

1) 履修登録とは

卒業するためには、学則に定められた所定の科目を履修し、単位を修得しなければなりません。さらに、授業を受けるためには履修登録しなければなりません。指定された期日までに履修登録を行わなかった場合は、たとえ授業に出席していても、その科目の単位は修得できませんので十分注意してください。

2) 履修登録の流れ

(1) オリエンテーション

履修の手引きとシラバス、時間割等を配布説明します。

(2) プランニング時間割表の作成

配布された資料をもとに、時間割表を作成してください。

(3) 履修登録

学生用情報システム(Active Academy)から履修登録を行います。選択科目の履修登録を必ず行ってください。

(4) 履修登録内容の修正・確認

学生用情報システム(Active Academy)から時間割表が正しく登録されているか確認してください。

(5) 最終登録 4月12日(金) 17:00 までです。

3) 履修基準について

(1) 2年次に配置される科目の履修にあたっては1年次の必修科目のすべてと、1年次の各専攻の選択科目のうち、卒業要件を満たすために必要となる単位を原則として修得していること。

(2) 3年次に配置される科目の履修にあたっては2年次の必修科目のすべてと、2年次までの各専攻の選択科目のうち、卒業要件を満たすために必要となる単位を原則として修得していること。

(3) 4年次に配置される科目の履修にあたっては3年次の必修科目のすべてと、3年次までの各専攻の選択科目のうち、卒業要件を満たすために必要となる単位を原則として修得していること。

4) 履修の注意事項

履修登録にあたっては履修課程表を参考に履修基準に沿って登録してください。

(1) 1年間の必修科目・選択科目のすべてを登録してください。後期の開講科目については後期履修内容確認期間に修正することができます。

(2) 履修年次が指定されている科目は、その年次において履修してください。下位年次に在籍中に上位年次の科目を履修することはできません。

(3) 原則としてⅠ・Ⅱ・Ⅲ等のついた科目は、数字の順番に履修してください。

(4) 同一時間帯に開講される2つ以上の科目を同時に履修することはできません。

(5) 履修登録した科目は確実に履修し、試験を受けなければなりません。登録しただけで終わると総合評価が下がります。履修を取り消す場合は別途定めた期間に申請してください。

(6) 通年の授業科目については、後期の履修内容確認期間中でも、変更できません。

(7) 科目名が同じであっても、在籍している専攻ではない専攻の科目は、履修登録できません。

(8) すでに履修した科目は、再度履修することはできません。ただし、担当教員の許可を得れば聴講することができます。

(9) 単位取得できなかった科目は、必ず履修登録(再履修登録)を行ってください。

4. 他大学等の既修得単位の認定

本学入学前に大学、短期大学、高等専門学校等で修得した単位を本学の単位として認定する場合があります。既修得単位の認定を希望する場合には、以下の要領で申請を行ってください。

1) 申請書類

- (1) 既修得単位認定申請書（履修ガイダンスで配布します。）
- (2) 既修得科目明細書
- (3) 成績証明書
- (4) 当該科目の内容がわかるもの（シラバス・講義概要）

2) 申請時期

4月8日（月）17時まで

3) 書類の請求および提出先

学務部

4) 認定の通知

5月上旬に本人に認定通知書を交付します。

5) その他

- ・既修得単位の認定は学則により 60 単位までと決められています。
- ・申請した単位が認定されるとは限らないため、不認定になった場合を考慮して履修登録を必ず行ってください。
- ・認定の申請は入学時のみです。また期日を過ぎての申請は認められません。

5. 卒業条件について

1) 保健科学部 リハビリテーション学科

各専攻の卒業に必要な授業科目の単位数は、次の表のとおりです。

〈2015(平成 27)～2018(平成 30)年度入学生〉

区 分		教養科目	専門基礎科目	専門科目	合 計
理学療法専攻	必修科目	18 単位	34 単位	－単位	52 単位
	選択科目	8 単位以上*1	6 単位*2	64 単位*3	78 単位以上
	合 計	26 単位以上	40 単位	64 単位	130 単位以上

*1：理学療法基礎セミナー2 単位、ハングル・中国語のうちいずれか 2 単位を含む 8 単位

*2：運動学Ⅰ（理学療法基礎運動学）を含む 6 単位

*3：専門科目（理学療法関連）から 64 単位

区 分		教養科目	専門基礎科目	専門科目	合 計
作業療法学専攻	必修科目	18 単位	34 単位	－単位	52 単位
	選択科目	8 単位以上*1	4 単位以上*2	75 単位*3	87 単位以上
	合 計	26 単位以上	38 単位以上	75 単位	139 単位以上

*1：作業療法基礎セミナー2 単位、ハングル・中国語のうちいずれか 2 単位を含む 8 単位

*2：運動学Ⅰ（作業療法基礎運動学）、精神医学Ⅱを含む 4 単位

*3：専門科目（作業療法関連）から 75 単位

〈2019(平成 31)年度入学生〉

区 分		教養科目	専門基礎科目	専門科目	合 計
理学療法学専攻	必修科目	19 単位	29 単位	－単位	48 単位
	選択科目	7 単位以上*1	7 単位以上*2	72 単位以上*3	86 単位以上
	合 計	26 単位以上	36 単位以上	72 単位以上	134 単位以上

*1：大学基礎セミナー1 単位、理学療法基礎セミナー1 単位、ハングル・中国語・スペイン語のうちいずれか 2 単位を含む 7 単位以上

*2：解剖学演習Ⅰ（骨格系）2 単位、解剖学演習Ⅱ（筋・神経系）1 単位、理学療法基礎運動学Ⅰ1 単位、理学療法基礎運動学Ⅱ1 単位、生命倫理・人間関係論のうちいずれかから 1 単位、言語聴覚療法概論・看護学概論・介護学概論のうちいずれかから 1 単位を含む 7 単位以上

*3：専門科目（理学療法関連）から 68 単位以上、IPE 関連科目 4 単位

区 分		教養科目	専門基礎科目	専門科目	合 計
作業療法学専攻	必修科目	19 単位	29 単位	－単位	48 単位
	選択科目	7 単位以上*1	8 単位以上*2	75 単位*3	90 単位以上
	合 計	26 単位以上	37 単位以上	75 単位	138 単位以上

*1：大学基礎セミナー1 単位、作業療法基礎セミナー1 単位、ハングル・中国語・スペイン語のうちいずれか 2 単位を含む 7 単位以上

*2：運動器系解剖学Ⅰ1 単位、運動器系解剖学Ⅱ1 単位、体表解剖学演習 1 単位、作業療法基礎運動学Ⅰ1 単位、作業療法基礎運動学Ⅱ1 単位、精神医学Ⅱ1 単位、生命倫理・人間関係論のうちいずれかから 1 単位、言語聴覚療法概論・看護学概論・介護学概論のうちいずれかから 1 単位を含む 8 単位以上

*3：専門科目（作業療法関連）から 71 単位、IPE 関連科目 4 単位

6. 試験について

1) 試験

学期ごとに期末の定期試験を行います。担当教員が必要と認めるときは、別に試験を行うことがあります。

授業の出席時間数が、授業の総時間数の3分の2未満の場合は定期試験の受験資格を失います。

- (1) 試験日程等は試験開始日1週間前に掲示します。
- (2) 学生は試験中机上に学生証を提示してください。また許可を得たもの以外は机におかないこと。
- (3) 試験開始より30分以上遅刻した場合はその科目は受験できません。
- (4) 試験開始後30分を経過するまでは試験場より退出することはできません。
- (5) 不正行為を行った者は、その年度の当該試験期間における受験をすべて無効とします。
- (6) 試験場へのスマートフォンの持ち込みは禁止します。携帯が確認された時点で不正行為と見なされます。許可された物以外の持ち込みは出来ません。
- (7) 試験に関しては、試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は不正行為と見なされます。

2) 再試験・追試験

(1) 試験により、成績が60点未満であった者に対しては、教科担当者が必要と認める場合、再試験を行うことがあります。なお、学生がやむを得ない理由により定期試験を受験できなかった場合は、追試験を行います。

(2) 再試験及び追試験の受験は、所定の期日までに受験料(再試験1科目2,000円、追試験1科目1,000円)を添え、本館事務室に申し込んでください。

なお、追試験については、許可願を事前に本館事務室へ提出してください。

(3) 正当な理由がなく定期試験を欠席した者は、その年度の当該科目の追試験を受けることができません。

(4) 追試験を認める正当な理由とは、次のとおりです。これらのものは教授会を経て学長が許可します。

- ① 病気及び負傷（診断書の提出）
- ② 忌引（届の提出）
- ③ 公欠（事前に許可されている場合）
- ④ その他やむを得ないと認められる場合（理由を証明する書類の提出）

なお、公欠の場合は受験料を納入する必要はありません。

(5) 再試験・追試験受験のために授業を欠席する場合は、公欠扱いとします。

(6) 再試験・追試験の実施方法は、上記1)(試験)に準じて行います。机上に領収証を提示してください。

7. 臨床実習の単位について

臨床実習においては、出席が5分の4に満たない場合は、評価の資格を失います。

8. 成績評価について

1) 評価区分

〈2015(平成 27)～2018(平成 30)年度入学生〉

成績の評価を A+、A、B、C、D、とし A+、A、B、C を合格、D を不合格とします。

合格と認定された授業科目については、所定の単位が与えられます。

点数区分	評価区分	単位認定	内容	GP
100～90 点	A+	合格	特に優れた成績	4.0
89～80 点	A	合格	優れた成績	3.0
79～70 点	B	合格	良好な成績	2.0
69～60 点	C	合格	合格と認められる成績	1.0
59～0 点	D	不合格	不合格	0.0
	N	単位認定	他大学等で履修した科目を本学の単位として認定したことを表す。	

〈2019(平成 31)年度入学生〉

成績の評価を S、A、B、C、D、とし S、A、B、C を合格、D を不合格とします。

合格と認定された授業科目については、所定の単位が与えられます。

点数区分	評価区分	単位認定	内容	GP
100～90 点	S	合格	特に優れた成績	4.0
89～80 点	A	合格	優れた成績	3.0
79～70 点	B	合格	良好な成績	2.0
69～60 点	C	合格	合格と認められる成績	1.0
59～0 点	D	不合格	不合格	0.0
	N	単位認定	他大学等で履修した科目を本学の単位として認定したことを表す。	

2) 成績通知

成績は学生用情報システム (Active Academy) にて通知します。なお、前期、後期とも保護者宛てに送付します。

3) 再履修

単位の修得が認められなかった授業科目は、次年度以降にその授業科目を再履修します。

4) GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度について

学業成績を年次毎に総合評価のポイントで表します。各科目の成績は次のようにポイント化します。総合評価ポイントは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = (\text{各科目のポイント (GP)} \times \text{各科目の単位数}) / (\text{履修登録の単位数})$$

GPA 制度は、

- ①学習状況を自己評価する目安とすること
- ②学修の成果をより明確に現すこと
- ③履修登録に責任をもつこと を目的とします。

また、GPA をもとに履修登録の上限を設定する場合があります。

※単位認定科目は GPA の対象となりません。

9. 他専攻の授業科目の履修について

他専攻の授業科目の履修または聴講については、別に定められた科目について、許可を得て履修登録することができます。

ただし、演習科目、実習科目、履修人数の制限等、何らかの不都合が生じる科目については履修または聴講することができません。事前に学務部に申請し許可を得る必要があります。

10. 高等教育コンソーシアム信州における他大学単位の扱いについて

長野県内大学単位互換協定に基づき、必要な手続きを行い、単位を取得することができます。

他大学での履修可能科目数は、個別に学長が認めた範囲とし、原則として本学の科目に読み替えません。

11. 学生による授業評価について

本学では、より良い授業が行われるようになることを目的に、授業科目の内容および方法に関して、学生による授業評価を実施しています。

これは授業の質を高めるために行うもので、個々の教員の人気投票ではありません。皆さんの真剣な評価を期待します。皆さんの成績に影響を与えることはありません。

学生の皆さんからのフィードバックによって良い授業を作るという趣旨を理解いただき、協力をお願いします。

授業概要

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	アカデミックリテラシー		
担当教員	友田 義行		
配当年次	1年次	配当学期	前期
年間授業回数	8回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
大学で作成するよい文章とはどのような文章か。そもそも言葉は必要なのか。そのような根本的なことを常に意識しながら、日本語にまつわる話をし、よき日本語が使えるようになることを目指す。古今の代表的な文章を読み、どのような文体、どのような表現が効果的なのか、を考え、実際に文章を書いてみる。また、日本語の文字、文法など具体的な知見を得る。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 適切な日本語を用いた文章が書けるようになる。 2. 様々な種類の文章を読解できるようになる。 3. 学術的なレポートや小論文を書けるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/12	イントロダクションー自己紹介文を書くー	友田義行
2	4/19	作文の基礎ー伝わる日本語表現ー	〃
3	4/25	文章の種類ーレポート・論文とはどのような文章かー	〃
4	5/10	構想を練るーテーマ・課題を考えるー	〃
5	5/17	小レポートの作成ー「スイミー」を読む	〃
6	5/24	組み立てるー構造とアウトラインー	〃
7	5/31	書くーパラグラフ・ライティングと参考文献ー	〃
8	6/14	小論文の作成に向けて	〃

テキスト・参考図書	テキスト：なし 参考書 1. 戸田山和久 著：論文の教室 レポートから卒論まで 2002版 日本放送出版協会 2. 小笠原信之 著：伝わる！ 文章力が身につく本 2011版 高橋書店
成績・評価の方法	・評価配分：平常点（提出物・発言等）50点、期末試験（小論文）50点 ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	執筆された課題文章は授業内で公表し、教材として用いる場合がある。 400字詰め原稿用紙を持参すること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	自然科学の基礎		
担当教員	松岡 楽、松山 敏彦		
配当年次	1年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
医療現場や介護現場で必要となる数学、生物、物理、化学の基礎について、高大連携科目として学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (松岡楽 数学／4回) 「分数」、「小数」、「割合」、「速さ」、「濃度」、「複数の値の関係」、「色々な単位」、図やグラフの「数量関係」について看護の現場で必要となる内容を学ぶ。 (松山敏彦 理科(生物・物理・化学)／11回) 生物では、「細胞の成り立ち」、「有性生殖」、「遺伝の規則性」について看護の現場で必要となる基本的なことを確認する。物理では、「力の働き」、「圧力」、「力の法則性」、「熱の働き」について看護の現場で必要となる基本的なことを学ぶ。化学では、「身の回りの物質」、「物質の成り立ち」、「水溶液」、「酸とアルカリ、中和」について看護の現場で必要となる基本的なことを学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 数について理解を深める。 2. 生物：生物学の高校までの基礎的内容を理解して、大学の理系科目の学習準備性を高める。 3. 化学：化学の高校までの基礎的内容を理解して、大学の理系科目の学習準備性を高める。 4. 物理：物理学の高校までの基礎的内容を理解して、大学の理系科目の学習準備性を高める。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/9	「分数」、「小数」について学習する。	松岡楽
2	4/16	「割合」、「速さ」、「濃度」について学習する。	〃
3	4/23	「複数の値の関係」、「いろいろな単位」について学習する。	〃
4	5/7	図やグラフの「数量関係」について学習する。	〃
5	5/14	生物の特徴：細胞の成り立ちと機能、細胞分裂、生命活動とエネルギー	松山敏彦
6	5/21	遺伝子とそのはたらき：生物の生殖、減数分裂、DNAと遺伝情報、遺伝の規則性	〃
7	5/28	タンパク質の合成：DNAの複製、RNA、転写と翻訳	〃
8	6/11	体内環境の維持：ホメオスタシス、自律神経、ホルモン、免疫	〃
9	6/18	物質の構成：身の回りの物質の成分、原子の構造、元素の周期表、化学結合	〃
10	6/25	物質の変化：分子量と物質質量、水溶液の濃度、化学反応式	〃
11	7/2	酸と塩基：水素イオン濃度とpH、中和反応、酸化と還元	〃
12	7/9	物体の運動とエネルギー：速度、加速度、落下運動	〃
13	7/16	運動の法則：力とは、運動の法則、摩擦力・浮力・圧力、力学的エネルギーの保存	〃
14	7/23	熱と波：熱と温度、熱量の保存、波とは、身の回りの波の現象	〃
15	7/30	電気：電流と抵抗、電流がつくる磁場	〃

テキスト・参考図書	テキスト：数学は毎回プリントを配布し、理科は必要に応じてプリントを配布する。 参 考 書：
成績・評価の方法	・評価配分：期末試験 100% ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	心理学		
担当教員	高瀬 弘樹		
配当年次	1年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
心理学の”心の研究・学問”としての歴史は浅く、古くは実験と観察を通じて始まり、近年では、生活の場における人間の理解を深めて、臨床の場でそれを生かしていこうといった試みも増えている。 本講義では、①心理学の入門編として様々な心理学の知見を概観、②心理学の視点や考え方を理解することを目的とする。臨床の話も織り交ぜながら、学生と共に考えていく講義とする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 心理学の歴史やその成果に関して幅広く理解できる。 2. 科学としての心理学における諸理論、研究法を説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/11	現代心理学の成立	高瀬 弘樹
2	4/18	心の進化	//
3	4/25	心の発達	//
4	5/9	動機付け	//
5	5/16	情動	//
6	5/23	身体化認知	//
7	5/30	性格	//
8	6/13	知能	//
9	6/20	メンタルヘルス	//
10	6/27	心理療法	//
11	7/4	感覚	//
12	7/11	知覚	//
13	7/18	思考・言語	//
14	7/25	心と社会	//
15	8/1	まとめ	//

テキスト・参考図書	テキスト：資料を配布 参考書 1. 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編：心理学 第5版 東京大学出版会
成績・評価の方法	・評価配分：期末試験 60%、不定期に行われる小テスト 40% ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	授業中は、私語を慎むこと。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	文化人類学		
担当教員	阿久津 昌三		
配当年次	1年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
文化人類学は、自己と他者、自文化と他文化との差異を探究しながら、エスノセントリズムの発想を脱して、自文化と他文化を理解しようとする学問である。 本講義では、人間と文化、人と人のつながり（生殖、家族、親族、結婚）、人生と時間（儀礼）信仰と世界観、身体・病気・医療、人間と死について学ぶ。授業は講義、視聴覚教材の活用、アクティブ・ラーニング、リフレクションテストの実施により進めていく。			

学習目標（行動目標）
1. フィールドワークの方法を学び、人々の話を聞き、行動を観察しながら記録し、医療にかかわる行為のバックグラウンドとなる文化とは何かを知る。 2. ローカルな／グローバルな医療活動に携わるときに必要な文化人類学の知の技法を学ぶ。 3. 医療を多様な角度からとらえなおす医療人類学の最前線を学ぶ。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/11	文化人類学と看護学	阿久津昌三
2	4/18	家族①—家族概念と家族関係語彙	〃
3	4/25	家族②—生殖と親子	〃
4	5/9	家族③—結婚と親族	〃
5	5/16	ジェンダーとセクシュアリティ	〃
6	5/23	生業経済の諸類型（採集・狩猟、農耕、牧畜）	〃
7	5/30	コミュニティとアソシエーション	〃
8	6/13	民族と国家	〃
9	6/20	民族と紛争	〃
10	6/27	人生と通過儀礼①—通過儀礼と境界理論	〃
11	7/4	人生と通過儀礼②—儀礼の構造と理論	〃
12	7/11	宗教とコスモロジー①—呪術、宗教、科学	〃
13	7/18	宗教とコスモロジー②—憑依とトランス状態	〃
14	7/25	医療人類学①—病いと治療	〃
15	8/1	医療人類学②—生と死と再生	〃

テキスト・参考図書	テキスト 1. 波平恵美子 編：文化人類学〔カレッジ版〕第3版 医学書院 参考書 1. 澤野美智子 編：医療人類学を学ぶための60冊 医療を通して「当たり前」を問い直そう 2018版 明石書店
成績・評価の方法	・評価配分：期末試験 100% ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	・基本的には講義形式であるが、授業のなかに口頭発表の場を設ける。主体的に参加すること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	信州学		
担当教員	和田 恭良		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数	8回	単位数	1単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
健康県、長寿県である信州を、様々な面から考察し、またそこで営まれてきた人々の文化や生活（特に健康資源の開発と健康増進活動）のあり方を検討し、これからの地域看護活動、地域振興活動の展望を得る。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 信州の自然、地理・歴史を踏まえて人々の暮らしを学ぶ。 2. 信州の生活を支える産業について学ぶ。 3. 健康長寿を支えてきた保健活動を学ぶ。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/9	健康長寿信州 世界でも有数の長寿国である日本の中で、トップクラスの平均寿命を誇る信州の健康長寿について、保健活動の歴史などを踏まえて概説する。	和田 恭良
2	10/23	地理的特性 3000m級の山岳、火山、大きな河川、急峻な地形、盆地など信州の地理的な特性やそこに暮らす人々を襲った数々の災害について理解するとともに、食をはじめとする豊かな自然の恩恵について考える。	〃
3	11/13	信州の自然 県歌「信濃の国」をひも解き、名所、偉人を知るとともに、山岳県、海なし県といった信州の自然の特徴を考察する。信州の気候と風土、人と自然の共生の歴史について概説する。	〃
4	11/27	信州の歴史 茅野市尖石遺跡の縄文のビーナス、和田峠の黒曜石、古事記に登場する諏訪大社、長野県・筑摩県の確執と南北対立など、古代から現在に至るまで、信州の歴史をたどり、人々の暮らしを考察する。	〃
5	12/11	信州の生活 雪深い北部県境地方、八ヶ岳周辺の高原地域、諏訪湖、盆地など地域ごとの人々の生活を農業と食文化を中心に考察する。	〃
6	1/8	信州の伝統文化 御柱祭り、ご開帳など、信州に古代から伝わる多くの祭りや信仰、方言など、それぞれの地域で暮らす人々について考察する。	〃
7	1/22	信州の産業 信州の生活を支える産業・経済活動の現状等について概説する。	〃
8	1/28	信州の保健活動 健康長寿県となった要因とも考えられる減塩運動、食生活改善運動、保健指導員活動など、信州における保健活動について学ぶ。	〃

テキスト・参考図書	テキスト 1. 市川健夫 著：信州学入門 1998版 信教出版部
成績・評価の方法	・評価配分：期末レポートによる判定100% ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	教育学		
担当教員	高柳 充利		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
本科目では、教育社会学的な視点を取り入れ、以下の三点を軸に「生涯教育」と「教育的コミュニケーション」について実際のプランと技法を習得することを目的とする。1. 技術の進歩の著しい現代社会にあって、専門職として活躍する上で必要となる、生涯に渡る自己教育の意義と見通し。2. 成熟社会における一般市民にとっての学びの意義と可能性。3. 医療の現場に携わる専門職に必要な「伝える」「共感する」「習慣を再構築する」ためのアプローチ。以上を学生による発表やディスカッションを適宜取り入れながら講義形式で学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 生涯にわたる自己教育の重要性について自分なりにイメージをもつことができる。 2. 他者への共感につながる人間洞察について自分なりの見通しをもつことができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/3	導入：授業の概要、評価の方針等についての説明	高柳充利
2	10/10	生成と発達：人間が変化するとはどのようなことかについての説明	〃
3	10/17	変容と成長：人間の変化の二つの容態を具体的な事例から検討	〃
4	10/24	人生の課題と教育：教育に関わる人生の課題について触れる	〃
5	10/31	人生の前半と後半：人生の前半と後半の対比から教育を考える	〃
6	11/7	教育とところ：ところの観点から教育を考える	〃
7	11/14	教育と声：教育と声との関わりを考える	〃
8	11/21	学びの構造：学習理論に触れる	〃
9	11/28	青年期と教育：青年期固有の教育的課題について文化作品を通して考える	〃
10	12/5	中年期と教育：中年期固有の教育的課題について文化作品を通して考える	〃
11	12/12	老年期と教育：老年期固有の教育的課題について文化作品を通して考える	〃
12	12/19	思春期と教育：思春期固有の教育的課題について文化作品を通して考える	〃
13	1/9	経験の再構築：ジョン・デューイの教育思想に触れる	〃
14	1/16	ケーススタディ：古典的名著から教育を学ぶ	〃
15	1/23	まとめ：授業の総括等	〃

テキスト・参考図書	テキスト：特に指定しない。 参 考 書：授業中に適宜紹介する。
成績・評価の方法	・評価配分：期末試験 100% ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	社会学		
担当教員	茅野 恒秀		
配当年次	1年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
社会学は、人と人が関わりあうことで形作られ変化していく社会現象を、読み解こうとする学問である。本講義では、特に健康、病気、老い、死、医療、ケア、家族、コミュニティ、制度、格差等をキーワードに、社会学の成果や問いについて学ぶ。 授業は講義、視聴覚教材の活用、グループワークや小テストの実施により進めていく。受講生には、社会学的なものの見方を身につけ、自分の日常生活や臨床実践を捉えなおす力を養う。			

学習目標（行動目標）
1. 社会学的な認識の枠組みを理解することができる。 2. 自らもその構成員である現代社会の成立基盤を理解することができる。 3. 医療従事者として身につけておくべき社会認識の方法を獲得することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/10	社会を学ぶための学びとは	茅野恒秀
2	4/17	自己、インタラクション	〃
3	4/24	家族、親密圏	〃
4	5/8	教育、学校	〃
5	5/15	医療、福祉	〃
6	5/22	ジェンダー、セクシュアリティ	〃
7	5/29	メディア、情報	〃
8	6/12	世代、ライフコース	〃
9	6/19	労働、消費	〃
10	6/26	階層、格差	〃
11	7/3	社会問題、社会運動	〃
12	7/10	科学技術、環境	〃
13	7/17	文化、表象	〃
14	7/24	都市、コミュニティ	〃
15	7/31	グローバリゼーション、エスニシティ	〃

テキスト・参考図書	テキスト 1. 難波功土 著：広告で社会学 2018版 弘文堂 参考書：
成績・評価の方法	・評価配分：授業期間中の小レポート50%、期末レポート50%。 ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	日本国憲法・法学		
担当教員	関 良徳		
配当年次	2年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
日本国憲法の全体像は、基本的人権と統治機構の2つに大別される。本科目では、日本国憲法の基礎的知識、とりわけ基本的人権の内容と意義、統治機構の基本原則と司法権・違憲審査制の理解を目的とする。基本概念・判例などの基礎的知識の獲得を大前提に、それらの知識を活用して、社会における多様な問題を憲法や法律との関わりから捉え、自らの言葉で発言できる力を身に付ける。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 憲法の人権規範を判例等の具体的な事例と結びつけて捉えることができるようになる。 2. 様々な価値観を持つ個人を尊重しながら共生を図る憲法の基本理念を理解し、実践できるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		憲法についての基礎的な概念やその中核を構成する立憲主義の考え方を説明する。	関良徳
2		大日本帝国憲法から現憲法が成立するまでの歴史的過程及びその正統性を概説する。	〃
3		憲法前文、国民主権及び天皇制について説明する。	〃
4		第9条の解釈及び自衛隊問題について説明し、改憲論について討論する。	〃
5		基本的人権の原理、人権の諸形式及び人権の主体等について説明する。	〃
6		包括的基本権（13条）と法の下での平等（14条）について説明し、関連する判例を検討する。	〃
7		内心の自由：思想良心、信教、学問の各自由について説明し、関連する判例を検討する。	〃
8		表現の自由：表現の自由や知る権利について、判例検討を通じてその限界を考える。	〃
9		経済的自由・人身の自由：職業選択の自由や財産権について説明を行う。	〃
10		参政権：参政権の意義と機能について概説し、模擬投票を行う。	〃
11		社会権：生存権、教育を受ける権利、労働基本権について概説する。	〃
12		国会：国会の権能や法律の制定過程について説明する。	〃
13		内閣：内閣の権能や議院内閣制（大統領制との比較を含む）などについて概説する。	〃
14		裁判所・地方自治：裁判所の役割や司法権の独立、地方自治の制度について説明する。	〃
15		これまでの学習を振り返り、憲法の意義と改憲論について検討し、討論する。	〃

テキスト・参考図書	テキスト 1. 安念潤司 他著：論点 日本国憲法 第2版 東京法令出版 参考書 1. 宇賀克也 他編：ポケット六法 有斐閣
成績・評価の方法	・評価配分：期末試験 100％ ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	・日本国憲法の条文は毎時間参照しますので、必ず持参して下さい。 ・毎時間出席するとともに、日頃から復習を怠らないように注意して下さい（都合により欠席する場合にはメール等で連絡して下さい）。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生命倫理		
担当教員	三谷 尚澄		
配当年次	2年次	配当学期	後期
年間授業回数	8回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授業科目の概要（一般目標）			
「生命倫理」という学問分野が成立した背景や歴史について学び、事例を通して、いのちにかかわる人間の行為の倫理的側面を探究する。またその基本にあるべき人権意識を醸成し、創造的思考能力を高める。			

学習目標（行動目標）
1. 倫理学・生命倫理学上の主要な考え方や概念に習熟し、自分の言葉で説明できるようになる。 2. 主要な倫理的理論や原則を具体的な問題に適用しつつ、道理的に思考できるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		「倫理的に考える」とはどのようなことか	三谷尚澄
2		「批判的思考」を実践する	〃
3		なぜ「理論」を学ぶ必要があるのか	〃
4		功利主義	〃
5		義務論	〃
6		徳倫理学	〃
7		医療倫理の四原則	〃
8		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：授業中に指示する。 参考書：授業中に指示する。
成績・評価の方法	・評価配分：期末試験 100% ・成績評価：60点以上を合格とする。
その他 （履修上の留意点）	アクティブ・ラーニングを取り入れた形態で授業を進めるので、毎回のアクティビティへの参加が必須である。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	ヒューマンケア論		
担当教員	岩谷 力、金物 壽久、井部 俊子、川崎 千恵、松房 利憲、大町 かおり		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
保健・医療・福祉に関する専門的な働きかけを必要とする人が、健康問題を主体的に解決し、より良く生きることを目的とした援助を行う上で地域が持っている問題解決能力を活かしていくことをソーシャル・キャピタルの醸成と活用の方と考え方として理解する。その目的に向かって行われる働きかけに共通するヒューマンケアの考え方を学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. ヒューマンケアの概念が登場した社会的背景と制度的背景の基礎的な知識を得る。 2. 「心の問題」「病氣」「障害」「老い」「死」をテーマにゲストスピーカーの話や具体的な事例を通して、家族を含めた当事者のニーズや心理状態を理解し、援助のあり方を考える。 3. 「コミュニケーション」の持つ意義や「ケアすることによって共に成長する自分」をみつめ、保健・医療・福祉サービスの連携の意義と重要性を考える

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/8	ヒューマンケアを学ぶこと	岩谷 力
2	4/15	ケア・ケアリングとはなにか	井部俊子
3	4/22	地域で暮らす人々を理解する、社会文化	川崎千恵
4	5/6	病と向き合うことについて考える（遍サバイバー）	井部俊子
5	5/13	障害のある子どもの子育て（ダウン症・発達障害）	大町かおり
6	5/20	障がいと共に生きる（リウマチ患者さん）	金物壽久
7	5/27	あるがままの精神障害者を知る	川崎千恵
8	6/3	老いを見つめる・盲者の思い	岩谷 力
9	6/10	「病院スタッフが教えてくれた『絶望の中にある幸せ』と『生きる意味』～わが子の看取りの中で～」	大町かおり
10	6/17	今日の保健医療福祉の背景と課題についてパラダイム転換の視点から	川崎千恵
11	6/24	自分なりのヒューマンケアについて考える・チームについて考える・GW	松房・大町
12	7/1	ヒューマンケアに求められる態度と行動GW	松房利憲
13	7/8	グループ発表のためのGW	松房利憲
14	7/22	グループ発表、3限	松房利憲
15	7/22	グループ発表、まとめ 4限	#

テキスト・参考図書	授業開始時および適宜提示します。 参考書 1. 埼玉県立大学 編集：IPEを学ぶ―利用者中心のの保健医療福祉連携― 中央法規 2. 水本清久 他編：実践チーム医療論-実践と教育プログラム 医歯薬出版
成績・評価の方法	・成績配分：講義への出席、課題レポート、発表を総合的に勘案して評価する。 ・成績評価：60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	ヒューマンケアは、保健・医療・福祉の分野に共通する「援助」の基本的な概念として位置付けています。同時に、ケアする自分についても考えることです。本学の教育の基盤をなす、ヒューマンケアに積極的にアプローチしましょう。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	IPW論		
担当教員	宮越 幸代、松房 利憲		
配当年次	2年次	配当学期	前期
年間授業回数	8回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
医療技術の複雑化に対応するために、また超高齢化に伴う全人的医療ケアを実現するために、二種類以上の専門職者が共に学びあう多職種（専門職）連携教育（Interprofessional Education:IPE）が広がりを見せている。本科目は、全学部の学生が混在する少人数グループを単位とし、クリティカルシンキング・ロジカルライティングを習得し、図書館演習及び医療をテーマとしたワークショップ活動を行うことで、IPEに必要なアカデミックリテラシー（大学で学ぶための諸能力）を学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 多職種が連携したチーム医療の機能と意義を説明できる。 2. チーム医療における意思疎通と医療倫理について具体的な例をあげて説明できる。 3. チーム医療における各専門職の役割や機能、理念についてそれぞれの特徴と関連付けて説明できる。 4. チーム医療の方法と実践について、具体的な例をあげて説明できる。 5. 効果的なチーム医療の方法と実践について、考えうる課題を踏まえながら説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		チーム医療概論1	宮越幸代
2		チーム医療概論2	宮越幸代
3		チーム医療における専門職の役割と理念1	松房利憲
4		チーム医療における専門職の役割と理念2	松房利憲
5		チーム医療における専門職の役割と理念3	宮越幸代
6		チーム医療の方法と実践1	宮越・松房
7		チーム医療の方法と実践2	宮越・松房
8		より良い連携のためのチーム医療の課題と展望	宮越・松房

テキスト・参考図書	テキスト 1. 水本清久 他編：実践チーム医療論-実践と教育プログラム 医歯薬出版 参考書：授業開始時および適宜提示します。
成績・評価の方法	・評価配分：グループワークにおける参加度・貢献度等の態度、グループワークの成果発表の完成度等に鑑み、総合的に評価します。 ・成績評価：60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	論理的な文章表現（大学におけるレポート執筆方法の基本）、専門文献の活用・引用方法などの既習内容を応用できるよう、基本的な資料を見直し、手元に準備して下さい。自分の専門学科の特徴を説明する力をつけるとともに、他学科の特徴を踏まえてより良い連携ができるための基礎を一部グループワークで検討します。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	I PW演習 I		
担当教員	坂口 けさみ、林 かおり、樋貝 繁香、川崎 千恵、田中 高政 水寄 知子、宮越 幸代、鈴木 真理子、田淵 祥恵、桑原 良子 宮澤 美津子、横関 祐子、奥原 香織、塚田 ゆみ子、堀内 和子 風間 邦子、松房 利憲、大町 かおり、宮脇 利幸、山本 良彦		
配当年次	3年次	配当学期	前期
年間授業回数	8回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授業科目の概要（一般目標）			
地域における保健医療福祉の場を想定し、リハビリテーション学科の学生と共にグループを編成し、多職種連携について事前学習、課題の設定、チームワークを意識しながらチームの目標に向かっていくプロセスを相互に学びあう。			

学習目標（行動目標）
1. 多職種が連携したチーム医療による支援計画をシミュレーションを通して立案できる。 2. チーム医療における意思疎通と医療倫理の重要性についてシミュレーションから考察できる。 3. 他職種の役割や機能への理解と関心を高め、連携・協調しながら支援計画を立案できる。 4. 学習によってもたらされた意味とより効果的なチーム医療における自己の課題を整理して説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション（学習目標および演習方法）	坂口 けさみ 林 かおり
2		グループワーク① チームビルディングおよび対象の理解（20事例20グループ）	樋貝 繁香 川崎 千恵 田中 高政
3		グループワーク② 対象事例の分析	水寄 知子 宮越 幸代 鈴木 真理子
4		グループワーク③ 対象事例が目指す目標	田淵 祥恵 桑原 良子 宮澤 美津子
5		グループワーク④ 対象事例への支援計画	横関 祐子 奥原 香織 塚田 ゆみ子
6		グループワーク⑤ グループ発表準備	堀内 和子 風間 邦子
7		発表会（対象事例に対するチーム医療の発表と質疑応答）10分×10グループ×2会場	松房 利憲 大町 かおり
8		発表会（同上）およびフィードバック・レポート	宮脇 利幸 山本 良彦

テキスト・参考図書	テキスト：実践チーム医療論-実践と教育プログラム（医歯薬出版） 参考書：授業開始時および適宜提示します。
成績・評価の方法	・評価配分：グループワークにおける参加度・貢献度等の態度、グループワークの成果発表の完成度等に鑑み、総合的に評価します。 ・成績評価：60点以上を合格とする。
その他（履修上の留意点）	IPW論で学んだ内容を、グループ毎に提供される事例検討に応用できるよう、復習してきて下さい。それぞれの専門学科の強みを活かしつつ、対象事例の目標に向かって多職種がよりよい連携のもとに協働する方法をグループワークで検討します。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	I PW演習Ⅱ		
担当教員	坂口 けさみ、林 かおり、樋貝 繁香、川崎 千恵、田中 高政 水寄 知子、宮越 幸代、鈴木 真理子、田淵 祥恵、桑原 良子 宮澤 美津子、横関 祐子、奥原 香織、塚田 ゆみ子、堀内 和子 風間 邦子、松房 利憲、大町 かおり、宮脇 利幸、山本 良彦		
配当年次	4年次	配当学期	前期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
ヒューマンケア論、IPW論、IPW演習Ⅰで学んだことを、地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、ケアハウス、保育所等で実際に体験し、援助を必要とする人々・保健医療福祉に携わる人々・グループメンバーなどと直接に関わるにより援助者間の「連携と統合」における実践上の基盤をつくる。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 演習先の組織と機能における各専門職の役割を整理し、具体的に説明できる。 2. 多職種が連携したチーム医療による支援計画を実際の事例を通して立案できる。 3. 事例の課題解決における他職種との役割と機能について、具体的に説明できる。 4. チーム医療における連携と協調の重要性を事例の具体的な場面を通して説明できる。 5. 自分の専門職の専門性と独自性を踏まえ、より効果的なチーム医療における課題を整理できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	6/6	オリエンテーション1 (学習目標および演習方法)	坂口 けさみ
2	6/6	オリエンテーション2 (対象事例の概要・演習計画の確認)	林 かおり
3	6/7	演習1 (各施設ごと) チームで対象の理解、目標の共有、課題解決の検討、支援計画	樋貝 繁香
4	6/7	〃	川崎 千恵
5	6/7	〃	田中 高政
6	6/7	〃	水寄 知子
7	6/8	〃	宮越 幸代
8	6/8	〃	鈴木 真理子
9	6/8	〃	田淵 祥恵
10	6/8	施設内での支援計画検討会議	桑原 良子
11	6/9	演習2 (学内) 対象事例への支援計画の修正	宮澤 美津子
12	6/9	〃	横関 祐子
13	6/9	対象事例に関する発表準備	奥原 香織
14	6/9	〃	塚田 ゆみ子
15	6/10	発表会 (対象事例に対するチーム医療の発表と質疑応答) 10分×10グループ×4会場	堀内 和子
			風間 邦子
			松房 利憲
			大町 かおり
			宮脇 利幸
			山本 良彦

テキスト・参考図書	テキスト：実践チーム医療論-実践と教育プログラム (医歯薬出版) 参考書：授業開始時および適宜提示します。
成績・評価の方法	・評価配分：施設演習やグループワークにおける参加度・貢献度等の態度、グループワークの成果発表の完成度等に鑑み、総合的に評価します。 ・成績評価：60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	IPW論、IPW演習Ⅰで学んだ内容を各施設で提供される実際の事例に適用できるよう、基本的事項は復習してきて下さい。対象の理解や課題解決における各職種の捉え方の違いを踏まえつつ、対象事例の目標に向かって多職種がよりよい連携のもとに協働する方法を、現場の医療職種らとの意見交換を交えてグループ毎に検討します。
保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める別表の種類と教育内容 別表 3 (看護師課程) 看護の統合と実践	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	情報リテラシー		
担当教員	熊本 圭吾		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
コンピュータを操作し必要な情報を得て目指す作業を行う知識と能力、いわゆる「情報リテラシー」は、リハビリテーションの分野においても臨床や研究を進める上で(報告書の作成、臨床データの集計、症例や研究の発表等)今や必須である。 この科目では、コンピュータの利用が、主体的かつ安全にできるようになることを目的とする。まずインターネットを介し収集・発信する情報を、適切かつ安全に利用し運用するために必要となる基礎的な知識について学習し、大学での学修と今後の活動に活用できることを目標とする。次に、コンピュータで行う頻度が極めて高い文書作成・表計算・プレゼンテーションの基礎について、事実上の業界標準となっているソフトウェア Microsoft 社の Word, Excel, Power Point の基本的な使い方を中心に、実習形式で学習する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. コンピュータやインターネットを利用する上での基本的な注意事項が理解できる 2. ワードプロセッサを用い基礎的な文書作成ができる 3. 表計算ソフトウェアを使い基礎的な集計やグラフ作成ができる 4. パーソナルコンピュータを用い基礎的なプレゼンテーションの作成ができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/11	コンピュータの基礎知識と Windows の基本操作	熊本圭吾
2	4/18	インターネット, Web, 電子メールの基礎	〃
3	4/25	個人情報保護, SNS, ネットコミュニケーションの基礎	〃
4	5/9	情報安全管理の基礎	〃
5	5/16	情報モラル, 不正行為について	〃
6	5/23	情報検索, 情報活用の基礎	〃
7	5/30	文書作成 (1) Word の基本操作	〃
8	6/13	文書作成 (2) 文書の作成	〃
9	6/20	文書作成 (3) 文書の体裁	〃
10	6/27	表計算 (1) Excel の基本操作	〃
11	7/4	表計算 (2) データ分析の基礎	〃
12	7/11	表計算 (3) 数式, 関数の基礎	〃
13	7/18	表計算 (4) グラフ作成の基礎	〃
14	7/25	プレゼンテーション(1)プレゼンテーションとは	〃
15	8/1	プレゼンテーション(2)資料作成の基礎	〃

テキスト・参考図書	テキスト： ①情報リテラシー入門編＜改訂版＞Windows10・Office2016 FOM 出版 ②上藤一郎，西川浩昭，朝倉真粧美，森本栄一：データサイエンス入門ー Excel で学ぶ統計データの見方・使い方・集め方ー，オーム社
-----------	---

成績・評価の方法	演習課題 50%, 期末試験 50%
その他（履修上の留意点）	授業では、ネットやコンピュータに関する社会常識を身に着けること、大学の学業に用いるコンピュータの基本的な利用法を理解することを重視しています。ソフトウェア操作の習熟や高度な利用法については授業時間内では扱えませんので各自で行ってください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	倫理学		
担当教員	能勢 桂介		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
倫理学とは、良き生き方、他者——身近な家族、恋人から外国にいる遠くの人たちまで——とのあるべき関係について考える学問である。 他方、自分が納得して生き、他者たちと共生するための条件を明示化したものに「人権」がある。だが、なぜ、どのように人権が大事なのか？考え始めると疑問がわいてくる。 そこで、この講義では人権に関する思想を紹介し、身近な生活の問題を素材として人権を倫理的に聴講者と考えていく。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
1. 「倫理学」の基本的な思考法を身につける。 2. 「よき市民」として人権を日常生活に生せるようになる。 3. 自分なりの考えを他者と表明し合い、ともに討議する姿勢を身につける。	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/5	はじめに ——よき市民であるための人権論／倫理学	能勢 桂介
2	4/12	日本国憲法、世界人権宣言を読んでみる	〃
3	4/19	人権思想の歴史① ——世界宗教・哲学の始まり	〃
4	4/26	人権思想の歴史② ——近代ヨーロッパ	〃
5	5/10	生命と財産を保障 する社会の仕組み(ホッブスとロック)	〃
6	5/17	公正さとは何か？ ——民主主義を鍛える(ルソー)	〃
7	5/24	人間の尊厳(カント) ／自由な言論の価値(ミル)	〃
8	5/31	市場経済 ——自由の実質化(アダム・スミス)	〃
9	6/14	社会権① ——戦争状態としての市場経済	〃
10	6/21	社会権② ——社会権、福祉国家への道	〃
11	6/28	日本の場合① ——開国から戦後まで	〃
12	7/5	日本の場合② ——現代の諸問題	〃
13	7/12	人権の拡張 ——女性、エスニック・マイノリティ、障がい者	〃
14	7/19	人権の境界 ——生命倫理、国境	〃
15	7/26	おわりに ——振り返って、議論し、講義の理解を深める	〃

テキスト・参考図書	テキスト：特に指定しない 参考書：浜林正夫 1999 年『人権の思想史』吉川弘文館 金泰明 2014 年『人権は二つの顔をもつ』トランスビュー 小室直樹 2006 年『日本人のための憲法原論』集英社インターナショナル
-----------	--

成績・評価の方法	授業時のコメント 50%、期末試験：小論文 50%
その他（履修上の留意点）	講義中に意見を発表したり、レポートを書いたりしてもらうので、それに対応できるように問題意識を持って聴講してほしい。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	異文化理解		
担当教員	伊原 巧		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
ややもすれば、「異文化＝外国人・外国文化」、「異文化理解＝外国理解」と反射的に捉えられがちな異文化理解は、自分の所属する文化の価値観を絶対視するのではなく、自分の文化は多くの文化の中の1つにすぎないと相対化して認識することから始まる。差異に対する開かれた心を持ち、個別言語や個別文化の多様性や相対性を理解するとともに、多様な言語や文化を持つ人々と差別や偏見なしに共生するにはどうすればよいのかについて考察する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 事象を相対化して認識できるようになる。 2. 文化とコミュニケーションについて理解できるようになる。 3. 認知・情意・行動の点において他者との関係が深まる。 4. 外国語と国際語の違いを理解できるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/9	本授業の目標と概要、授業の進め方、参考書、課題、成績・評価等に関する解説を行う。	伊原 巧
2	4/16	文化とは何か：異文化理解に関わる呼び方と、高等文化、一般文化	〃
3	4/23	文化とは何か：その構成要素とその特徴	〃
4	5/7	文化とは何か：上位(支配)文化と下位文化	〃
5	5/14	文化とは何か：自文化中心主義と文化相対主義	〃
6	5/21	文化とは何か：農耕文化と遊牧文化	〃
7	5/28	文化とは何か：文化一般と個別文化	〃
8	6/11	文化とは何か：個別文化の事例発表	〃
9	6/18	文化とコミュニケーション：コミュニケーションの構成要素、文化とコミュニケーションの表裏一体性	〃
10	6/25	文化とコミュニケーション：母語、母国語、異言語、外国語、第二言語、国際語	〃
11	7/2	文化とコミュニケーション：EFL、ESL、EIL	〃
12	7/9	文化とコミュニケーション：EIL 文献の原書講読	〃
13	7/16	異文化理解教育とは何か：その内容と留意点	〃
14	7/23	異文化理解教育とは何か：異文化トレーニング	〃
15	7/30	異文化理解教育とは何か：異文化トレーニングの事例発表	〃

テキスト・参考図書	テキスト： 参考書： 国際コミュニケーションのための英語教育研究 伊原巧著（現代図書） 異文化トレーニング 八代京子、町恵理子、小池浩子、吉田友子著
-----------	--

成績・評価の方法	・評価配分：期末筆記試験 90%、2 回の事例発表点 10% ・成績評価：総督点 60 点以上を合格とする。
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	社会福祉学		
担当教員	熊本 圭吾		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
リハビリテーションは、高齢者、障害児・者、病者、児童などの社会的弱者を対象とし、社会への適応・再適応や社会参加を促すことを目指すものである。そのためリハビリテーションに従事する者は、社会福祉について理解し、福祉専門職と連携して支援を行うことが望まれる。本講義では、生活者として自らの住む社会における福祉の概略を理解し、リハビリテーションを実践する上で理解が望まれる福祉について知ること、を目標とする。なお、日本国の法・制度において、「社会福祉」は社会保障の限られた分野の呼称とされている。本講義では、より広義の社会福祉の観点から、日本の社会保障（国が全ての国民に「健やかで安心した生活」を保障する）の政策、制度・サービスの概観に重きを置いて、社会福祉の概略を学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. わが国における社会保障の概略を説明できる 2. 社会福祉に関わる概念・理念、社会状況の概略を説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/8	社会福祉・社会保障の概念・現代社会の課題(1)	熊本 圭吾
2	4/15	医療保険(1)	〃
3	4/22	医療保険(2)	〃
4	5/6	高齢者福祉・介護保険(1)	〃
5	5/13	介護保険(2)	〃
6	5/20	年金(1)	〃
7	5/27	年金(2)、雇用保険・労働者災害補償保険(1)	〃
8	6/3	雇用保険・労働者災害補償保険(2)・民間保険	〃
9	6/10	社会福祉制度	〃
10	6/17	児童福祉(1)	〃
11	6/24	児童福祉(2)	〃
12	7/1	障害者福祉(1)	〃
13	7/8	障害者福祉(2)	〃
14	7/15	社会手当・生活保護	〃
15	7/22	権利擁護・現代社会の課題(2)	〃

テキスト・参考図書	テキスト：①杉野緑：社会福祉・社会保障入門，みらい ②佐藤久雄，小澤温：障害者福祉の世界[第5版]，有斐閣 参考書：赤木正典，平松正臣：福祉・栄養・看護のための 改訂社会福祉論，建帛社 山縣文治・岡田忠克(編)：よくわかる社会福祉[第11版]，ミネルヴァ書房
-----------	---

成績・評価の方法	期末試験 80%，授業内課題 20%
その他（履修上の留意点）	授業までに、テキストの該当章や資料の読了等を指示することがあります。不定期に小課題を実施します。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	物理学		
担当教員	神原 浩		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
医療現場や介護現場でも必要となる物理学の基礎を学ぶ。特に力学を中心に、物体に働く力や物体の運動、エネルギーの概念を通して、物理現象の見方や考え方を理解することを目標にする。 基本的な問題を解くことで、物理法則の適用法を身につけてもらいたい。また、熱力学や電磁気学の基礎についても触れる。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 力学の基本概念（運動、運動と力の関係、力学的エネルギー、運動量など）を習得する。 2. 熱や波の基本的な性質を理解する。 3. 電磁気学の基本概念（電場、電位、電流、磁場など）を習得する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/30	物体の運動① 運動の表し方、等速直線運動、等加速度直線運動	神原 浩
2	10/7	物体の運動② 自由落下、水平投射、斜方投射の運動	〃
3	10/21	運動と力の関係 物体に働く力の表し方、力のつり合い、運動の3法則、運動方程式	〃
4	10/28	剛体のつり合い 重心と力のモーメント	〃
5	11/11	圧力と浮力 圧力(大気圧、水圧)と浮力の考え方	〃
6	11/18	仕事とエネルギー 仕事、力学的エネルギー(運動エネルギー、位置エネルギー)保存の法則	〃
7	11/25	運動量と力積 力積と運動量の変化、運動量保存の法則	〃
8	12/2	力学のまとめ これまでの力学のまとめと確認テスト	〃
9	12/9	熱 熱エネルギー、熱容量と比熱	〃
10	12/16	波動 波の基本的な性質、音と光	〃
11	12/23	静電気 静電気力と電場、電位	〃
12	1/6	電流と電力 電気回路と電流(オームの法則)、電力、コンデンサー	〃
13	1/14(火)	電流と磁場 電流のつくる磁場、磁場中で電流が受ける力、モーター	〃
14	1/20	電磁誘導と発電 電磁誘導と発電の仕組み、交流	〃
15	1/27	まとめ これまでのまとめと復習	〃

テキスト・参考図書	授業で使用する資料テキストは印刷して配布する。 参考図書：「物理の基礎」 長岡洋介 著 (東京教学社) また、高校での「物理基礎」、「物理」の教科書や参考書一般
成績・評価の方法	期末試験 70%、授業への取り組み(演習等) 30%
その他(履修上の留意点)	

	高校で物理未履修であった人は特に、授業中に示す例題や演習問題を繰り返して解き、物理の考え方に慣れるよう努力すること。
--	--

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	統計学		
担当教員	熊本 圭吾		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
近年リハビリテーションの分野においても、実証的なデータに基づいたエビデンス(根拠)を示すことが求められるようになってきている。実証的なデータを取り扱う上で、統計学的手法は必須と言える。 本講義では、データにより現象を示し、データに基づき仮説を検証する方法である統計的手法について、その基礎を身に付けることを目標とする。実際に簡単なデータを扱い、基礎統計量、統計的検定、相関・回帰分析等の基本を理解する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 統計学的基本的な用語が理解できる 2. 統計学的基本的な考え方の基本が理解できる 3. データから基礎的な記述統計量を示すことができる 4. 基本的な統計処理や統計解析ができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/30	身近な統計，統計学とは，尺度水準	熊本 圭吾
2	10/7	記述統計，散らばり	〃
3	10/21	2 変数の記述統計（相関）	〃
4	10/28	確率と確率分布	〃
5	11/11	標本分布と推定	〃
6	11/18	信頼区間と推定	〃
7	11/25	統計的仮説検定	〃
8	12/2	平均値の差の検定（1）	〃
9	12/9	平均値の差の検定（2）	〃
10	12/16	分散分析と多重比較（1）	〃
11	12/23	分散分析と多重比較（2）	〃
12	1/6	回帰分析	〃
13	1/14(火)	医療（生物）統計	〃
14	1/20	多変量解析の紹介	〃
15	1/27	これから統計を使う上で	〃

テキスト・参考図書	テキスト：①山上暁，倉智佐一：新版 要説心理統計法，北大路書房 ②上藤一郎，西川浩昭，朝倉真粧美，森本栄一：データサイエンス入門ーExcel で学ぶ統計データの見方・使い方・集め方ー，オーム社 参考書：森棟公夫ほか：統計学 改訂版，有斐閣 伊藤尚枝・Q&A で理解する統計学の基礎，北大路書房 吉田寿夫：本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本，北大路書房
-----------	---

成績・評価の方法	期末試験 90%、授業内課題 10%
その他（履修上の留意点）	統計学的な考え方の基礎を理解することを主な目的としていますが、Excel 等を使用し実際の統計処理を行うことがありますので、Windows や Excel の最低限の操作はできるようにしてください。なおテキスト②は情報リテラシーと共通のテキストです。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生物学		
担当教員	坂口 雅彦		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
高校理科選択制による生物学の知識・理解力の差を補償するとともに、専門医療技術に必要な高度な生物学の理解の前提である基礎的な生物学を理解させることを目標とする。 講義内容は、1) 生体を構成する物質、2) 細胞の構造と機能、3) 人体を構成する組織・器官、4) 発生と遺伝、5) 生命の進化、6) 多様な生命の存在とその意義等を順次解説する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 高校での生物基礎、生物を未履修・理解不足な状態からでも、基礎的な生物学の内容を理解できるレベルに到達する。 2. 生化学の授業を理解する上で必要な基礎を理解できる。 3. 専門医療技術に必要な高度な生物学の理解の前提である基礎的な生物学を理解できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/4	生物学を学ぶ意義 総論	坂口 雅彦
2	10/11	生体を構成する物質 原子、分子、イオン結合、共有結合の基礎的理解	〃
3	10/18	生体を構成する物質 炭水化物、脂質、タンパク質、核酸等の概説	〃
4	10/25	細胞の構造と機能 細胞内小器官の概説、浸透圧・物質の局在と移動の解説	〃
5	11/1	人体を構成する組織・器官 各内臓の役割の解説	〃
6	11/8	人体を構成する組織・器官 骨格系、筋系	〃
7	11/15	人体を構成する組織・器官 神経系 ニューロンの基本的解説	〃
8	11/22	人体を構成する組織・器官 神経系 感覚器の基本的解説と感覚情報処理（視覚系）	〃
9	11/29	人体を構成する組織・器官 神経系 感覚器の基本的解説と感覚情報処理（聴覚系）	〃
10	12/6	人体を構成する組織・器官 神経系 高次脳機能の解説（多重人格、記憶学習）	〃
11	12/13	発生と遺伝 胚発生、脳・神経系の発生分化	〃
12	12/20	発生と遺伝 体細胞分裂・減数分裂と染色体の分配の解説	〃
13	1/10	発生と遺伝 メンデルの遺伝の法則、連鎖と組換え、遺伝病解説	〃
14	1/17	生命の進化 藍藻による好気的環境の出現、ミトコンドリア共生説解説他	〃
15	1/24	多様な生命の存在とその意義 多種多様な生物と地球環境	〃

テキスト・参考図書	テキスト：Mader 著 坂井・岡田監訳 「ヒューマンバイオロジー」 医学書院
-----------	---

成績・評価の方法	期末試験 70%、レポート 30%
その他（履修上の留意点）	テキストの指定した箇所をあらかじめ予習しておくこと。授業で渡したミニテストを行い復習しておくこと。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生化学		
担当教員	帯刀 益夫		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
” 生化学は、化学的手段によって生命現象を生体内の種々の分子の働きとして解明する学問である。本講義では、私達の身体がどのような物質から成り立ち、それらの物質がどのように生体機能を維持しているかを説明する。 また、特に遺伝子の働きから、細胞、組織などの生体システムがどのような機構で生命の維持に働いているか、さらには、医学全般の基礎を分子レベルで究明する学問となっていることを説明する。”			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
”・私達の身体を作っている化学物質がどのように生体機能を維持しているかを理解できる。 ・個別の代謝経路などの意味を理解できる。 ・遺伝子の働きの原理を理解できる。 ・体の生理的な活動と生化学的な反応や遺伝子の働きを結び付けて理解できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		生体の成り立ちと生体分子	帯刀 益夫
2		タンパク質の性質	〃
3		酵素の性質と働き	〃
4		糖質の代謝	〃
5		脂質の代謝	〃
6		アミノ酸及びタンパク質の代謝	〃
7		核酸の役割	〃
8		ホルモン	〃
9		ビタミン	〃
10		内部環境の恒常性 ホメオスタシス	〃
11		消化吸収と栄養価	〃
12		体液	〃
13		血液	〃
14		尿	〃
15		免疫系・運動系・消化器系	〃

テキスト・参考図書	テキスト：分かりやすい生化学 疾病と代謝・栄養の理解のために 石黒伊三雄・篠原力雄 監修 斎藤邦明 編集 スーベルヒロカワ
成績・評価の方法	期末試験 7 0 % レポート 3 0 %
その他（履修上の留意点）	

	細部の知識と全体像を合わせて理解すること。 判らないことがあったらいつでも質問すること。 疑問を感じたことを具体的な質問の形にまとめてみる習慣を身につけること。
--	---

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	体育実技		
担当教員	藤田 育郎		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実験・実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
全人的な人間形成に必要な身体運動に関する科学的な知識と、筋・心肺機能についての特性を理解し、それぞれの機能の維持や向上を図るための基本的な知識を身につけ、実技を行う。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
1. 健康や体力の意義について理解し、それらを維持・向上させるための実践力を身につけることができる。 2. 各種の運動を通して、チーム医療に通じるコミュニケーションやチームワークの能力を養うことができる。	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/4	オリエンテーション；授業の進め方等について	藤田育郎
2	10/11	体づくり運動：コミュニケーションゲーム	〃
3	10/18	体づくり運動：巧みな動きを身につける運動	〃
4	10/25	体づくり運動：体力を高める運動	〃
5	11/1	ネット型スポーツ：ソフトバレーボール	〃
6	11/8	ネット型スポーツ：バドミントン	〃
7	11/15	ネット型スポーツ：卓球	〃
8	11/22	ゴール型スポーツ：タグラグビー	〃
9	11/29	ゴール型スポーツ：フラッグフットボール	〃
10	12/6	ゴール型スポーツ：スライドサッカー	〃
11	12/13	ベースボール型スポーツ：ティーボール	〃
12	12/20	ニュースポーツ：ペタンク	〃
13	1/10	ニュースポーツ：アルティメット	〃
14	1/17	ニュースポーツ：プレルボール	〃
15	1/24	授業のまとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：特になし（適宜資料を配布する） 参 考 書：特になし（適宜資料を配布する）
成績・評価の方法	・評価配分：期末試験 100% ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	・運動に適した服装を準備すること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	体育学		
担当教員	田邊 愛子		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	1単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
ヒトの身体がどのような過程を経て大人へと成長していくかを理解することは重要なことである。そこでは単に遺伝的な素質が変容する過程としての変化ではなく、どのように才能を開花させるか、といった視点による発育発達理解が重要となる。 そこで本講義では、基本的な運動生理学を学習したうえで、成人以降の老化と体力や運動能力などの関連を理解するとともに、体力と遺伝的要因や運動の実践の有無など後天的要因との関連についても学習する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 健康と運動についての基礎的知識を学ぶ。 2. ヒトの発育発達および加齢における身体変化に応じて幅広い視点から健康に関わる分野を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/1	日本の健康づくりのための運動基準と指針	田邊 愛子
2	10/8	発育発達における各段階での運動処方	〃
3	10/15	生活習慣病予防と運動処方	〃
4	10/22	ウォーミングアップとストレッチングの基礎理論	〃
5	10/29	運動と呼吸・循環・骨格筋	〃
6	11/5	ロコモティブシンドロームと運動処方（実践含む）	〃
7	11/12	効果的なトレーニングとは 有酸素運動と無酸素運動（実践含む）	〃
8	11/19	レジスタンストレーニングの基礎理論（実践含む）	〃
9	11/26	ウォーキングの理論と実践（実践含む）	〃
10	12/3	エネルギー消費と基礎代謝	〃
11	12/10	運動処方における性差	〃
12	12/17	運動時の水分補給と体温調節	〃
13	12/24	体力と遺伝的要因	〃
14	1/7	障害予防のためのコンディショニング概論	〃
15	1/21	講義全体のまとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：授業内で必要に応じてプリント等を配布する。 参 考 書：特になし
成績・評価の方法	・評価配分：期末試験 100% ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	理解を深めるために、講義内で指示するプリントなどを使用して該当分野の予習および復習を行うこと。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	英語 I		
担当教員	伊原 巧、高橋 渉、石川 恭子		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
諸外国の保健・医療の専門職と交流、協力できる人材を育成する上で不可欠な能力である、英語の受信・発信力と異文化対応力を育成するために、英文を読む力と書く力を培うと共に、比較文化的視点から自文化と異文化への気づきを高めることによって、国際的マインドを培う。この目標を達成するために、日本人と欧米人が発想、言語、アイデンティティ、笑い、精神性等をどのように理解しているか、各分野における違いについて書かれた英文を読ませ、英文読解力を高める。次に、各分野で理解した日本と欧米の違いに対する対応法を自分の立場から英語で書かせ、英作文力と異文化対応力を高める。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
国際交流するに必要な、英文読解力と英作文力並びに異文化対応力が高まる。	

回	開講日 PT OT		講義および実習の内容	担当
1	4/5	4/9	本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価に関する解説を行なう。	伊原、 高橋、石川
2	4/12	4/16	Chapter 1を読み、挨拶に見る日欧の発想の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
3	4/19	4/23	Chapter 2を読み、日英語の難易度の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
4	4/26	5/7	Chapter 3を読み、日本人と西欧人のアイデンティティの違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
5	5/10	5/14	Chapter 4を読み、アルファベットと漢字の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
6	5/17	5/21	Chapter 5を読み、日本人と西洋人の笑いの違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
7	5/24	5/28	Chapter 6を読み、アメリカ人と日本人の精神性の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
8	5/31	6/11	Chapter 7を読み、仏教と神道と儒教の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
9	6/14	6/18	Chapter 8を読み、日本人とアメリカ人の縮みの文化に対する違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
10	6/21	6/25	Chapter 9を読み、キリスト教と仏教の死後の世界観の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
11	6/28	7/2	Chapter 10を読み、現代と将来の少子高齢化社会との違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
12	7/5	7/9	Chapter 11を読み、日本と西洋の右と左の捉え方の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
13	7/12	7/16	Chapter 12を読み、西洋の足の文化と日本の手の文化の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
14	7/19	7/23	Chapter 13を読み、西洋と日本の労働観の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃
15	7/26	7/30	Chapter 14を読み、日本の西洋化と日本文化の違いを明らかにする。違いに対する対応法を200字以上の英語で書いてきて次時に提出する。	〃

テキスト・参考図書	テキスト：「日英おもしろ文化比較」石井他編著(朝日出版)
成績・評価の方法	期末筆記試験(30%)とレポート提出(70%)：成績は60点以上を合格とする。
その他（履修上の留意点）	英語のレポートを毎回確実に提出して下さい。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	英語Ⅱ		
担当教員	伊原 巧、土屋 信子		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)

保健・医療系の大学でコメディカルを目指す学生が、専門的な医療英語への橋渡しとなる基礎的な医療英語を、実際の保健・医療現場や諸外国の専門職との国際交流や協力の場で使えるように、生きた医療英語の総合的なコミュニケーション能力を培う。

この目標を達成するために、リハビリテーションに焦点をあて、“Physical Therapy” や “Occupational Therapy” などの医療系特有のトピックを扱った英文を読ませると共に、それらの英文を用いて口頭でのコミュニケーションができるようにリスニング力とスピーキング力を高める。

学 習 目 標 (行 動 目 標)

リハビリテーションを扱った英文が読めるようになると共に、患者さんとの簡単なコミュニケーションを英語でできるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/1	本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、課題、成績・評価等に関する解説を行なう。	伊原、土屋
2	10/8	Chapter 1 Higher Brain Dysfunction: Warm-up, Reading, Dialogue を行なう。宿題を出す。	伊原、土屋
3	10/15	宿題の解答を行ない、Chapter 2 Parkinson's Disease: Warm-up, Reading, Dialogue を行なう。宿題を出す。	伊原、土屋
4	10/22	宿題の解答を行ない、Chapter 3 Osteoporosis: Warm-up, Reading, Dialogue を行なう。宿題を出す。	伊原、土屋
5	10/29	主題の解答を行ない、Chapter 4 Cerebral Apoplexy(stroke): Warm-up, Reading, Dialogue を行なう。宿題を出す。	伊原、土屋
6	11/5	宿題の解答を行い、Chapter 5 Cardiovascular Disease: warm-up, Reading, Dialogue を行なう。宿題を出す。	伊原、土屋
7	11/12	宿題の解答を行ない、Chapter 6 Diabetes Mellitus(DM): warm-up, Reading, Dialogue を行なう。宿題を出す。	伊原、土屋
8	11/19	Chapter 1～6 のまとめ	伊原、土屋
9	11/26	宿題の解答を行い、Chapter 7 Respiratory Disease: warm-up, Reading, Dialogue を行なう。宿題を出す。	伊原、土屋
10	12/3	主題の解答を行い、Chapter 8 Chronic Rheumatoid Arthritis: warm-up, Reading, Dialogue を行なう。宿題を出す。	伊原、土屋
11	12/10	宿題の解答を行い、Chapter 9 Femoral Neck Fracture: warm-up, Reading, Dialogue を行なう。宿題を出す。	伊原、土屋
12	12/17	宿題の解答を行い、Chapter 10 Spinal Cord Injury: warm-up, Reading, Dialogue を行なう。宿題を出す。	伊原、土屋
13	12/24	宿題の解答を行ない、Chapter 11 Cerebral Palsy: warm-up, Reading, Dialogue を行なう。宿題を出す。	伊原、土屋
14	1/7	宿題の解答を行ない、Chapter 12 Case Study: Case Study Report を読み、患者プロフィールに要点を記入し、Conference を行なう。	伊原、土屋
15	1/21	Chapter 7～12 のまとめ	伊原、土屋

テキスト・参考図書	テキスト：『The Art of Healing』 荒金房子他著 南雲堂
-----------	--------------------------------------

成績・評価の方法	期末筆記試験(36%)、課題点(24%)、まとめの作業点(40)%
その他（履修上の留意点）	しっかりと宿題を行なってくること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	英語Ⅲ		
担当教員	伊原 巧		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
人間社会にあるいくつかの問題点について、賛成の立場と反対の立場から書かれた意見を英文で読み、自分の立場から考えた意見を、200 語以内の英語にしてレポートで次時に提出する。合計 14 回提出する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
社会問題を英語で読めるようになるとともに、深く考え、その内容を英語で書けるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション（授業の目標、進め方などについて説明する）	伊原 巧
2		Chapter 1 Animals in Zoos を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
3		Chapter 2 Security Cameras を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
4		Chapter 3 Can Customer Service Go Too Far? を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
5		Chapter 4 Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
6		Chapter 5 Wemenomics を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
7		Chapter 6 Extreme Sports を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
8		Chapter 7 Casinos and Gambling を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
9		Chapter 8 Spouse Hunting を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
10		Chapter 9 Space Exploration を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
11		Chapter 10 Becoming a World Heritage Site を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
12		Chapter 11 Driverless Cars を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
13		Chapter 12 The Lay-Judge System in Japan を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
14		Chapter 13 Artificial Intelligence を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃
15		Life-Prolonging を読み、ディスカッションの後に宿題を出す。	〃

テキスト・参考図書	「Taking Sides: Opinions For and Against」
成績・評価の方法	レポート提出点(14 回×6 点=84 点) 期末試験(16 点)
その他（履修上の留意点）	毎回、確実にレポートを提出して下さい。 期末試験は単語のテストです。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	医学英語 I		
担当教員	伊原 巧、高橋 渉		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
初めて医学英語に接する医学・医療技術系の大学生が、専門的な医学英語への橋渡しとなる基礎的な医学英語を理解する力を培う。 この目標を達成するために、医学・医療の基本である人体の主要な組織や器官や機能について解説した専門図書を読むことによって、その内容、及びそれぞれの医学用語を理解すると共に、日常英語とは異なる医学英語の特徴、特にほとんどがギリシャ語、ラテン語からの借入である医学用語特有の構成パターンを学び、医学英語に慣れることを目指す。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
医学用語が理解できると共に、基礎的な医学英語が読めるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		本授業の目標と概要、使用するテキスト、授業の進め方、まとめ、成績・評価等に関する解説を行なう。	伊原巧、高橋渉
2		CHAPTER 1 The Human Body	〃
3		CHAPTER 2 The Skeletal System と人体に関する単語テスト	〃
4		CHAPTER 2 The Skeletal System	〃
5		CHAPTER 3 The Muscular System と骨格系に関する単語テスト	〃
6		CHAPTER 3 The Muscular System	〃
7		CHAPTER 4 The Circular System と筋肉系に関する単語テスト	〃
8		CHAPTER 4 The Circular System	〃
9		CHAPTER 6 The Respiratory System	〃
10		CHAPTER 9 The Nervous System	〃
11		CHAPTER 9 The Nervous System	〃
12		CHAPTER 10 The Sense Organs	〃
13		CHAPTER 10 The Sense Organs	〃
14		CHAPTER 13 Aging and the end of life と CHAPTER 4, 6, 9, 10 に関する単語テスト	〃
15		CHAPTER 13 Aging and the end of life	〃

テキスト・参考図書	テキスト：「医療従事者のための医学英語入門」 清水雅子著 講談社
成績・評価の方法	期末筆記試験(60%)、単語テスト(40%)
その他（履修上の留意点）	予習を必ず行なってくるとともに、「医学英語の常識」も読んでくること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	医学英語Ⅱ		
担当教員	伊原 巧		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
障害に関する国際情勢、海外協力の在り方を理解させる上で不可欠な、リハビリテーションに関わる WHO 発行の英語文献を、英語での議論を交えて精読させ、その内容を理解させると共に、医学英語の読解力と英語運用力の向上を目指す。 この目標を達成するために、WHO が 2010 年に発表した「CBR(地域に根ざしたリハビリテーション) ガイドライン」の英語版を、英語での議論を時折交えながら深く読んでいくことで、障害に関する国際情勢、海外協力の在り方に対する理解を深める。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
英語で書かれた専門的な文献が深く読めるようになると共に、簡単な英語で専門的な議論ができるようになる。また、障害とリハビリテーションに関する国際情勢と、海外協力の在り方に対する理解が深まる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーションを行ない、文献の Introduction を読む。	伊原 巧
2		BOX23 Kenya の Forging public-private partnership を英語を交えながら読む。	〃
3		BOX 23 Kenya の Key concepts: Rehabilitation, Rehabilitation interventions を英語を交えながら読む。	〃
4		BOX 23 Kenya の Key concepts: Rehabilitation, Rehabilitation interventions を英語を交えながら読む。	〃
5		BOX 24 China: Li' s journey to independence を英語を交えながら読む。	〃
6		BOX 24 China: Suggested activities を英語を交えながら読む。	〃
7		BOX 24 China: Suggested activities を英語を交えながら読む。	〃
8		これまで理解したことを英語で発表し、議論する。	〃
9		BOX 25 Iran を英語を交えながら読む。	〃
10		BOX 26 Egypt を英語を交えながら読む。	〃
11		BOX 27 Guyana を英語を交えながら読む。	〃
12		BOX 28 Viet Nam を英語を交えながら読む。	〃
13		BOX 29 India を英語を交えながら読む。	〃
14		BOX 30 Viet Nam を英語を交えながら読む。	〃
15		これまで理解したことを英語で発表し、議論する。	〃

テキスト・参考図書	テキスト：プリント配布
成績・評価の方法	期末試験(60%)、発表(40%)
その他（履修上の留意点）	かなり専門的な内容なのでしっかりグループ予習をしてくること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	医学英語Ⅲ		
担当教員	伊原 巧		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
リハビリテーションに関する専門的な英語を読んで内容を理解する。医学英語をパーツと語源で理解し覚える。受講者は、将来、専門書を英語で読んだり、大学院進学を希望したりする人が望ましい。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
リハビリテーションに関する専門的な英語を読んで内容を理解できるようになる。医学英語の語彙が増える。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		Unit 1 Femoral Neck Fracture	
2		Unit 2 Osteoarthritis of the Knee	
3		Unit 3 Rheumatoid Arthritis	
4		Unit 4 Colles' Fracture	
5		Unit 5 Locomotive Syndrome	
6		Unit 6 Chronic Lower Back Pain	
7		Unit 7 Spinal Cord Injury	
8		医学英語の基礎知識の復習	
9		Unit 8 Adjustment Disorder and Symptomatic Depression	
10		Unit 9 Parkinson' s Disease	
11		Unit 10 Cerebrovascular Disease	
12		Unit 11 Dementia	
13		Unit 12 Diabetes Mellitus	
14		Unit 13 COPD	
15		Unit 14 Cerebral Palsy	

テキスト・参考図書	テキスト：リハビリテーション英語テキスト 細田多徳 監修 南江堂
成績・評価の方法	期末試験(70%)、医学英単語試験(30%)
その他（履修上の留意点）	しっかり予習をしてきて、読解力と医学英単語力をつけてほしい。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	ハングル		
担当教員	高橋 比紗子		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
ハングルは朝鮮半島を中心に話されている言葉で、文法や単語など日本語と共通する部分の多い言語である。そのため日本人にとって最も簡単で学びやすい外国語と言われている。ハングルの文字や仕組みや発音、基礎的な文法を習得した上で、最終的には日常的な会話が可能になるレベルを目指す。多くの学生に発言する機会を与え、対話形式で進めていくことで、積極的に授業に参加できる環境づくりを目指す。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 積極的に学習する姿勢 2. 異文化言語に興味を持つ

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/4	韓国語について・ハングル文字の仕組み・基本母音	高橋比紗子
2	10/11	基本子音・複合母音	〃
3	10/18	パッチム・復習・簡単な挨拶	〃
4	10/25	発音の変化・基礎編終了	〃
5	11/1	実践編・自己紹介	〃
6	11/8	代名詞・位置名詞	〃
7	11/15	助詞	〃
8	11/22	指定詞・存在詞	〃
9	11/29	用言（動詞・形容詞）	〃
10	12/6	数詞・曜日	〃
11	12/13	時間	〃
12	12/20	用言の否定形	〃
13	1/10	連用形・会話体（～아요, ～어요, ～해요）	〃
14	1/17	過去形	〃
15	1/24	復習	〃

テキスト・参考図書	テキスト：初回講義で指示 参 考 書：
成績・評価の方法	・評価配分：期末試験 100% ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。
その他 (履修上の留意点)	学習意欲を持って臨むこと

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	中国語		
担当教員	張 淑華		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
グローバル化が益々進む国際社会の影響を受け、多文化や異文化に対する理解を深める必要があるし、医療現場に対応するための中国語の基礎を学ぶ必要もあると思う。 目標：①中国語の基礎を理解し、身につけることができる。②中国語による実用且つ簡単な会話ができる。③異文化に触れることにより、国際交流に関心を寄せることができる。 講義内容では、基礎発音、基本文法、自己紹介や日常会話の表現等学ぶ。さらに、両国の文化や風俗習慣の違い等についても、紹介・比較する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 伝統文化の紹介等を通して、異文化への理解を深め、コミュニケーションがとれる。 2. 中国語の基礎を学び、ある程度の知識を身につけることができる。 3. 自己紹介、挨拶表現、院内や道案内、患者と医者との会話等を学び、活用できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/1	中国と中国語の概論等	張 淑華
2	10/8	基礎発音や自己紹介の言い方等	〃
3	10/15	基礎発音、声調等①	〃
4	10/22	人体各部の名称等①②	〃
5	10/29	数字の数え方等②③	〃
6	11/5	挨拶表現や家族親戚関係の言い方等③	〃
7	11/12	伝統文化の紹介(羽根けりやヤング踊り等で広い教室、ヘッドフォンタイプのマイク、パソコンが必要)	〃
8	11/19	医者にかかる時の会話等④	〃
9	11/26	道案内等④⑤	〃
10	12/3	漢詩の朗読や料理についての表現⑤⑥	〃
11	12/10	文法、辞書の引き方等⑥⑦	〃
12	12/17	時間の言い方や買い物の値段交渉等⑦	〃
13	12/24	ワンタン作り(料理が作れる教室)	〃
14	1/7	今期で学んだ内容についての復習とまとめ	〃
15	1/21	テスト実施	〃

テキスト・参考図書	テキスト：『日常会話で学ぶ-初級中国語』 ほおずき書籍 2016 年 2 月 18 日発行 著者：張淑華 参考書：『中日辞典』、『日中辞典』等
-----------	---

成績・評価の方法	試験（80％）、授業態度や出席状況等（20％）
その他（履修上の留意点）	予習、復習を欠かさず、出席すること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	スペイン語		
担当教員	橋本 エリサ		
配当年次	1年次	配当学期	後期
年間授業回数	15回	単位数	2単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
スペイン語は現在、世界の20ヶ国の公用語として使用されている。スペイン及びメキシコやコスタリカ等の中央アメリカと南米、赤道ギニアとアメリカ合衆国でも話されている地域がある。スペイン語には母音が日本語と同じようにa, e, i, o, uと五つあり、発音は日本語に近く読み方もアルファベット通りであるため、日本人にとっては学びやすい言語である。この科目では基本的な文法と簡単なコミュニケーション能力の習得をめざす。ビデオ映像も利用しつつ基本的スペイン語能力を獲得し、異文化理解に基づき国際感覚を育成することをめざす。言葉の歴史的背景やそれぞれの国々の文化を学び、人生を豊かにする。			
学 習 目 標 (行 動 目 標)			
1. スペイン語圏の文化や考え方を理解し、国際感覚を持つことができるようにする。 2. スペイン語での日常コミュニケーションができるようになる。 3. 自己紹介から始め、大学や家での日々の生活について、正しいスペイン語を使って口頭でも筆記でも表現できるようになる。 4. この授業は基本的文法の習得が目的です。受信だけではなく発信にも使えるような文法力を習得するのが具体的なねらいです。日常会話も取り入れて練習します。 5. スペイン語圏の国々の文化的背景に触れながら進めていきます。			
回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/4	ガイダンス。スペイン語はどんな言語。	橋本エリサ
2	10/11	アルファベット発音の基礎。あいさつ。	〃
3	10/18	名詞。男性名詞、女性名詞、名詞の数。	〃
4	10/25	主語代名詞、スペイン語のBE動詞SER, 自己紹介。	〃
5	11/1	スペイン語のBe動詞SER。出身地について	〃
6	11/8	時間の表現、形容詞	〃
7	11/15	職業	〃
8	11/22	疑問詞、(qué, quién, dónde, cuándo, cuánto)疑問文、肯定文、否定文	〃
9	11/29	動詞Tener (家族の表現)	〃
10	12/6	動詞Tener	〃
11	12/13	BE動詞Estar 大学について	〃
12	12/20	BE動詞Estar	〃
13	1/10	動詞Haber (hay)	〃
14	1/17	規則動詞Ar, Er, IR。自己紹介	〃
15	1/24	総復習、自己紹介の発表。	〃
テキスト・参考図書	テキスト：授業時に紹介。 参考書 1. 高垣敏博、大森洋子編：ポケットプログレッシブスペイン語辞典 小学館		
成績・評価の方法	・評価配分：期末試験 50%、小テスト・単語テスト・提出物 50% ・成績評価：総得点60点以上を合格とする。		
その他 (履修上の留意点)	予習、復習を必ず行ってください。教科書と辞書は毎回持参してください。 スペイン語の基本的文法、基本的会話を学習します。スペイン語に馴染むことから初めて、スペイン語の文字のエンタネーションからスペイン語の基礎を身に付けていきます。この授業ではペアやグループでの会話練習、聴き取り、筆記練習などを進めていきます。授業の進度によって変わることもあります。この授業では一課終わるごとに小テストをします。DVD映像を用いてスペイン語圏の文化に触れていきます。		

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学Ⅰ（総合）		
担当教員	牧野 睦月		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
神経系に重点を置きつつ、解剖学全般を学ぶ（骨・関節・骨格筋の各論は除く）。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 基礎的な人体の正常構造を説明できる。 2. 末梢神経・中枢神経の構造と機能を説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/11	解剖学総論・呼吸器系	牧野 睦月
2	4/18	呼吸器系	〃
3	4/25	消化器系	〃
4	5/9	〃	〃
5	5/16	泌尿器・生殖器系	〃
6	5/23	内分泌系	〃
7	5/30	神経系総論	〃
8	6/13	脊髄	〃
9	6/20	中枢神経 脳幹・小脳	〃
10	6/27	〃	〃
11	7/4	中枢神経 大脳	〃
12	7/11	〃	〃
13	7/18	中枢神経 神経路	〃
14	7/25	〃	〃
15	8/1	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：「ネッター解剖学アトラス」南江堂 「標準理学療法学・作業療法学 解剖学」医学書院
成績・評価の方法	筆記試験 8 0 %、授業態度 2 0 %
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学Ⅱ（総合）		
担当教員	川口 研二		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
神経系に重点を置きつつ、解剖学全般を学ぶ（骨・関節・骨格筋の各論は除く）。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 基礎的な人体の正常構造を説明できる。 2. 末梢神経・中枢神経の構造と機能を説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/3	骨	川口 研二
2	10/10	関節靭帯	〃
3	10/17	筋	〃
4	10/24	筋	〃
5	10/31	末梢神経系 脊髄神経	〃
6	11/7	〃	〃
7	11/14	末梢神経系 脳神経	〃
8	11/21	〃	〃
9	11/28	末梢神経系 自律神経	〃
10	12/5	感覚器系	〃
11	12/12	循環器系 心臓	〃
12	12/19	循環器系 動静脈	〃
13	1/9	〃	〃
14	1/16	循環器系 リンパ管	〃
15	1/23	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：「ネッター解剖学アトラス」南江堂 「標準理学療法学・作業療法学 解剖学」医学書院
成績・評価の方法	筆記試験 8 0 %、授業態度 2 0 %
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学実習（人体解剖観察）		
担当教員	森泉 哲次、福島 菜奈恵、掛川 晃		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
1 年を通じて学習してきた解剖学のまとめとして、運動器・神経系（脳を含む）を中心に人体解剖実習（観察）を行う。人体の正常構造を理解するとともに、ご遺体を通して生命の尊厳・医の倫理を学ぶ。実習室に設けられたご遺体ごとに解剖の進行度が異なっている。テーブルを順にまわって観察する。 内臓（全身） 内臓摘出標本 中枢神経（概観） 中枢神経（内部構造・断面） 末梢神経 脈管 腹側（浅層筋・深層筋） 背側（浅層筋・深層筋） 関節 事前オリエンテーション 1 日目 オリエンテーション・観察実習 1 2 日目 観察実習 2 ・ 観察実習 3 3 日目 実習試験			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 基礎的な人体の正常構造を説明できる。 2. 実習を通して、生命の尊厳・医の倫理について学ぶ。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	2/12	オリエンテーション・観察実習 1	森泉 哲次 他
2			〃
3			〃
4			〃
5			〃
6	2/13	観察実習 2・観察実習 3	〃
7			〃
8			〃
9			〃
10			〃
11	2/14	実習試験	〃
12			〃
13			〃
14			〃
15			〃

テキスト・参考図書	テキスト： 参考書：
成績・評価の方法	実習試験（100問）100%
その他（履修上の留意点）	献体の意義を理解し、真摯な態度で実習に参加すること。事前配布資料を参考に、しっかりと予習してくること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生理学 I		
担当教員	三井 由香		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
生理学は解剖学とともに、医学の基礎となる科目である。生理学では人体の正常な機能がどのような仕組みで行われているかを学び、生理学的な思考方法を身につける。 生理学 I では生命の最小単位である細胞の機能から、血液・循環・呼吸・消化吸収・代謝・排泄機能について学ぶ。生きているとはどういうことか、生理学的に考えられるようになってほしい。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
人体の生理機能、特に細胞、内臓の生理機能とその調節について学び、生きている仕組みの基本を説明できる。 1, 細胞の生理機能、細胞膜による物質制御の仕組みを説明できる。 2, 血液の生理機能について説明できる 3, 循環器系の生理機能について説明出来る 4, 呼吸器系の生理機能について説明出来る 5, 代謝・体温調節について説明出来る 6, 消化・吸収の生理機能について説明出来る 7, 排泄の生理学的機能について説明出来る

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/10	細胞生理学	三井 由香
2	4/17	細胞膜の生理学	〃
3	4/24	血液 I	〃
4	5/8	血液 II	〃
5	5/15	血液 III	〃
6	5/22	心臓・循環 I	〃
7	5/29	心臓・循環 II	〃
8	6/12	呼吸 I	〃
9	6/19	呼吸 II	〃
10	6/26	消化・吸収 I	〃
11	7/3	消化・吸収 II	〃
12	7/10	消化・吸収 III	〃
13	7/17	代謝・体温	〃
14	7/24	体液・排泄 I	〃
15	7/31	体液・排泄 II	〃

テキスト・参考図書	テキスト：「生理学テキスト 第8版 文光堂 2017」大地陸男 参考書：「シンプル生理学 改訂第7版 南江堂 2016」貴邑富久子 根来英雄
-----------	--

	「好きになる生理学 講談社 2003」田中越郎 「生理学 理工図書 2017」桑名俊一・荒田晶子 「生理学トレーニングノート 医学教育出版社 2013」生理学 TN 編集委員会，竹内修二
成績・評価の方法	試験 90%，小テスト 10%
その他（履修上の留意点）	生理学の内容は積み上げ型であり，前に講義した内容に新しい内容が積み上がっていきます。疑問点を放置することなく，調べる，聞きに来るなどして解決し，次に進んでください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生理学Ⅱ		
担当教員	三井 由香		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
生理学は解剖学とともに、医学の基礎となる科目である。生理学では人体の正常な機能がどのような仕組みで行われているかを学び、生理学的な思考方法を身につける。 生命の恒常性の維持は、内分泌系と神経系により行われる。生理学Ⅱでは内分泌系と、神経系・運動系・感覚系・脳の統合作用について学び、運動機能や感覚機能が神経を介して脳により統括されることを理解する。生きているとはどういうことかを生理学的に考えられるようになってほしい。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
人体の生理機能、特に恒常性の維持にかかわる内分泌系と神経系、運動系、感覚系、脳の統合作用について学び、生きている仕組みの基本を説明できる。 1、内分泌系による恒常性の維持の仕組みを説明できる 2、神経の活動電位発生と伝導の仕組みを説明できる 3、筋の生理機能と神経筋伝達について説明できる 4、神経系の生理機能について説明出来る 5、運動系の生理機能について説明できる 6、感覚系の生理機能について説明できる 7、脳の統合作用について説明できる	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/2	内分泌Ⅰ	三井 由香
2	10/9	内分泌Ⅱ	〃
3	10/16	興奮の発生と伝導	〃
4	10/23	骨格筋の収縮	〃
5	10/30	シナプス伝達	〃
6	11/6	神経系Ⅰ	〃
7	11/13	神経系Ⅱ	〃
8	11/20	神経系Ⅲ	〃
9	11/27	運動系Ⅰ	〃
10	12/4	運動系Ⅱ	〃
11	12/11	運動系Ⅲ	〃
12	12/18	感覚系Ⅰ	〃
13	1/8	感覚系Ⅱ	〃
14	1/15	感覚系Ⅲ	〃
15	1/22	脳の統合作用	〃

テキスト・参考図書	テキスト：「生理学テキスト 第8版 文光堂 2017」大地陸男 参考書：「シンプル生理学 改訂第7版 南江堂 2016」貴邑富久子 根来英雄 「好きになる生理学 講談社 2003」田中越郎 「生理学 理工図書 2017」桑名俊一・荒田晶子 「生理学トレーニングノート 医学教育出版社 2013」生理学 TN 編集委員会，竹内修二
成績・評価の方法	試験 90%，小テスト 10%
その他（履修上の留意点）	生理学の内容は積み上げ型です。前に講義した内容に新しい内容が積み上がっていきます。疑問点を放置することなく，調べる，聞きに来るなどして解決し，次に進んでください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生理学実習		
担当教員	三井 由香 他		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	30 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
生理学で確立されている機序や理論はいずれも実験や観察に基づいて得られたものである。生理学実習では学生自らがいくつかの実験に携わり、生物の法則がどのようにして得られるか、また生き物や実験装置の取り扱いにはいかに留意すべきかなどの多くを体験する。血圧、感覚、呼吸、末梢神経、骨格筋の各実験で得られた現象を自らの眼で確認し、生理学の講義で習得した知識についてさらに理解を深め、実験の考察を通して生理学的な思考方法を学ぶ。また講義では、生理学の発展的内容である恒常性の破綻としての疾病のいくつかを重点的に取り上げ、恒常性維持の重要性に対する理解を深める。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
1, カエルの坐骨神経を用いて、活動電位の伝導機序と特徴を理解する。 2, カエルの腓腹筋を用いて、筋収縮機序と特徴を理解する。 3, 呼吸機能測定を通じ、肺気量の区分と、換気障害について理解する。 4, 血圧測定を習得し、体位変換や運動時における血圧の変化、調節について理解する。 5, 2 点弁別の実習を通じ、感覚受容の機序を理解する。 6, 脂質異常症、糖尿病、骨疾患、浮腫、黄疸、酸塩基平衡異常など、恒常性の破綻による疾患について理解する。	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		入門1 実習オリエンテーション	三井 由香
2		〃	三井 由香
3		入門2 実習デモンストレーション	全員
4		〃	全員
5		実習1回目 神経束の活動電位Ⅰ	全員
6		〃	全員
7		講義 生理的に重要な脂質	三井 由香
8		〃 脂質代謝と内分泌、脂質異常症	三井 由香
9		実習2回目 神経束の活動電位Ⅱ	全員
10		〃	全員
11		講義 臓器間のつながり-摂食時、絶食時、糖尿病	三井 由香
12		〃 骨の生理学、骨成長とリモデリング、骨疾患	三井 由香
13		実習3回目 骨格筋の収縮	全員
14		〃	全員
15		講義 微小循環、膠質浸透圧とその異常	三井 由香
16		〃 浮腫	三井 由香
17		実習4回目 呼吸運動	全員
18		〃	全員

19		講義 貧血と赤血球破壊	三井 由香
20		〃 ビリルビン代謝, 黄疸	三井 由香
21		実習 5 回目 感覚(2 点弁別)	全員
22		〃	全員
23		講義 生体と水, 無機質, 体液の酸塩基平衡	三井 由香
24		〃 酸塩基平衡異常	三井 由香
25		実習 6 回目 血圧の測定	全員
26		〃	全員
27		講義 実習の統括 I	三井 由香
28		〃 実習の統括 II	三井 由香
29		実習発表会 各実習項目の発表	全員
30		〃	

テキスト・参考図書	テキスト：「生理学実習マニュアル」（長野保健医療大学版） 大地陸男：生理学テキスト 第 8 版 文光堂，2017 参考書：真島英信：生理学（18 版），文光堂，1990 貴邑富久子，根来英雄：シンプル生理学 改訂第 7 版，南江堂，2016
成績・評価の方法	レポート 70%，試験 30%
その他（履修上の留意点）	本実習では生理学で学んだことがベースとなるので，生理学の該当箇所の復習をしておく。また予め実習書を読んで，自分なりの疑問点を得てから実習に臨むと，実り多い実習となる。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	人間発達学		
担当教員	外里 富佐江、福田 恵美子		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
人間を統合的存在として捉え、発達という観点から、地域で生活する人の視点で、小児期、成人期、老年期の全生涯を理解する。さらに、ライフサイクルの絡み合いとしての同世代・異世代間の相互的な人間形成や、その背景をなす社会や時代の特性を理解する。（オムニバス方式／全15回） 胎児から学童期までの発達を理解し、人間形成やその背景をなす社会や時代の特性を学ぶ。（福田恵美子／6回） 成人期から老年期までの発達を理解し、人間形成やその背景をなす社会や時代の特性を学ぶ（外里富佐江／9回）			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
1. 人間発達とその意義を説明できる。 2. 発達理論とその歴史を説明できる。 3. 人間のライフステージにおける発達過程を説明できる。 4. 人間のライフステージにおける取り組んでいる課題を説明できる。 5. ライフサイクルの人間形成と社会的背景の特性を説明できる。	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/3	人間発達の概念の歴史的変遷 (SB0 1, 2)	外里
2	10/10	先人たちの発達理論概要 (SB0 1, 2)	福田
3	10/17	胎芽・胎児期の発達 (SB0 3)	福田
4	10/24	新生児期の発達 (SB0 3)	福田
5	10/31	乳児期の発達 (SB0 3)	福田
6	11/7	幼児期の発達 (SB0 3)	福田
7	11/14	乳幼児期の神経成熟 (SB0 3, 4)	福田
8	11/21	まとめ 1 (SB0 1-4)	外里
9	11/28	学童期の発達 取り組んでいる課題 (SB0 3, 4, 5)	外里
10	12/5	青年期の発達 取り組んでいる課題 (SB0 3, 4, 5)	外里
11	12/12	成人期の発達 取り組んでいる課題 (SB0 3, 4, 5)	外里
12	12/19	高齢期の発達 取り組んでいる課題 (SB0 3, 4, 5)	外里
13	1/9	視覚・眼球運動・ハンドスキル能力 (SB0 3, 4, 5)	外里
14	1/16	聴覚言語, 心理・社会的能力 (SB0 3, 4, 5)	外里
15	1/23	まとめ 2 (SB0 3, 4, 5)	外里

テキスト・参考図書	テキスト：福田恵美子編集「人間発達学 第4版」 中外医学社 参考図書：十束支朗著「発達と老化の理解」 医学出版社 奈良勲，鎌倉矩子監修「標準作業療法学・作業療法学 人間発達学」医学書院 竹下研三著「人間発達学」中央法規
-----------	--

成績・評価の方法	試験60％，レポート40％
その他（履修上の留意点）	リハビリテーションの基礎となる授業であるため，積極的な参加を求める．

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	病理学		
担当教員	加藤 正裕		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
授業では、「疾病（病気）」の原因、病型の分類、発生メカニズム、実像（形態・構造変化）、経過と転帰などについて病理総論を中心とした基礎を学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 基本的なテクニカルタームを習得し、臨床科目の理解に活かせるようにする。
2. 患者の臨床情報（診断、病歴、予後、問題点等）の把握や疾病特性の理解ができるようにする。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		病理学オリエンテーション・病因論	加藤 正裕
2		退行性病変・進行性病変	〃
3		代謝障害	〃
4		循環障害（1）	〃
5		循環障害（2）	〃
6		炎症（1）	〃
7		炎症（2）	〃
8		感染症	〃
9		免疫異常（1）	〃
10		免疫異常（2）	〃
11		腫瘍（1）	〃
12		腫瘍（2）	〃
13		腫瘍（3）	〃
14		先天異常（1）	〃
15		先天異常（2）	〃

テキスト・参考図書	テキスト：梶原博毅、横井豊治（編）： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版 医学書院、2017 年 参考書 監修：秦順一、坂本穆彦 編集：北川昌彦、仁木利郎 標準病理学、第5版、医学書院、2015 年
成績・評価の方法	期末試験 100%
その他（履修上の留意点）	復習に注力すること／マイノートを作成し自ら学習を演出すること／質問すること！

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	医用画像解析学		
担当教員	金物 壽久、外間 政信		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
リハビリテーション医療での以下に示す主たる対象疾患の X-P, CT, MRI, SPECT などの画像について、読影の基本を学び、対象患者の病変の部位と性質と症状との関連性を理解できる能力を養う。また、四肢軟部の超音波検査について原理と読影法を学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
リハビリテーションを実施してゆくうえで必要な、全身の代表的な疾患の臨床画像診断法を学ぶ。これによりより実践的に患者の状態を理解出来るようになる。なお、授業での画像読影はあくまでも基礎であり、実習の場において積極的に画像を見、質問をして理解し、経験を積むことが目標である。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		レントゲン読影の基礎、CT、MRIの見方、各種造影法の理解	金物 壽久
2		体幹(脊椎、骨盤)の各種画像の読影	〃
3		上肢、下肢の外傷、疾患の画像診断、単純レントゲン	〃
4		上肢、下肢の外傷、疾患の画像診断、MRI、CT	〃
5		頭部画像読影の基本	外間 政信
6		虚血性脳神経疾患の画像診断	〃
7		出血性脳神経疾患の画像診断	〃
8		脳腫瘍・神経外傷・中枢感染症・神経中毒の画像診断	〃

テキスト・参考図書	テキスト：「病気がみえる」 脳・神経（メディックメディア） 救急での頭部画像の読み方（羊土社） 参考書：骨・関節 X 線写真の撮りかたと見かた（医学書院） メディカルノート画像診断 小川敏英（西村書店）
成績・評価の方法	試験 100%。場合によりレポート提出を求める
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	臨床薬理学		
担当教員	帯刀 益夫		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
薬理学は、生体と外界の化合物（薬）との相互作用の結果生じる現象を研究する学問である。本講義では、まず、薬理作用を理解するための生物学的な基礎知識の習得に重点を置き、分子レベル、細胞レベル、個体レベルで、薬の作用のメカニズムを説明する。 また、薬の体の中で動態、有害反応を学ぶことにより、臨床講義や実習で必要とされる薬物治療の基礎を習得できることを目指す。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
”・人の身体の生理学や代謝の原理的理解を基盤として、医薬等が、どのような薬理作用を示すか、その作用機構について理解できる ・個々の医薬品について具体例をもってその作用を理解できる。 ・医薬品による医療事故、サプリメント、食品の安全などについて、原理的に、人の身体に外から投入された物質と身体の相互作用に基づいていることを理解できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		薬の基礎知識	帯刀 益夫
2		消化器系の薬	〃
3		循環器・血液系、代謝・内分泌系の薬	〃
4		呼吸器系、アレルギーの薬	〃
5		脳・神経系の薬	〃
6		がんの薬	〃
7		感染症の薬	〃
8		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：丸山 敬：これならわかる！薬理学（史上最強図解），ナツメ社
成績・評価の方法	期末試験 70% レポート30%
その他（履修上の留意点）	細部の知識と全体像を合わせて理解すること。 判らないことがあったらいつでも質問すること。 疑問を感じたことを具体的な質問の形にまとめてみる習慣を身につけること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	栄養管理学		
担当教員	東方 千恵美		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
リハビリテーションの効果は個々人の栄養状態によって左右される。 故にリハビリテーションと栄養管理を同時に行うことで機能やADL, QOL をより改善することを学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. リハビリテーション栄養の必要性を学び理解できる 2. リハビリテーション効果を高める栄養管理・栄養療法について学び、理解できる 3. リハビリテーション栄養の実践を学び理解できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		リハビリテーション栄養の必要性	東方 千恵美
2		低栄養の評価と原因	〃
3		適切な栄養管理	〃
4		栄養状態に応じたリハビリテーションの目標設定	〃
5		〃	〃
6		リハビリテーション効果を高める栄養療法	〃
7		リハビリテーション栄養の実践	〃
8		まとめ	〃

テキスト・参考図書	リハビリテーション栄養ポケットマニュアル 日本リハビリテーション栄養学会監修/若林秀隆編著 医歯薬出版
成績・評価の方法	
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	救急救命医学		
担当教員	柳谷 信之		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
理学療法士・作業療法士にとっての、救急医療、災害医療の基本的な概念を理解し、必要な手技をおこなえるようにする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 救急医療の初期医療についての概念を理解する。 2. バイタルサインの意味を理解し、その観察と評価について理解する。 3. 一次救命処置が行えるようにする。 4. 外傷初期診療の概念を理解する。 5. 災害医療の基本的な概念を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		救急初期診療	柳谷 信之
2		一次救命処置 (BLS)	〃
3		呼吸の異常	〃
4		循環の異常、ショック	〃
5		意識の異常	〃
6		トリアージ	〃
7		外傷初期診療	〃
8		災害時の初期対応	〃

テキスト・参考図書	特になし
成績・評価の方法	筆記試験 100%
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	リハビリテーション医学		
担当教員	岩谷 力、田丸 冬彦、緒方 徹、中島 八十一、小島 洋文、金物 壽久、佐久間 肇、大井 直往		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
リハビリテーション医学の全体像，医学・医療における位置づけを理解し，包括的に地域生活を支援する多職種連携チームの一員として治療に参加する基礎を培うために以下の講義をおこなう。 リハビリテーション医学の関心領域，治療の目的，診断，機能評価，治療手法，治療過程，効果判定，予後予測の基礎について学び，主な対象疾患（脳卒中，骨関節疾患，小児疾患，スポーツ外傷・障害，高齢者，循環器疾患，呼吸器疾患，内臓疾患）ならびに主な障害に対する障害予防、重症化防止、リハビリテーション治療，生活支援について概説する。 <オムニバス方式／全 15 回>			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
リハビリテーション医学における診断、機能測定・評価、治療手法、アウトカム評価の治療過程を理解できる。主な対象疾患、障害について病気、機能低下、活動制限、参加制約の障害化過程を理解し、治療の目的（自立支援、就労支援、地域生活参加支援）ならびに治療適応について説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		概論（理念、自立支援、就労支援、地域包括システム、チームアプローチ）	岩谷 力
2		測定と評価	岩谷 力
3		治療手法	岩谷 力
4		各論 脳卒中	田丸 冬彦
5		脊髄損傷	緒方 徹
6		重症心身障害 医療的ケア	岩谷 力
7		認知障害 高次脳機能障害・発達障害	中島 八十一
8		こどもの疾患 脳性まひ	小島 洋文
9		関節疾患、神経筋疾患	小島 洋文
10		運動器の外傷	金物 壽久
11		内部障害 1 心臓、肝臓、腎臓	佐久間 肇
12		内部障害 2 呼吸器、生活習慣病	佐久間 肇
13		障害とスポーツ	緒方 徹
14		地域リハビリテーション	大井 直往
15		リハビリテーションの帰結と予後予測	佐久間 肇

テキスト・参考図書	テキスト：中村隆一監修 入門リハビリテーション医学 医歯薬出版
成績・評価の方法	ミニテスト（20%）、期末試験（80%）
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	外科学		
担当教員	西村 博行		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
講義形式で行う。外科学の基本を講義する。特に内部障害のリハビリテーションに関係する呼吸器，循環器，消化器，泌尿器等について，解剖生理を中心に講義する。この講義により，単に外科学の概要ばかりでなく，今後ますます増加すると見込まれる内科的疾患を合併した患者のリハビリテーションの基本的な知識を得ることができる。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1:外科学の発展の歴史の概略を理解できる。 2:その発展の中で特に大事な麻酔、感染症、ショック、免疫等の問題を理解できる。 3:最近重要になってきている内部障害のリハビリテーションと外科学の関係を理解できるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		外科の歴史	西村 博行
2		外傷①	〃
3		外傷②	〃
4		感染症	〃
5		ショック	〃
6		外科と免疫	〃
7		無菌法と麻酔	〃
8		鏡下手術と腫瘍 (4時限目)	〃
9		乳腺の外科	〃
10		呼吸器の外科(肺癌他) (4時限目)	〃
11		呼吸器リハビリテーション (4時限目)	〃
12		虚血性心疾患	〃
13		不整脈	〃
14		心臓リハビリテーション	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：特になし 参考書：外科の歴史、標準外科学（医学書院） 病気がみえる②③（メディックメディア）
成績・評価の方法	試験 7 0 %、レポート 3 0 %
その他（履修上の留意点）	外科の基本は解剖学です。 筋肉や骨以外の人体解剖も理解するように努めて下さい。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	整形外科科学Ⅰ		
担当教員	金物 壽久		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
日本は世界一の長寿国となったが、寝たきり老人の多いことも事実である。寝たきりにならず、人間らしく生活ができる健康寿命を延ばすためには、運動器疾患、運動器リハビリの理解が欠かせない。また生涯を通じてスポーツを実践し、健康な生活を送るためにも運動器、整形外科の知識はたいへん需要である。老人や成人だけでなく、幼児期から青年期に至るまでの発達を支援する知識を得ることも本講座の重要な目標である。本授業において幅広く運動器に関する知識を学んでほしい。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
①健常者の動作、運動を筋・骨格系の解剖生理から理解し説明ができる。 ②運動器の発達と老化現象を理解し、各年齢層に対する適切な対応を学ぶ。 ③変性疾患、炎症性疾患、感染症、腫瘍などの基本概念を理解する。 ④上肢、下肢、脊椎の主要な疾患を理解し、またそれぞれの部位の外傷を理解すること。 ⑤医療安全を理解すること、またスポーツを通じての地域社会とのかかわりを大切にすること。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		整形外科概論 運動器疾患、整形外科とは？	金物 壽久
2		骨折 骨折総論、骨の基礎、骨代謝	〃
3		骨折・脱臼の保存的治療、ギプス、牽引	〃
4		合併症、開放骨折、手術、創外固定	〃
5		大腿骨近位部骨折	〃
6		関節リウマチ リウマチ性疾患と関節リウマチ	〃
7		感染症と炎症	〃
8		骨系統疾患、代謝性疾患、腫瘍、神経筋疾患	〃
9		脊椎 脊椎の解剖、中枢神経と末梢神経	〃
10		腰部椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症	〃
11		脊椎手術と検査	〃
12		脊髄損傷	〃
13		脊椎疾患その他	〃
14		骨粗鬆症	〃
15		医療安全 インフォームド・コンセント、安全な医療の提供	〃

テキスト・参考図書	テキスト：検討中 参考書：標準整形外科学 （医学書院） 整形外科クルズス （南江堂）
-----------	---

成績・評価の方法	期末試験 80% 授業態度 20%
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	整形外科科学Ⅱ		
担当教員	金物 壽久		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
日本は世界一の長寿国となったが、寝たきり老人の多いことも事実である。寝たきりにならず、人間らしく生活ができる健康寿命を延ばすためには、運動器疾患、運動器リハビリの理解が欠かせない。また生涯を通じてスポーツを実践し、健康な生活を送るためにも運動器、整形外科の知識はたいへん需要である。老人や成人だけでなく、幼児期から青年期に至るまでの発達を支援する知識を得ることも本講座の重要な目標である。本授業において幅広く運動器に関する知識を学んでほしい。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
①健常者の動作、運動を筋・骨格系の解剖生理から理解し説明ができる。 ②運動器の発達と老化現象を理解し、各年齢層に対する適切な対応を学ぶ。 ③変性疾患、炎症性疾患、感染症、腫瘍などの基本概念を理解する。 ④上肢、下肢、脊椎の主要な疾患を理解し、またそれぞれの部位の外傷を理解すること。 ⑤医療安全を理解すること、またスポーツを通じての地域社会とのかかわりを大切にすること。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		膝関節 膝の外傷、前十字靱帯損傷、半月板損傷	金物 壽久
2		変形性膝関節症 人工膝関節	〃
3		股関節 小児整形外科と先天性股関節脱臼、変形性股関節症	〃
4		変形性股関節症 人工股関節	〃
5		手の外科 前腕、手関節、手指の外傷、骨折	〃
6		末梢神経障害	〃
7		腱損傷、腱鞘炎	〃
8		肘関節 肘の外傷、骨折、スポーツ傷害	〃
9		肩関節 肩関節脱臼、反復性肩関節脱臼	〃
10		腱板損傷、肩関節周囲炎	〃
11		足の外科 下腿、足関節、足趾の外傷、骨折	〃
12		外反母趾、アキレス腱断裂	〃
13		下肢切断、術後合併症	〃
14		スポーツ医学 心身の発達とスポーツ障害、ドーピング、地域とのかかわり	〃
15		整形外科と法律 身体障害者、保険診療、介護保険、チーム医療	〃

テキスト・参考図書	テキスト：検討中 参考書：標準整形外科学 （医学書院） 整形外科クルズス （南江堂）
-----------	---

成績・評価の方法	期末試験 80% 授業態度 20%
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	内科学・老年学Ⅰ		
担当教員	高松 道生		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
リハビリテーション対象患者の多くを占める高齢者によく見られる疾病とその特徴，治療方針の概要について，内科学の立場から理解を深める。 縦割りの臓器別系統講義とともに，病状，徴候をキーとした疾病横断的考え方についても取り上げる。同時に，リハビリテーションの現場で問題となる観察や判断について循環器系・呼吸器系を中心に上げ，リハビリテーション療法士に求められる臨床的能力について考えていく予定である。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
症候から本体に迫る臨床推論の考え方を取り入れ、リハビリテーションの現場での観察や判断について学ぶ事で、求められる内科的臨床的能力を身につける事を目的とする。自覚症状から病態をとらえ、他覚所見で病態を推論し、必要な検査を考えることで診断に迫る。同時に、チームスタッフである医師・看護師・介護福祉士・ヘルパー・ソーシャルワーカーなどどのように意思疎通と情報共有を図ってゆけばよいのかも考える。	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		内科学総論：生体の仕組みと内科学Ⅰ	高松 道生
2		内科学総論：生体の仕組みと内科学Ⅱ	〃
3		循環器疾患Ⅰ 循環器系の病態生理	〃
4		循環器疾患Ⅱ 循環器疾患の概要	〃
5		呼吸器疾患Ⅰ 呼吸器系の病態生理	〃
6		呼吸器疾患Ⅱ 呼吸器疾患の概要	〃
7		蘇生法の概要Ⅰ 蘇生が必要な緊急事態への対応	〃
8		蘇生法の概要Ⅱ 蘇生法の実際	〃
9		消化器疾患Ⅰ 消化器系の病態生理	〃
10		消化器疾患Ⅱ 消化器疾患の概要	〃
11		神経疾患Ⅰ 神経系の病態生理	〃
12		神経疾患Ⅱ 神経疾患の概要	〃
13		症状・症候から迫る内科学①Ⅰ	〃
14		症状・症候から迫る内科学①Ⅱ	〃
15		前期講義総括	〃

テキスト・参考図書	テキスト：なし。プリント使用。 参考書：なるほど なっとく 内科学 初版 南山堂
成績・評価の方法	試験 100%。成績不良者は再試験の機会を設ける。講義中の態度不良者は減点する。
その他（履修上の留意点）	

	講義中の私語は厳禁。場合によって退室を求める。講義に使用したスライドは後日参照用に PDF ファイルにしてサーバーにアップロードする。
--	--

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	内科学・老年学Ⅱ		
担当教員	高松 道生		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
リハビリテーション対象患者の多くを占める高齢者によく見られる疾病とその特徴，治療方針の概要について，内科学の立場から理解を深める。 縦割りの臓器別系統講義とともに，病状，徴候をキーとした疾病横断的考え方についても取り上げる。同時に，リハビリテーションの現場で問題となる観察や判断について循環器系・呼吸器系を中心に引き上げ，リハビリテーション療法士に求められる臨床的能力について考えていく予定である。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
症候から本体に迫る臨床推論の考え方を取り入れ，リハビリテーションの現場での観察や判断について学ぶ事で，求められる内科的臨床的能力を身につける事を目的とする。自覚症状から病態をとらえ，他覚所見で病態を推論し，必要な検査を考えることで診断に迫る。同時に，チームスタッフである医師・看護師・介護福祉士・ヘルパー・ソーシャルワーカーなどどのように意思疎通と情報共有を図ってゆけばよいのかも考える。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		内分泌・代謝疾患 I 内分泌系の病態生理	高松 道生
2		内分泌・代謝疾患 II 内分泌疾患の概要	〃
3		腎泌尿器疾患 I 腎泌尿器系の病態生理	〃
4		腎泌尿器疾患 II 腎泌尿器疾患の概要	〃
5		アレルギー・免疫・膠原病 I 免疫とは何か	〃
6		アレルギー・免疫・膠原病 II 自己免疫疾患の概要	〃
7		感染症 I 感染症、感染管理の基礎、Universal precautions	〃
8		感染症 II 感染症の概要	〃
9		造血器疾患 I 造血と貧血、出血傾向	〃
10		造血器疾患 II 白血病、リンパ腫	〃
11		症状・症候から迫る内科学 ② I	〃
12		症状・症候から迫る内科学 ② I	〃
13		症例検討とまとめ I	〃
14		症例検討とまとめ II	〃
15		後期講義総括	〃

テキスト・参考図書	テキスト：なし。プリント使用。 参考書：なるほど なっとく 内科学 初版 南山堂
成績・評価の方法	試験 100%。成績不良者は再試験の機会を設ける。講義中の態度不良者は減点する。
その他（履修上の留意点）	講義中の私語は厳禁。場合によって退室を求める。講義に使用したスライドは後日参照用に PDF ファイルにしてサーバーにアップロードする。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	神経内科学		
担当教員	中島 八十一		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
リハビリテーションの実践に必要な神経内科学を理解できるようにする。基本的な神経徴候・症状を理解し、個々の神経疾患の病態と薬物治療などの理解をふかめ疾患特有のリハビリテーションの概念をつかむようにする。特に神経難病でのリハビリテーションの重要性を理解する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1、主要神経徴候の理解ができる 2、神経学的臨床検査を理解する 3、主要神経疾患の成因と病態、症候、検査と治療を理解できる 4、神経難病対策の社会的意義を理解する

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/2	神経症候学(1)	中島 八十一
2	10/9	神経症候学(2)、脳の画像診断の基礎	〃
3	10/16	脳血管障害(1)	〃
4	10/23	脳血管障害(2)	〃
5	10/30	神経変性疾患(1)	〃
6	11/6	神経変性疾患(2)	〃
7	11/13	脊髄疾患	〃
8	11/20	末梢神経疾患	〃
9	11/27	筋疾患	〃
10	12/4	免疫疾患、自律神経疾患	〃
11	12/11	機能的疾患	〃
12	12/18	脳腫瘍、神経外傷、高次脳機能障害	〃
13	1/8	感染症、先天異常・代謝性疾患・中毒性疾患	〃
14	1/15	認知症	〃
15	1/22	神経疾患とリハビリテーション	〃

テキスト・参考図書	テキスト：江藤文夫、飯島節 神経内科学テキスト [改訂第4版] 南江堂 参考書：田崎義昭、斎藤佳雄 「ベッドサイドの神経の診かた」 南山堂
成績・評価の方法	期末試験100%
その他（履修上の留意点）	後期開講前に教科書を予習しておくこと。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	脳神経外科学		
担当教員	外間 政信		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
脳及び脳神経に関わる解剖・生理を臨床の立場から学び、脳血管障害、頭部外傷、脳挫傷等の疾患についての病態、症状、診断、脳神経外科的治療を学ぶ。内容は脳および脳神経に関する解剖・生理、検査と症状、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍その他である。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
脳および脳神経に関する解剖生理を理解し、脳血管障害などの疾患を学ぶこと

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		脳神経外科学について	外間 政信
2		頭部の形態と機能・1	〃
3		頭部の形態と機能・2	〃
4		検査(画像検査・脳波・筋電図)	〃
5		神経所見	〃
6		自律神経・脳循環代謝	〃
7		神経症候学(1)	〃
8		神経症候学(2)	〃
9		脳血管障害(総論と脳梗塞)	〃
10		脳血管障害(脳出血)	〃
11		脳血管障害(くも膜下出血など)	〃
12		脳腫瘍・てんかん	〃
13		頭部外傷・感染症・水頭症・小児	〃
14		まとめ	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：病気が見える <u>脳・神経</u> 参考書：手軽にとれる神経所見 臨床のための脳局所解剖学
成績・評価の方法	筆記テスト 100%
その他（履修上の留意点）	講義はプリントが主体

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	小児科学・小児神経科学		
担当教員	森 哲夫		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
出生前後から成長期における成長・発達と、その間にみられる主な疾患（新生児・未熟児疾患、先天異常、代謝異常、免疫・アレルギー疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、感染症など）について、特に、脳神経系の発達とその異常との関連について学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・小児の成長・発達について説明できる。小児期の各時期に見合ったリハビリテーションを立案できる。 ・小児の各疾患について病態、治療を説明できる。各疾患罹患時のリハビリテーションの可否を判断できる。 ・小児の脳神経系の発達について説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/10	小児科学概論	森 哲夫
2	4/17	小児科学概論、診断と治療の概要	〃
3	4/24	新生児・未熟児疾患	〃
4	5/8	新生児・未熟児疾患	〃
5	5/15	先天異常と遺伝病	〃
6	5/22	神経・筋・骨系疾患	〃
7	5/29	神経・筋・骨系疾患	〃
8	6/5	神経・筋・骨系疾患	〃
9	6/12	循環器疾患、呼吸器疾患	〃
10	6/19	呼吸器疾患、感染症	〃
11	6/26	感染症、消化器疾患	〃
12	7/3	内分泌・代謝疾患、血液疾患	〃
13	7/10	免疫・アレルギー疾患、膠原病、腎・泌尿器系、生殖器疾患	〃
14	7/17	腫瘍性疾患、習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待	〃
15	7/24	重症心身障害児、眼科・耳鼻科的疾患	〃

テキスト・参考図書	テキスト：富田 豊：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版、医学書院 参考書：五十嵐 隆編集：小児科学 第10版、文光堂 前川 喜平：写真で見る乳児健診の神経学的チェック法 第9版、南山堂 仁志田 博司：新生児学入門 第5版、医学書院
成績・評価の方法	期末試験 70% 授業態度 30%

その他（履修上の留意点）	授業の予習をしっかりしてくる。前もって課題を出します。
--------------	-----------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	精神医学Ⅰ		
担当教員	立花 健二郎		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
精神医療及び精神障害者福祉の全体像を理解し、個々の疾患（統合失調症、感情障害、パニック障害、思春期にみられる障害、小児期からみられる障害、強迫性障害、認知症、てんかん、薬物依存、薬物中毒など）について特徴的な症状、治療方法、経過について学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 精神医療及び精神障害者福祉の全体像を学ぶ。
2. 個々の疾患について、その概念や症状、診断、治療法の基本的な知識を身に付け、説明できる。
3. 向精神薬の種類とそれらの作用について理解し、説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/9	精神医学総論 精神医学の歴史ほか	立花 健二郎
2	4/16	統合失調症Ⅰ 統合失調症総論	〃
3	4/23	統合失調症Ⅱ	〃
4	5/7	統合失調症Ⅲ	〃
5	5/14	感情障害Ⅰ 双極性感情障害	〃
6	5/21	感情障害Ⅱ うつ病	〃
7	5/28	神経症性障害Ⅰ うつ病関連疾患	〃
8	6/4	神経症性障害Ⅱ 思春期からみられる疾患	〃
9	6/11	発達障害 ASD ADHD	〃
10	6/18	強迫性障害など 強迫性障害 睡眠の異常など	〃
11	6/25	認知症 代表的な認知症性疾患について	〃
12	7/2	てんかん	〃
13	7/9	精神作用物質	〃
14	7/16	心理療法	〃
15	7/23	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：〈標準理学療法・作業療法学〉専門基礎分野，上野武治（編）：精神医学 第4版，医学書院，2015 参考書：特になし
成績・評価の方法	期末テスト 100%
その他（履修上の留意点）	講義中に配布するプリントの演習問題を用いて復習することが望ましい。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	精神医学Ⅱ		
担当教員	田玉 逸男		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	理学選択 作業必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
精神障害を理解するために役立つ各種理論を学習する。精神医学総論，精神医学の歴史を振り返るところから始め，模擬患者が演じる診療風景をビデオで供覧し精神障害をより深く，より具体的に学習して，さらなる理解を深めることを目的とする。具体的には脳器質性・症状性精神症，物質依存，てんかん，統合失調症，気分障害などである。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
基本的精神疾患の特徴、経過、治療を説明できる。精神科薬物療法、司法精神医学、リエゾン・コンサルテーション精神医学について概要を説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		精神医学の歴史 精神医学の歴史を俯瞰する。	田玉 逸男
2		脳器質性精神病 解説と症例とともに学習する。	〃
3		物質依存 薬物依存症、アルコール依存のビデオをみて理解する。	〃
4		癲癇 癲癇発作ビデオをみて、実際の発作を理解し、その対応を学ぶ。	〃
5		不安障害、心身症 ビデオや症例とともに学ぶ。	〃
6		人格障害 特に境界性人格障害の症例を精神分析的手法から学ぶ。	〃
7		統合失調症Ⅰ 統合失調症の認知の障害を中心に症状とともに学ぶ。	〃
8		統合失調症Ⅱ 統合失調症の薬物療法とリハビリテーション治療に焦点を当て学ぶ。	〃
9		感情障害Ⅰ 感情障害の認知の障害と症状を学ぶ。	〃
10		感情障害Ⅱ 自殺学(長野いのちの電話外部講師とのコラボ企画)	〃
11		認知障害 認知障害とBPSD 画像診断から見た認知症	〃
12		児童・思春期精神障害 概説	〃
13		精神薬理学 脳病理と薬理 リエゾン精神医学	〃
14		法と精神医学 法から見た精神保健福祉、司法鑑定、民事鑑定	〃
15		まとめ まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：＜標準理学療法・作業療法＞上野武治（編）：精神医学、医学書院 参考書：現代臨床精神医学、金原出版
成績・評価の方法	レポート：30%、期末筆記試験：70%
その他（履修上の留意点）	配布資料を予習・復習すること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	臨床心理学		
担当教員	平林 一、延藤 麻子		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
臨床心理学は、「心理学の研究成果を基礎として、心理的に不調和にあり、周囲との係わりにも混乱が生じている方を正しく理解し、環境調整を含めて積極的に援助し、問題解決を図る方法を考案し、より好ましい状況を作り出す目的で実践していくこと（小林）」と定義される。単に机上の学問に留めるのではなく、実際のクライアントの援助に役立たせることで、はじめて臨床心理学を学んだ意義がある。本講義では一般的な臨床心理学に加えて、リハビリテーション医療に必要な基本的知識と技術の習得を目指す。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1, 臨床心理学の基本概念と基礎技術を説明できる 2, 初歩的な心理検査を実施できる 3, リハビリテーション医療にとって必要な基本的知識と技術を説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		臨床心理学について	延藤 麻子
2		臨床心理学のアセスメント①	延藤 麻子
3		臨床心理学のアセスメント②	延藤 麻子
4		臨床心理学のアプローチ①	延藤 麻子
5		臨床心理学のアプローチ②	延藤 麻子
6		臨床心理学のアプローチ③	延藤 麻子
7		臨床心理学のアプローチ④	延藤 麻子
8		まとめ	延藤 麻子
9		臨床心理学とその学派	平林 一
10		心理アセスメント実習	平林 一
11		リハビリテーション医療における心理学	平林 一
12		障害受容と家族への関わり	平林 一
13		脳卒中リハビリテーションにおける精神心理的問題と対応	平林 一
14		高次脳機能障害のアセスメントと対応	平林 一
15		認知症の精神心理的問題と対応	平林 一

テキスト・参考図書	テキスト：特に指定しない 参考書：渡辺俊之ほか「リハビリテーション患者の心理とケア」 医学書院
成績・評価の方法	期末試験 100%
その他（履修上の留意点）	「復習」は、授業で配付した資料と参考書を用いて行う。「予習」については、授業内で適宜言及する。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	障害科学 I		
担当教員	岩谷 力、中島 八十一、高嶋 孝倫、竹島 正、宇野 裕		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
障害 (disability) を理解するために、人間を生物学的、社会的にとらえ、医学・心理・社会モデルにより、捉える考え方を学ぶ。さらに、身体障害、認知障害、精神障害へのリハビリテーション (自立・就労・生活・社会参加支援) の基礎的知識を学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
人間が一生命体として活動している地球の構成員であることを認識し、生物としてのヒトの健康に影響する疾病に向かい合ってきた歴史を学ぶ。さらに、近代医学の主流である生物学医学の現在、疾病、障害の医学的、社会的にとらえ方、リハビリテーションの基盤をなす思想、概念、各種障害の障害化過程ならびに基本的アプローチについて学ぶ。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/1	人間と障害 (自然、人間、ヒト、病気、障害)	岩谷 力
2	10/8	地球の歴史 生命の誕生	高嶋 孝倫
3	10/15	医学の歴史 1 医学の芽生え、地中海医学の成立	岩谷 力
4	10/22	医学の歴史 2 西洋中世の医学、アラビア医学	岩谷 力
5	10/29	医学の歴史 3 ルネッサンスと科学革命	岩谷 力
6	11/5	医学の歴史 4 近世 (17～18 世紀) の医学 啓蒙思想	岩谷 力
7	11/12	医学の歴史 5 近代生物学医学の成立 (19 世紀～20 世紀初頭)	岩谷 力
8	11/19	医学の歴史 6 現代医学の展望	中島 八十一
9	11/26	病気・病者・患者、障害・障害者 障害と偏見・差別 (social inclusion)	岩谷 力
10	12/3	障害のとらえ方の歴史的変遷	岩谷 力
11	12/10	身体障害のリハビリテーションアプローチ (予防、重度化防止、社会参加支援)	岩谷 力
12	12/17	認知障害のリハビリテーションアプローチ (予防、重度化防止、社会参加支援)	岩谷 力
13	12/24	精神障害のリハビリテーションアプローチ (予防、重度化防止、社会参加支援)	竹島 正
14	1/7	障害支援工学	高嶋 孝倫
15	1/21	障害と生きる (障害者と家族)	宇野 裕

テキスト・参考図書	テキスト：入門リハビリテーション概論 中村隆一監修 医歯薬出版
成績・評価の方法	ミニテスト (80%：講義の終了時に行う) ならびにレポート (20%：随時)
その他 (履修上の留意点)	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	障害科学Ⅱ		
担当教員	岩谷 力、北村 弥生、樋口 幸治、高橋 競、飛松 好子		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	15 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
障害を医学的、社会的に捉え、心身の健康状態の変調をもって生活する人々の不自由さの経験、それらの人々への自立、就労、公的支援の仕組みを理解する。さらに、国際的な課題となっている障害を持つ人々も障害を持たない人も参画・参加する共生社会の構築に向けて、国際機関の活動、日本が行っている開発途上国の障害者支援活動、障害に立ち向かう国際的な潮流、日本国内の動向を理解する。＜オムニバス方式／全15回＞			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
障害児・者とその家族の生活、健康上の課題をあげ、社会的支援について説明できる。国際機関の障害に関する取り組み、障害者の権利に関する条約はじめとする障害とリハに関する諸条約を説明できる。我が国の国際的な障害者支援活動について説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		障害者福祉の歴史的発展	岩谷 力
2		障害を持つ人々の生活、健康	岩谷 力
3		障害認定	岩谷 力
4		障害と家族	北村 弥生
5		障害と情報	北村 弥生
6		障害と防災	北村 弥生
7		障害への国際的取り組み（国連、WHO の活動）	北村 弥生
8		国際保健	高橋 競
9		感染症と非感染症疾患	高橋 競
10		Adapted Physical Activity I 障害を持つ人の健康問題	樋口 幸治
11		Adapted Physical Activity II 障害を持つ人のスポーツ	樋口 幸治
12		国際協力 I	高橋 競
13		国際協力 II	高橋 競
14		地域活動（高齢者の健康増進、虚弱予防活動）	高橋 競
15		我が国におけるリハビリテーションセンターの役割とこれから	飛松 好子

テキスト・参考図書	参考図書：①久野研二、中西由起子著「リハビリテーション国際協力入門」三輪書店 ②アラナ・オフィサー他編（長瀬修監訳）「世界障害報告書」明石書店 ③河野眞編「PT・OT ビジュアルテキスト 国際リハビリテーション学 国境を超える PT・OT・ST」羊土社 ④島田裕之編「高齢者理学療法学」医歯薬出版株式会社 ⑤社会福祉法人全国社会福祉協議会「社会福祉学習双書 2019 第4巻 障害者福祉論」
成績・評価の方法	授業への取り組み状況 30%，レポートならびにミニテスト 70%

その他（履修上の留意点）	予習：なし。 復習：講義に関するレポートを作成し、提出する。
--------------	-----------------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	公衆衛生学		
担当教員	野見山 哲生		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)

人のライフステージに特有な健康問題や健康に影響を与える要因を明らかにする方法である疫学について学び、更にそれらの要因が及ぼす社会への影響について学ぶ。そして、それらに対応した公衆衛生学上の制度や取り組みについて学び、社会の中における理学・作業療法の位置づけについて理解することを目的とする。

学 習 目 標 (行 動 目 標)

1. 公衆衛生学の基本的な考え方と実践するにあたっての基本的手法を説明できる。
2. 公衆衛生学の実践である保健、福祉における計画、実践を担う行政、法規、医療機関等の役割を説明できる。
3. 公衆衛生学における実践者である理学・作業療法の役割を説明できる。
4. 公衆衛生学における理学・作業療法の基本的手技を実施できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		衛生学・公衆衛生学とは	
2		保健統計	
3		社会保障制度	
4		疫学	
5		国民栄養	
6		環境保健	
7		地域保健と保健行政	
8		親子保健	
9		学校保健	
10		産業保健	
11		老人保健・福祉	
12		精神保健	
13		国際保健	
14		感染症	
15		食品衛生	

テキスト・参考図書	テキスト：シンプル衛生公衆衛生学（南江堂） 参考書：国民衛生の動向（厚生労働統計協会）
成績・評価の方法	期末試験60%、プレテスト20%、レポート20%
その他（履修上の留意点）	事前に講義、実習の内容を確認し、テキストを読んで授業に参加して下さい。 尚、事前学習の結果は講義開始時に行うプレテストで評価し、成績・評価に組み込みます。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	人間関係論		
担当教員	春原 るみ、栗林 美智子		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
コミュニケーションとは何か、より良いコミュニケーション技術を学び体得する。PT・OTに必要とされるコミュニケーション力を体験を通して学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. コミュニケーションについて理解する
2. より良いコミュニケーション技術を体得する。
3. 自己理解

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		PT／OTを目指すための準備ーコミュニケーションとは	栗林・春原
2		自己理解	栗林・春原
3		対人コミュニケーション パーバルとノンバーバル（言葉と言葉でない）	栗林・春原
4		社会人としてのコミュニケーション力	栗林・春原
5		臨床で役立つコミュニケーションスキルー聴く・話し手の話を聴く	栗林・春原
6		臨床で役立つコミュニケーションスキルー話す・伝える	栗林・春原
7		臨床で役立つコミュニケーションスキルー対話のことば	栗林・春原
8		臨床で役立つコミュニケーションスキルー面接技術	栗林・春原

テキスト・参考図書	テキスト:山口美和:PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド第2版.医学書院 参考書:星野欣生:人間関係づくりトレーニング.金子書房
成績・評価の方法	レポート 授業参加状況
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	言語聴覚療法概論		
担当教員	西條 一彦		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義

授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)

人間におけるコミュニケーションの重要な手段である言語の機能を学び、言語聴覚士の業務内容と言語聴覚療法の基本的な考え方を理解することを目的とする。

具体的には、言語聴覚療法のイメージを視聴覚教材や関連資料を通じてつかむとともに、言語聴覚障害の原因、特徴、評価・訓練、支援方法等を紹介することにより、言語聴覚障害者との関わり方を身につける。

学 習 目 標 (行 動 目 標)

- ①言語聴覚療法の基本的な考え方を理解する。
 ②主な言語聴覚障害の病態・評価・治療法の概要を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		言語の起源とその特徴	西條 一彦
2		言語とコミュニケーション	〃
3		大人の言語障害—失語症①	〃
4		大人の言語障害—失語症②	〃
5		子どもの言語障害—正常なことばの発達	〃
6		子どもの言語障害—幼児の言語相談	〃
7		子どもの言語障害—脳性麻痺、指定療養介護事業所	〃
8		子どもの言語障害—吃音 まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：小嶋知幸編著 図解やさしくわかる言語聴覚障害 ナツメ社 2016 年 参考書：酒井邦嘉著 「言語の脳科学」 中公新書 1647 2002 年
成績・評価の方法	①授業態度（小レポート） 50％ ②レポート 50％
その他（履修上の留意点）	テキストに目を通して授業に臨んでください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	看護学概論		
担当教員	宮澤 美津子		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
本科目では、看護・看護学の歴史的発展過程を踏まえ、看護・看護学の現状（看護職、看護教育、保健医療福祉システム、看護倫理、看護研究など）その方向性を理解する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 看護の本質と倫理を理解する。 2. 看護の対象である人間・生活を理解する。 3. ひとびとの健康生活とライフサイクルを理解する。 4. 職業としての看護と看護の提供の仕組みを理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		看護の責務、看護とは何か、看護の対象とその理解	宮澤 美津子
2		健康と病気におけるウェルネス（安寧）の促進、ライフサイクルと看護	〃
3		看護実践のための理論的根拠、看護における倫理と価値	〃
4		看護ケア（看護援助）の基本的役割 看護過程	〃
5		看護における法的側面 保健・医療・福祉システム	〃
6		看護の展開と継続性 看護ケアのマネジメント	〃
7		災害看護の基礎 国際看護	〃
8		これからの看護の課題と展望 まとめ	〃

テキスト・参考図書	授業で使用する資料テキストは印刷して配布する。 参考書：基礎看護学① 看護学概論 （メディカ出版）
成績・評価の方法	・成績評価要件：授業回数の2／3以上の出席を要する。 ・成績評価：60点以上を合格とする。（演習課題50%、期末試験50%）
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	介護学概論		
担当教員	丸山 順子		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
介護が必要な状態になっても可能な限り利用者の自立を促すことが重要である。それに向けて、利用者が希望する生活を支援できるように自立支援と介護福祉サービスについて学ぶ。さらに具体的な生活支援技術の内容について事例を通して理解する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 具体的な生活支援技術を説明できる。
2. 生活支援において実践できるリハビリテーションを説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		介護の対象	丸山 順子
2		コミュニケーションと介護	〃
3		自立支援、介護福祉サービス	〃
4		生活支援技術①（身だしなみ、清潔など）	〃
5		生活支援技術②（食事、排泄、移動など）	〃
6		高齢者介護、認知症への援助	〃
7		リハビリテーション介護	〃
8		個別援助（演習）	〃

テキスト・参考図書	必要に応じて資料を配布する。
成績・評価の方法	筆記試験 50%、レポート 50%
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	大学基礎セミナー		
担当教員	山本 良彦		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
建学の精神を学び、この大学で学修する決意を確認する。また、大学生として主体的に学ぶことの意味を理解する。この講座は大学教育へのスムーズな導入を目的とし、大学生としてのマナーや社会規範、コミュニケーションスキル、大学生活のリスク、研究の基礎能力などを学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 主体的に学び、課題解決能力を身につけ実践できる。 2. 大学生としての基本的な学習技能を身につけ、日々の学習に活かすことができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/8	共に学ぶ仲間を知る、学生自己紹介	山本 良彦
2	4/15	建学の精神、大学で学ぶ心構え、学ぶ技術、Active Academy	〃
3	4/22	マナー講座①	〃
4	5/6	学修に必要な情報収集の仕方、図書館の利用方法	〃
5	5/13	金融リテラシー①	〃
6	5/20	金融リテラシー②	〃
7	5/27	金融リテラシー③	〃
8	6/3	マナー講座②	〃
9	6/10	自己理解と心の健康	〃
10	6/17	大学生活におけるリスク	〃
11	6/24	スタディースキル①	〃
12	7/1	スタディースキル②	〃
13	7/8	レポート・論文の基礎	〃
14	7/15	リサーチリテラシー（研究のための基礎的能力）①	〃
15	7/22	リサーチリテラシー（研究のための基礎的能力）②	〃

テキスト・参考図書	必要に応じて資料を配布する。
成績・評価の方法	授業リフレクションペーパー50% レポート50%
その他（履修上の留意点）	学生便覧、シラバスを持参すること マナー講座、金融リテラシーに関しては、保健科学部と看護学部が合同で行う

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法基礎セミナー		
担当教員	山本 良彦, 他		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
医療やリハビリテーションの分野において興味のある事柄についてグループで探求する。テーマは日々の素朴な疑問や講義で知り得た知識の確認がふさわしい。活動に対する結果を出すことも重要であるが、グループメンバー間で協力しながら情報収集、問題解決、発表準備などを進めていく過程を学んでほしい。また議論には積極的に参加し、能動的に関わるように努力してほしい。各グループには担当教員がファシリテーターとして配置されるので、必要に応じてアドバイスを受けること。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 課題を自ら発見し、ディスカッションできる。 2. グループ活動時には主体的に行動できる。 3. 活動内容を総括し、プレゼンテーションできる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/2	オリエンテーション, グループ分け	山本 良彦
2	10/9	グループワーク①	理学療法教員
3	10/16	グループワーク②	〃
4	10/23	グループワーク③	〃
5	10/30	グループワーク④	〃
6	11/6	グループワーク⑤	〃
7	11/13	グループワーク⑥	〃
8	11/20	グループワーク⑦	〃
9	11/27	グループワーク⑧	〃
10	12/4	グループワーク⑨	〃
11	12/11	グループワーク⑩	〃
12	12/18	グループワーク⑪	〃
13	1/8	グループワーク⑫	〃
14	1/15	発表会①	〃
15	1/22	発表会②	〃

テキスト・参考図書	必要に応じて資料を配布する。
成績・評価の方法	授業リフレクションペーパー30% 発表会 30% レポート 40%
その他（履修上の留意点）	テーマ決定、活動計画の立案では、積極的にアイデアを出すことが重要。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学演習Ⅰ（骨格系）		
担当教員	下田 浩一		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	30 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
骨，軟骨，関節，靱帯で構成される骨格系について，骨学，関節靱帯学の順に学習を進めていく。人体の構造を立体的に捉えて整理し，骨とその各部位の名称，関節とその運動の仕組み，関節における主要な靱帯とその機能について説明できることがねらいである。 授業は講義と実習を並行して行うが，標本模型等を利用した観察，スケッチによる実習が主体となるため，自学自習の精神を身に付けること，また，医療に携わる心構えを自覚することも期待される。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 骨の特徴を理解し，各部位の名称を説明できる。 2. 関節の構造と運動の仕組みを理解し説明できる。 3. 関節における主要な靱帯とその機能について理解し説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/9	骨学総論	下田 浩一
2	＃	骨学実習 上肢の骨 1	＃
3	4/16	骨学実習 上肢の骨 2	＃
4	＃	骨学実習 上肢の骨 3	＃
5	4/23	骨学実習 上肢の骨 4	＃
6	＃	骨学実習 下肢の骨 1	＃
7	5/7	骨学実習 下肢の骨 2	＃
8	＃	骨学実習 下肢の骨 3	＃
9	5/14	骨学実習 下肢の骨 4	＃
10	＃	骨学実習 脊柱の骨 1	＃
11	5/21	骨学実習 脊柱の骨 2	＃
12	＃	骨学実習 脊柱の骨 3	＃
13	5/28	骨学実習 脊柱の骨 4	＃
14	＃	骨学実習 胸郭・頭蓋の骨 1	＃
15	6/11	骨学実習 胸郭・頭蓋の骨 2	＃
16	＃	骨学実習 胸郭・頭蓋の骨 3	＃
17	6/18	骨学実習 胸郭・頭蓋の骨 4	＃
18	＃	関節靱帯総論	＃
19	6/25	関節学実習 上肢の連結 1	＃
20	＃	関節学実習 上肢の連結 2	＃
21	7/2	関節学実習 上肢の連結 3	＃

22	〃	関節学実習 上肢の連結 4	〃
23	7/9	関節学実習 下肢の連結 1	〃
24	〃	関節学実習 下肢の連結 2	〃
25	7/16	関節学実習 下肢の連結 3	〃
26	〃	関節学実習 下肢の連結 4	〃
27	7/23	関節学実習 脊柱・脊柱と頭蓋および胸郭の連結 1	〃
28	〃	関節学実習 脊柱・脊柱と頭蓋および胸郭の連結 2	〃
29	7/30	関節学実習 頭蓋の連結 1	〃
30	〃	関節学実習 頭蓋の連結 2	〃

テキスト・参考図書	テキスト：小川鼎三：分担解剖学 1，金原出版 野村 巖：標準理学療法・作業療法 解剖学，医学書院 参考書：坂井建雄監訳：プロメテウス解剖学アトラス，医学書院 寺田春水ほか：骨学実習の手引き，南山堂
成績・評価の方法	期末試験 80%，口頭試問（骨学 10%，関節靱帯学 10%）
その他（履修上の留意点）	スケッチ用具として，スケッチブック，鉛筆，消しゴム，定規（15cm 程度）を持参してください。 予習よりも復習に力を入れましょう。知識の定着を確認するため小テストを行います。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	解剖学演習Ⅱ（筋・神経系）		
担当教員	福谷 保		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
解剖学の中でも療法士に特に必要とされる筋肉，神経の理解を深めるために，解剖学用語，体部位の名称，骨格筋の構造・作用，骨格筋の神経支配等の知識習得を図る。上肢，下肢，頭頸部，胸腹部，背部と部位別に学ぶ。 また，標本模型や実際の人の体表からの観察と触察，スケッチを通して立体的な構造を学習する。机上の学習についての知識を深めるとともに，人体の構造を立体的に捉えて整理することが授業のねらいである。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
身体各部位の名称を適切な解剖学用語で説明できる。 骨格筋の構造が説明できる。 骨格筋の一般的な作用の原理が説明できる。 身体各部位の骨格筋の名称、起始、停止、作用、支配神経と髄節レベルが説明できる。 身体各部位の骨格筋の位置を交連骨格を用いて指し示すことができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	9/30	解剖学用語、体部位の名称	福谷 保
2	10/7	骨格筋の構造・作用、骨格筋の神経支配、骨格筋の呼称	〃
3	10/21	上肢筋（表 4-2, 3A, 3B, 4A, 4B, 5A, 5B, 5C, 12A, 14A） 50 筋 *標準 PTOT 解剖学の表番号	〃
4	10/28		〃
5	11/11		〃
6	11/18		〃
7	11/25		〃
8	12/2	下肢筋（表 4-6A, 6B, 7A, 7B, 7C, 8A, 8B, 8C, 9A, 9B, 9C, 9D） 53 筋	〃
9	12/9		〃
10	12/16		〃
11	12/23		〃
12	1/6		〃
13	1/14(火)	頭頸部、胸腹部筋（表 4-10, 11A, 11B, 11C, 11D, 11E, , 12B, 12C, 13） 31 筋	〃
14	1/20		〃
15	1/27	背部筋（表 4-14B, 14C、14D） 13 筋	〃

テキスト・参考図書	野村 巖：解剖学，医学書院 石井直方監修：筋肉のしくみ・はたらき事典，西東社 相磯貞和 訳：「ネッター解剖学アトラス」 南江堂
成績・評価の方法	筆記試験 50%、口頭試問 50%

その他（履修上の留意点）	講義予定に合わせて、予習・復習を怠らないようにしてください。
--------------	--------------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法基礎運動学Ⅰ		
担当教員	下坂 充		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
力学，解剖学，生理学等の基礎理論と身体運動との関係を理解し，人間の身体運動を成立させている機構の基礎を学ぶ。生体力学の一環として，剛体力学と骨・筋・腱・靱帯等の生体組織特性を説明した変形体の力学の両者を用いて身体運動を解釈し，理解を深める。 さらに，脊柱・体幹，顔面・頭部，四肢等全身の関節運動について，機能解剖学的観点から運動を成立させている基本的機構を学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 身体運動の機序を力学的概念を用いて説明できる。 2. 身体運動を成立させている要素を解剖学および生理学的概念を用いて説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/ 4	生体力学の基礎 (1) 運動学的分析，運動力学的分析	下坂 充
2	10/11	〃 (2) モーメント，重心	〃
3	10/18	〃 (3) 運動力学，生体組織の力学的特性	〃
4	10/25	生体の構造と機能 (骨・関節・腱・靱帯の構造と機能，骨格筋の構造と機能)	〃
5	11/ 1	下肢帯と下肢の運動 (下肢帯と股関節)	〃
6	11/ 8	〃 (膝関節)	〃
7	11/15	〃 (足関節)	〃
8	11/22	上肢の運動 (上肢帯と肩関節)	〃
9	11/29	〃 (肘関節と前腕)	〃
10	12/ 6	〃 (手関節と手)	〃
11	12/13	〃 (手指と手)	〃
12	12/20	顔面および頭部の運動	〃
13	1/10	体幹の運動 (脊柱，頸椎)	〃
14	1/17	〃 (胸椎と胸郭)	〃
15	1/24	〃 (腰椎)	〃

テキスト・参考図書	テキスト：中村隆一，齋藤 宏 「基礎運動学」 医歯薬出版 嶋田智明・他監訳 「筋骨格系のキネシオロジー」 医歯薬出版 参考書：市橋則明 編「身体運動学 関節の制御機能と筋機能」メジカルビュー
成績・評価の方法	・ 期末試験：70% ・ 小テスト結果と講義中の提出課題：30%
その他（履修上の留意点）	・ 講義の予習は必須。毎回，小テストと提出課題がある。 ・ 講義中はグループディスカッションと質疑応答を行う。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法基礎運動学Ⅱ		
担当教員	赤羽 勝司		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
人間の姿勢やバランス能力および歩行について、正常な反応、作用について理解を深め、今後、運動学的・運動力学的に分析して行くための基礎となる知識を習得する。また、運動処方や運動制御および運動学習についての基礎を学び、運動療法を実施していくための基礎知識を習得する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
人間が姿勢を保持することや動作（歩行や立ち上がりなど）を分析するための基礎的な運動学を理解し、習得することを目的とする。人間がどのように動作を獲得していくのか、運動学的に理解することを目的とする。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション、運動と動作分析 (1)	赤羽 勝司
2		運動と動作分析 (2)	〃
3		体力と運動処方 (1)	〃
4		体力と運動処方 (2)	〃
5		姿勢とバランス (1)	〃
6		姿勢とバランス (2)	〃
7		歩行の分析 (1)	〃
8		歩行の分析 (2)	〃
9		異常歩行の分析 (1)	〃
10		異常歩行の分析 (2)	〃
11		運動学習 (1)	〃
12		運動学習 (2)	〃
13		四肢と体幹の機能解剖 (1)	〃
14		四肢と体幹の機能解剖 (2)	〃
15		四肢と体幹の機能解剖 (3)	〃

テキスト・参考図書	テキスト：中村隆一，齋藤 宏：基礎運動学 第6版補訂，医歯薬出版 Paul D. Andrew・他監訳：筋骨格系のメカニクス 第3版，医歯薬出版 参考図書：塩田悦仁 訳：カパンディ関節の生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，医歯薬出版
成績・評価の方法	授業態度10%，小テスト10%，期末試験80%
その他（履修上の留意点）	人間の姿勢，運動の基礎を学びます。解剖学，生理学の知識を整理して参加してください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動学実習		
担当教員	大町 かおり、福谷 保、山本 良彦、下田 浩一、阿部 裕一		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	3 0 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
人間の運動動作について、観察・測定・分析の初歩的手段を体験し、レポートにまとめる。また運動機能障害を持つ人の問題点を運動学的に捉え、評価や治療に応用する基礎を学ぶ。実習項目には以下の課題があり、その目的・方法を理解するためのオリエンテーションや実習後のフィードバックを各課題ごとに行う。 動画による歩行分析、有酸素運動の呼吸ガス分析、トルクマシンを用いた関節モーメント測定、重心動揺計を用いた身体重心位置の測定、筋電図を用いた立ち上がり動作の分析、筋電図を用いた上肢運動の計測、坐位・立位保持の重心動揺計測、観察による各種の手の運動分析、基本動作の観察による動作分析。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
測定機器の測定原理が理解できる
測定機器の操作が正しくできる
測定データを目的に合わせて適切に処理できる
測定結果の改訂を論理的に行える

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/1	オリエンテーション1 授業全体の概要	大町かおり
2	10/1	オリエンテーション2 テーマ各論1: 動画による歩行分析	阿部裕一
3	10/8	オリエンテーション3 テーマ各論2: 有酸素運動の呼吸ガス分析	山本良彦
4	10/8	オリエンテーション4 テーマ各論3: トルクマシンを用いた関節モーメント測定	大町かおり
5	10/15	オリエンテーション5 テーマ各論4: 重心動揺計を用いた身体重心位置の測定	下田浩一
6	10/15	オリエンテーション6 テーマ各論5: 筋電図を用いた立ち上がり動作の分析	福谷 保
7	10/22	実習1: 動画による歩行分析1	全員
8	10/22	実習1: 動画による歩行分析2	〃
9	10/29	まとめ1: 動画による歩行分析1	〃
10	10/29	まとめ1: 動画による歩行分析2	〃
11	11/5	実習2: 有酸素運動の呼吸ガス分析1	〃
12	11/5	実習2: 有酸素運動の呼吸ガス分析2	〃
13	11/12	まとめ2: 有酸素運動の呼吸ガス分析1	〃
14	11/12	まとめ2: 有酸素運動の呼吸ガス分析2	〃
15	11/19	実習3: トルクマシンを用いた関節モーメント測定1	〃
16	11/19	実習3: トルクマシンを用いた関節モーメント測定2	〃
17	11/26	まとめ3: トルクマシンを用いた関節モーメント測定1	〃
18	11/26	まとめ3: トルクマシンを用いた関節モーメント測定2	〃
19	12/3	実習4: 重心動揺計を用いた身体重心位置の測定1	〃
20	12/3	実習4: 重心動揺計を用いた身体重心位置の測定2	〃
21	12/10	まとめ4: 重心動揺計を用いた身体重心位置の測定1	〃
22	12/10	まとめ4: 重心動揺計を用いた身体重心位置の測定2	〃
23	12/17	実習5: 筋電図を用いた立ち上がり動作の分析1	〃

24	12/17	実習5：筋電図を用いた立ち上がり動作の分析2	〃
25	12/24	まとめ5：筋電図を用いた立ち上がり動作の分析1	〃
26	12/24	まとめ5：筋電図を用いた立ち上がり動作の分析2	〃
27	1/7	総合まとめ1：動画による歩行分析・有酸素運動の呼吸ガス分析	阿部・山本
28	1/7	総合まとめ2：トルクマシンを用いた関節モーメント測定	大町
29	1/21	総合まとめ3：重心動揺計を用いた身体重心位置の測定	下田
30	1/21	総合まとめ4：筋電図を用いた立ち上がり動作の分析・全体まとめ	福谷・大町

テキスト・参考図書	テキスト：中村隆一，齋藤 宏：基礎運動学 医歯薬出版 参考書：内山 靖 他：計測法入門，協同医書出版
成績・評価の方法	レポート：80%、筆記試験：20%
その他（履修上の留意点）	第7講～第26講は5グループに分かれて、テーマごとにローテーションにて実習およびまとめをする。 各課題で服装などの準備物が異なる。事前に担当教員に確認しておくこと。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法概論Ⅰ（導入論）		
担当教員	金井 敏男、中澤 住夫		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
理学療法を学ぶにあたって、理学療法・理学療法士とは何か、その概略および歴史・現状と取り巻く社会環境、課題を理解し、将来像を展望する。また、理学療法士を目指す学生としての自己認識を深め、今後の学習の内容とその必要性・学び方を理解し、研鑽に向けての動機づけを促す。 具体的には、理学療法の概念・定義・歴史、リハビリテーションと理学療法の位置づけ、理学療法の法律、診療過程、対象、方法、理学療法士の活動分野、資質と適性について学ぶ。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 理学療法の概要が理解できる。 2. 理学療法士の資質適性が理解できる。 3. 理学療法の対象・手段・方法と診療過程が理解できる。 4. 理学療法の領域とチーム医療の重要性が理解できる。 5. 理学療法学の内容と必要性・学び方を理解し、関連学問への関心を高める。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/5	自己の存在と社会への責任・専門職とは何か	金井敏男
2	4/12	理学療法（士）とは何か	金井敏男
3	4/19	理学療法とリハビリテーション	金井敏男
4	4/26	理学療法（士）の業務と対象範囲	金井敏男・中澤住夫
5	5/10	理学療法の対象疾患・理学療法の歴史	金井敏男・中澤住夫
6	5/17	リハビリテーションの基本的な流れ・理学療法士の適性（総論）	金井敏男・中澤住夫
7	5/24	理学療法士の適性（各論）・医療と医療技術者に求められるもの	金井敏男・中澤住夫
8	5/31	理学療法士の法律・制度	金井敏男・中澤住夫
9	6/14	理学療法評価の概要と情報収集・理学療法の対象と手段	金井敏男・中澤住夫
10	6/21	理学療法士の主な領域と活動分野・理学療法の診療記録	金井敏男・中澤住夫
11	6/28	理学療法とチーム医療	金井敏男
12	7/5	地域リハビリテーション	金井敏男
13	7/12	地域リハビリテーションの内容	金井敏男
14	7/19	理学療法士の倫理	金井敏男
15	7/26	理学療法概論のまとめ	金井敏男

テキスト・参考図書	テキスト： 奈良 勲：理学療法概論 第6版 医歯薬出版 参考書： 千住秀明監修：理学療法概論 第4版 九州神陵文庫 中島喜代彦編：シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト 南江堂 丸山仁司編：理学療法概論 第6版 iPEC 網本 和編：基礎理学療法概論 PTスタートガイド メジカルビュー 石川 朗編：15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法概論 中山書店
-----------	---

成績・評価の方法	評価の方法:期末試験100%
その他（履修上の留意点）	本科目は理学療法士を目指す者の導入編として学問体系と治療体系を理解し、理学療法を学ぶ決意を明確にするものである。さらに医療専門職としての自覚を創造する。 事前学習は、テキスト、参考書の予習はもとより、病院・施設見学やボランティア活動・先輩や教員とのディスカッションなどに積極的に取り組み、日頃から理学療法の認識に努める。事後学習は講義ノートを作成し、病院・施設見学やボランティア活動・先輩や教員とのディスカッションをさらに継続しつつ、理学療法体系と診療過程の理解を深め将来理学療法士として活動できるように決意と自覚を創造してほしい。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法概論Ⅱ		
担当教員	大町 かおり		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
理学療法の学問体系と研究，理学療法教育，他職種とチームアプローチ，医療保険・介護保険・障害者総合支援法などの関連制度，組織，倫理，理学療法部門の管理運営などについて具体的に学ぶ。 また，理学療法領域の最新の展開状況を種々のトピックスを取り上げて紹介する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
就職を控え，今後の自分のキャリアを具体的にデザインできる。 上記に関し，必要な情報を自ら収集できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション	大町かおり
2		理学療法士とキャリアデザイン 1-自己分析と適正	〃
3		理学療法士とキャリアデザイン 2-先輩に聞く	〃
4		理学療法士とキャリアデザイン 3-自分のキャリアをデザインする	〃
5		理学療法士とリーダーシップ論-1-組織で働く・多職種との協働	〃
6		理学療法士とリーダーシップ論-2-組織をまとめる	〃
7		理学療法士とリーダーシップ論-3-後輩の育成（実習生への対応）	〃
8		理学療法士と起業-1-起業に必要な知識	〃
9		理学療法士と起業-2-具体的な起業方法	〃
10		理学療法士と起業-3-グループワーク	〃
11		理学療法士とセルフメンテナンス-1-ストレスの対処法	〃
12		理学療法士とセルフメンテナンス-2-体調管理	〃
13		最新の情報-1-関与する医療制度の最新情報	〃
14		最新の情報-2-介護・福祉制度の最新情報	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	大町かおり・高木綾一 著：リハビリテーション職種のキャリア・デザイン，シービーアール，2017
成績・評価の方法	授業参加状況 20%，レポート 60%，発表 20%
その他（履修上の留意点）	理学療法臨床実習Ⅰの前に集中して実施する。 具体的に自分の将来を考えながら参加してください。 事前事後学修は，レポート課題を作成・提出することで行えるように構成しています。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	病態運動学Ⅰ		
担当教員	大町 かおり		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
運動学や運動学実習で学んだ正常な身体運動の基礎知識と分析技術をもとに、主に支持基底面と重心、各関節の動き、各関節に作用する外力と内力による関節モーメント、筋による制御などの観点から正常動作の機序を再学習する。そのうえで、主な関節の関節可動域制限や筋力低下による動作障害の基本的な機序を学び、症例の基本動作を運動学的に分析し、問題点の抽出と治療計画に応用可能となることを目標とする。対象とする動作として、平地歩行、椅子からの立ち上がり動作、端座位・立位姿勢について分析方法を学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
ヒトの日常的な運動および動作を運動学的・運動力学的に理解し、具体的に表現できる方法を知り、他者に伝えることができる。（表現方法は、口頭、同じ運動・動作の模倣、図示での表現、および文章での表現の4種）特に、病態運動学Ⅰでは「姿勢観察」「姿勢分析」の基礎を学び実践できるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		動作分析学・総論-1：運動と動作，体位と構え	大町かおり
2		動作分析学・総論-2：支持基底面と重心，基本的な動作分析の表現方法	〃
3		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-1 臥位-①	〃
4		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-2 臥位-②	〃
5		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-3 座位-①	〃
6		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-4 座位-②	〃
7		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-5 立位-①	〃
8		姿勢観察と姿勢分析 姿勢観察-6 立位-②	〃
9		姿勢観察と姿勢分析 姿勢クイズ-1 問題作成	〃
10		姿勢観察と姿勢分析 姿勢クイズ-2 解答確認	〃
11		姿勢観察と姿勢分析 姿勢分析-1 座位保持-①	〃
12		姿勢観察と姿勢分析 姿勢分析-2 座位保持-②	〃
13		動作観察と動作分析 動作観察-1 寝返り-①	〃
14		動作観察と動作分析 動作観察-2 寝返り-②	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：石井慎一郎：動作分析臨床活用講座，メジカルビュー社 および随時プリントを配布する。 参考書：中村隆一，他：基礎運動学，医歯薬出版， 中村隆一，他：臨床運動学，医歯薬出版 山岸茂則，編：臨床実践動きのとらえかた，文光堂
成績・評価の方法	レポート（30％）・試験（70％）

その他（履修上の留意点）	講義→実習→演習という授業形態で毎回レポート提出があります。 予習復習を自主的に行いましょう。 また、授業には動きやすい服装（Tシャツ・ジャージ等）で参加してください。
---------------------	---

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	病態運動学Ⅱ		
担当教員	大町 かおり		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
正常な身体運動の基礎知識と分析技術をもとに、症例の基本動作を運動学的に分析し、問題点の抽出と治療計画に応用可能となることを目標とする。病態運動学Ⅰで取り上げた動作の他に、さらに多様な動作として階段昇降、床からの立ち上がり動作、寝返り・起き上がり動作について分析方法を学ぶ。また、具体的な障害の事例として変形性膝関節症等の典型的加齢変性に伴う筋骨格系疾患を取り上げて、その分析方法を実践的に学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
病態運動学Ⅱに引き続き、ヒトの日常的な運動および動作を運動学的・運動力学的に理解し、具体的に表現できる方法を知り、他者に伝えることができる（「動作観察」「動作分析」の基礎を学び実践できるようになる）。 また、さまざまな疾患や外傷により生じる身体機能障害と異常運動との関連性を理解し、運動制御理論についての知識を深め、中枢神経障害や骨関節障害をもつ症例の基本動作を運動学的に分析し、問題点の抽出と治療計画に役立てられるようになる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		動作分析学・総論：病態運動学Ⅰの復習と実際に臨床実習で学んだ動作分析	大町かおり
2		動作観察と動作分析 動作分析-1 椅子からの立ち上がり-①	〃
3		動作観察と動作分析 動作分析-2 椅子からの立ち上がり-②	〃
4		動作観察と動作分析 動作分析-3 椅子からの立ち上がり-③	〃
5		動作観察と動作分析 動作分析-4 さまざまな歩行-①	〃
6		動作観察と動作分析 動作分析-5 さまざまな歩行-②	〃
7		動作観察と動作分析 動作分析-6 さまざまな歩行-③	〃
8		症例から考える動作分析 ペーパーシェント-1 整形疾患-①	〃
9		症例から考える動作分析 ペーパーシェント-2 整形疾患-②	〃
10		症例から考える動作分析 ペーパーシェント-3 中枢疾患-①	〃
11		症例から考える動作分析 ペーパーシェント-4 中枢疾患-②	〃
12		疾患と動作分析 さまざまな疾患と動作の特徴-1	〃
13		疾患と動作分析 さまざまな疾患と動作の特徴-2	〃
14		疾患と動作分析 さまざまな疾患と動作の特徴-3	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：月城慶一，他：観察による歩行分析，医学書院。 および随時プリントを配布する 参考書：中村隆一，他：基礎運動学，医歯薬出版， 中村隆一，他：臨床運動学，医歯薬出版 山岸茂則，編：臨床実践動きのとらえかた，文光堂
-----------	--

成績・評価の方法	レポート（30％）・試験（70％）
その他（履修上の留意点）	講義→実習→演習という授業形態で毎回レポート提出があります。 予習復習を自主的に行いましょう。また、授業には動きやすい服装（Tシャツ・ジャージ等）で参加してください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法総合演習 I		
担当教員	専任教員		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
2 年前期までに学んだ基礎科目の内容を復習する。特に、解剖学（骨・関節系，筋系，神経系）の知識と理学療法評価学（関節可動域測定，徒手筋力検査法）の技術を結び付けることを目標とする。 臨床評価実習 I に向けた準備とする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
各関節構造の特徴と運動が説明できる。 各骨格筋の作用と神経支配が説明できる。 関節可動域測定，徒手筋力検査が解剖学的知識を基に正しく実施できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		肩甲帯，上肢の関節構造と運動に関わる筋	専任教員
2		骨盤帯，下肢の関節構造と運動に関わる筋	〃
3		脊柱の関節構造と運動に関わる筋	〃
4		関節可動域測定	〃
5		〃	〃
6		徒手筋力検査	〃
7		〃	〃
8		まとめ	〃

テキスト・参考図書	なし
成績・評価の方法	小テスト，実技試験，筆記試験により総合的に判定する。
その他（履修上の留意点）	選択科目ですが，基礎知識に不安のある学生は履修することを勧める。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法総合演習Ⅱ		
担当教員	専任教員		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
2 年までに学んだ基礎科目の内容を復習する。特に、解剖学・生理学（神経系）の知識と理学療法評価学（反射・協調性・平衡機能、片麻痺運動機能検査）の技術を結び付けることを目標とする。 臨床評価実習Ⅱに向けた準備とする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
神経系の障害に関する検査法の理論的背景が説明できる 神経系の障害に対する検査法が基礎知識を基に正しく実施できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		神経系の構造と機能	
2		末梢神経系の構造と機能	
3		運動の調節と神経系	
4		各種反射検査	
5		協調性検査	
6		平衡機能検査	
7		片麻痺運動機能検査	
8		まとめ	

テキスト・参考図書	なし
成績・評価の方法	小テスト，実技試験，筆記試験により総合的に判定する。
その他（履修上の留意点）	選択科目ですが，基礎知識に不安のある学生は履修することを勧める。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法総合演習Ⅲ		
担当教員	福谷 保		
配当年次	4 年次	配当学期	後期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
国家試験に出題される内容の中から多くの学生が苦手意識を持つ医用画像，心電図，発達障害などを中心に知識の確認をする．			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
医用画像の特徴を指摘し，正しく判定できる． 正常心電図と病的心電図の違いを指摘し，正しく判定できる． 発達障害の特徴と対処法が説明できる．

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		各種医用画像のみかた	福谷 保
2		〃	〃
3		心電図のみかた	〃
4		〃	〃
5		発達障害	〃
6		〃	〃
7		その他	〃
8		〃	〃

テキスト・参考図書	なし
成績・評価の方法	小テスト，参加態度，参加状況により総合的に判定する．
その他（履修上の留意点）	選択科目ですが，基礎知識に不安のある学生は履修することを勧める． 12 月から 1 月の間で開講する．

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法研究法Ⅰ		
担当教員	熊本 圭吾		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	15 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)

臨床実践とともに「研究」に取り組む事は、理学療法という専門領域を確立・発展させるためにも重要である。また、Evidence Based Medicine を実施していくためには、エビデンスとなる学術論文が読めることと、実証的な取り組みができることが必要となる。

本講義では、医療分野における研究に関する基礎的な知識を概観するとともに、研究倫理や研究における不適切な行為について学び、理学療法研究法演習（卒業研究）および今後の研究活動を進める上で必要となる基礎的な知識を身に着けることを目標とする。また、関連領域の研究論文を読むことを通して、研究の方法や科学的な態度に触れることも目的とする。

学 習 目 標 (行 動 目 標)

- ・ 研究や研究論文の意義が理解できる
- ・ 目的とする研究論文を探すことができる
- ・ 論文の基本的な読み方と書き方を理解する
- ・ 先行研究をまとめて伝えることができる
- ・ 研究倫理、研究における不正について理解できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		なぜ研究？	熊本 圭吾
2		基本となる力	〃
3		文献の探し方	〃
4		学術論文の読み方・読解力	〃
5		学術論文の読み方	〃
6		テーマ・課題選び	〃
7		先行研究の理解・論文を批判的に紹介する	〃
8		研究倫理	〃
9		文献をレビューする・引用の作法	〃
10		文献をレビューする	〃
11		研究方法	〃
12		研究計画	〃
13		統計解析、その前に	〃
14		プレゼンテーション	〃
15		卒業研究用文献レビューの発表	〃

テキスト・参考図書	特に指定しません
-----------	----------

成績・評価の方法	期末試験 50%, 提出課題・発表 50%
その他（履修上の留意点）	文献を読む課題が多くなります。レポートや発表も研究を念頭に置いたものとなりますので、そのつもりで取り組んでください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法研究法Ⅱ		
担当教員	専任教員		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
理学療法研究法Ⅰで学んだ内容を具体的に実践し、最終的な卒業研究の研究計画を立てる。文献の抄読では批判的な読解を心掛け、客観的な思考を展開する。研究計画の作成途上では科学的な判断ができるように、他者とのディスカッションが積極的にできることを期待する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・研究疑問を明確にし、研究テーマが設定できる ・研究計画が立てられる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		1. 研究テーマの絞り込み 先行研究の収集と抄読 2. 研究方法の検討 3. 予備的な実験・調査の実施 4. 研究計画書の作成 5. 研究計画発表会 6. 研究計画書の修正	専任教員
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	なし
成績・評価の方法	研究計画発表会，提出物，参加状況，参加態度により総合的に判定する。
その他（履修上の留意点）	担当教員，他学生とのディスカッションを積極的に行うこと

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法研究法演習（卒業研究）		
担当教員	専任教員		
配当年次	4 年次	配当学期	通年
年間授業回数	3 0 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
本演習では理学療法研究法Ⅰ，Ⅱで学んだことをベースに，具体的なテーマを持って研究を実施する。研究目的とその対象に応じて仮説を立て，種々の調査や実験を行い，その結果を整理して得た検証の成果を考察する。これを通して，医療従事者としての広い視野を養い，様々な疑問や問題に対する問題解決能力を身につける。また，研究成果を口頭で発表し，論文にまとめる。以上を通じて，発表技術と科学的論文の作成方法を体得させる。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
・研究計画に沿って研究を進めることができる ・結果を解析し論理的に考察ができる ・研究をまとめ、発表し、卒業論文にまとめることができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1			
2		担当教員の指導により、原則として 2～3 人のグループで研究を行う	
3			
4		詳細については改めて連絡する	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

26			
27			
28			
29			
30			

テキスト・参考図書	なし
成績・評価の方法	課題（口頭発表・論文）80%、参加態度 20%
その他（履修上の留意点）	各担当教員の指導を十分に受けた上で、探究心を持ち、 実証的に取り組むこと

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法倫理・管理学		
担当教員	金井 敏男、阿部 裕一		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
理学療法部門の管理運営、及び理学療法士としての職業倫理と人材像を理解することを目的とする。医療従事者として働く病院・施設等における組織と管理システムの特徴とその実際を理解する。また、臨床・教育・研究において理学療法部門を適正で効率的に運営するための課題と方法を理解する。その上で一般的な理学療法部門管理として、経営・人事・予算・物品・部門開設・チームワーク・危機管理などに関わる概念・倫理・制度・方法などを理解する。チームの一員としての自己の特性と課題を確認し、生涯学習の必要性を認識する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
1.	一般的な管理とそのシステムについて理解できる。
2.	病院・施設の組織と管理システム、および理学療法の業務とその流れが理解できる
3.	診療報酬と施設基準の概略が理解できる。
4.	職業倫理と労務管理について理解できる。
5.	スタッフ・リーダー・指導者としての在り方を理解し、臨床実習や卒後の臨床で行動化できるようにする。
6.	教育・研究に対する動機づけとその実践に寄与できるように自己啓発できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		理学療法教育管理学総論(管理の定義、基本的考え方、ホスピタリティ)	金井 敏男
2		管理の沿革、管理計画、組織の構造と種類	“
3		病院組織と理学療法部門の組織	“
4		理学療法部門の職業倫理と労務管理	“
5		理学療法部門の人事管理(スタッフとして必要なこと)	“
6		理学療法部門の人事管理(リーダーまたは指導者として必要なこと)	“
7		理学療法診療業務管理(施設基準と診療報酬の一般的事項)	“
8		基本診療料の特殊診療料にかかわるリハビリテーションの施設基準	“
9		特掲診療料にかかわる施設基準(疾患別リハビリテーション)・その他の診療料	“

10		理学療法直接診療に関する業務管理(治療・診療記録・実績の集積・関連部門との連携)	“
11		施設・備品の管理	“
12		教育業務管理(部門内教育・対外的教育活動)	“
13		研究業務管理(過程・体制・評価)・自己管理	“
14		経営管理(事業計画・収支計画)	“
15		その他の管理(病院機能評価・医療監査・業務実績)	“

テキスト・参考図書	テキスト:奈良 勲:理学療法概論 第6版 医歯薬出版 参考書:①金谷さとみ、高橋仁美:リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック メディカル ビュー ②植松光俊:理学療法管理学 南江堂 ③診療点数早見表(最新版) 医学通信社
成績・評価の方法	テーマ型のレポートによる評価100%
その他（履修上の留意点）	本科目は、一般的な教育管理と病院・施設における診療・教育・研究・人事管理・経営管理について学び、理学療法士としてどうあるべきかを考え実践につなげるものである。事前学習として、日頃よりテキストや種々の自己啓発本を参考に医療技術者としての人間性を身につける努力をすること。また、臨床評価実習での経験を元に理学療法士としての資質の向上に努める。事後学習では、講義ノートを作成し内容を整理、理解し、自己分析と臨床現場における行動表現をするための指標としてほしい。また、患者指導やチーム医療に必要なチーム観・リーダーシップ・フォロアーシップのあり方を考えてほしい。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学総論		
担当教員	福谷 保		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
理学療法の実施過程における評価の意義，目的を確認する．理学療法士が入手すべき各種の検査結果（医用画像，血液生化学検査，生理検査など）や医師，看護師，作業療法士，言語聴覚士などから得られる情報の意義と利用方法を学ぶ．さらに，各論で学ぶことになる障害を把握するための評価方法をICFの分類をもとに概観する．			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
理学療法評価の意義と目的が説明できる． 理学療法の実施過程と評価項目の関係が説明できる．

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/2	理学療法の実施過程における評価の意義と目的，記録の重要性	福谷 保
2	10/9	理学療法評価における情報収集（各種検査結果や情報の意義と利用方法）	〃
3	10/16	国際生活機能分類（ICF）と理学療法評価	〃
4	10/23	心身機能・身体構造の障害を把握するための評価（運動器系）	〃
5	10/30	心身機能・身体構造の障害を把握するための評価（神経系）	〃
6	11/6	活動制限・参加制約の評価	〃
7	11/13	姿勢・動作の観察と分析	〃
8	11/20	理学療法評価における統合と解釈	〃

テキスト・参考図書	松澤 正：理学療法評価学 金原出版
成績・評価の方法	筆記試験 100%
その他（履修上の留意点）	授業中に意見を求めることがあります．自分の考えを積極的に発言することを望みます．

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学Ⅰ（関節機能系検査）		
担当教員	赤羽 勝司		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
理学療法評価の一連の過程の中で、各種検査・測定が実施されるが、その1項目の関節機能系検査である関節可動域の評価について理解し、測定方法の実際を習得する。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
関節可動域評価の目的を理解し、実際の測定技術を習得する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		関節可動域評価総論	赤羽 勝司
2		関節可動域評価各論 股関節(1)	〃
3		関節可動域評価各論 股関節(2)	〃
4		関節可動域評価各論 膝関節(1)	〃
5		関節可動域評価各論 足関節・足部(1)	〃
6		関節可動域評価各論 足関節・足部(2)	〃
7		関節可動域評価各論 肩甲帯(1)	〃
8		関節可動域評価各論 肩関節(1)	〃
9		関節可動域評価各論 肩関節(2)	〃
10		関節可動域評価各論 肘関節	〃
11		関節可動域評価各論 前腕・手関節	〃
12		関節可動域評価各論 体幹(1)	〃
13		関節可動域評価各論 体幹(2)	〃
14		関節可動域評価各論 手指・足趾	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：松澤 正：理学療法評価学 第4版，金原出版 参考書：丸山仁司他編：ザ・ROM，アイベック 奈良勲編集：系統別・治療手技の展開，共同医書出版社 嶋田智明，金子 翼：関節可動障害，メディカルプレス Cynthia C.Norkin,D.Joyce White：関節可動域測定法，協同医書
成績・評価の方法	授業態度 10%，実技試験 45%，期末試験 45%
その他（履修上の留意点）	実技を中心に授業を展開していきます。運動ができる服装で受講して下さい。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学Ⅱ（筋機能系検査）		
担当教員	下田 浩一		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
理学療法評価のなかでも基本的項目である筋力評価について学ぶ。筋力発揮のメカニズムや筋力低下の原因を理解した上で、徒手筋力検査法の方法論と技術を習得することが主な目的となる。具体的には、検査の目的・特徴・信頼性の理解、各関節運動の主動作筋と共同筋の理解と代償運動の見極め、適切な検査手技の実施、判定基準と段階付けの理解ができることが目標となる。 学習に当たっては、筋の起始・停止、支配神経、作用について把握できていることが必要である。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 筋力評価の方法と原理を説明できる 2. 筋力評価を適切な技術と態度で実施できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション	下田 浩一
2		筋のつくりと収縮過程	〃
3		運動単位と筋力	〃
4		筋力評価の手順 MMT の歴史と原理	〃
5		MMT の実際（下肢－股関節）	〃
6		MMT の実際（下肢－股関節, 膝関節）	〃
7		MMT の実際（下肢－足関節, 足指）	〃
8		MMT の実際（体幹, 頭頸部）	〃
9		MMT の実際（上肢－肩甲骨）	〃
10		MMT の実際（上肢－肩関節）	〃
11		MMT の実際（上肢－肘関節, 前腕）	〃
12		MMT の実際（上肢－手関節, 手指）	〃
13		MMT の実際（顔面, 咀嚼筋）	〃
14		MMT の実際（まとめ）	〃
15		実技総合演習（MMT の知識・技術の統合と実際）	〃

テキスト・参考図書	テキスト：津山 直一 訳：新・徒手筋力検査法 第9版，協同医書出版社 松澤 正：理学療法評価学 第2版，金原出版 参考書：千住秀明 他：理学療法評価法，神陵文庫 島田智明：理学療法評価 その臨床的アプローチ，メディカルブレス
成績・評価の方法	小テスト20%，総合演習の遂行状況20%，筆記試験60%

その他（履修上の留意点）	各回の始めに，整形外科疾患の基礎知識に関する小テストを実施する。 代表的な整形外科疾患について学んでおくことが望ましい。
---------------------	---

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学Ⅲ（各種検査と測定）		
担当教員	山本 良彦		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	3 0 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
バイタルサインの計測，身体計測，知覚検査，疼痛の評価，反射検査，筋緊張検査，運動協調性検査，中枢性麻痺の検査，整形外科的検査，バランス検査，発達検査など（関節可動域測定，筋力検査，高次脳機能検査，ADL評価以外）の検査・測定の目的と方法を学ぶ。また，OSCEを通して臨床的評価能力の修得状況を確認する。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 各種検査測定の目的を理解することができる。 2. 各種検査測定の方法を理解し，実践することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1・2		授業オリエンテーション，バイタルサイン計測	山本 良彦
3・4		四肢長・四肢周径の測定	〃
5・6		知覚検査，疼痛の評価	〃
7・8		深部反射・病的反射検査	〃
9・10		筋緊張検査	〃
11・12		運動協調性の検査	〃
13・14		片麻痺運動機能検査(ブルンストロームの回復段階・12段階検査)①	〃
15・16		片麻痺運動機能検査(ブルンストロームの回復段階・12段階検査)②	〃
17・18		片麻痺運動機能検査(ブルンストロームの回復段階・12段階検査)③	〃
19・20		脳卒中機能障害評価法(SIAS)と機能的バランス指標(FBS)	〃
21・22		整形外科的検査①	〃
23・24		整形外科的検査②	〃
25・26		バランス機能検査, Timed Up and Go test(TUG)	〃
27・28		小児発達検査	〃
29・30		OSCE	〃

テキスト・参考図書	テキスト：松澤 正：理学療法評価学 第6版，金原出版 参考書：中島喜代彦 編：理学療法評価法(第3版) 神陵文庫 田崎義昭 他著：ベッドサイドの神経の診かた(第17版) 南山堂 細田多穂 監：理学療法評価学テキスト(改訂第2版) 南江堂 奈良 勲，内山 靖：図解 理学療法検査測定ガイド，文光堂
成績・評価の方法	筆記試験 50%，OSCE 50%
その他（履修上の留意点）	各自の打腱器，メジャーを購入してもらう予定。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学Ⅳ（模擬症例）		
担当教員	福谷 保		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）

理学療法は評価に始まり評価に終わるといわれる。理学療法の実施過程において、評価は治療目標の設定、治療方針、治療方法の選択に直結する重要な事項である。本講義では、理学療法評価の過程を模擬症例を通して実践的に理解することを目的とする。具体的には主に整形外科疾患の模擬症例を通して、疾患の症状や経過を理解した上で、評価計画の立案、評価の実施、評価結果の統合と解釈を行う。

学 習 目 標（行 動 目 標）

模擬症例の疾患特性を踏まえて、理学療法評価を計画できる
 理学療法評価の結果を論理的に解釈できる
 評価結果をレポートにまとめられる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション、理学療法評価の目的、意義、流れについて再確認	福谷 保
2		今までに学習した評価項目の確認と分類	〃
3		理学療法評価の計画はどう立てるか？	〃
4		理学療法評価の結果をどうまとめるか？	〃
5		評価レポートの書き方	〃
6		模擬症例実習 1 模擬症例の提示と評価計画の立案	〃
7		評価の実施	〃
8		評価結果のまとめ（1）	〃
9		評価結果のまとめ（2）	〃
10		評価レポート作成	〃
11		模擬症例実習 2 模擬症例の提示と評価計画の立案	〃
12		評価の実施	〃
13		評価結果のまとめ（1）	〃
14		評価結果のまとめ（2）	〃
15		評価レポート作成	〃

テキスト・参考図書	未定
成績・評価の方法	レポート：50% 筆記試験：50%
その他（履修上の留意点）	模擬症例を検討するときはグループワークを行う。他者の意見に耳を傾ける、要点を整理して自分の意見を伝えることも課題として取り組んでください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学Ⅴ（実症例）		
担当教員	山本 良彦		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	30 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
この講座においては、学生が相互に模擬症例となり評価のシミュレーションを行い、ICIDH および ICF の考え方に基づき理学療法評価全体の流れを学んでいく。その中で運動機能評価を中心に、得られた情報を統合・解釈し、問題点を抽出し、目標を設定し、理学療法プログラムを立案し、考察するという具体的な理学療法評価の組み立てを理解する。また、複数の実症例をグループで評価する過程で、これまでに培った知識・技術を実践する。臨床実習に必要な知識・技術・態度や学修した専門的な知識を発展、統合させて多角的に理解できる準備をする。また、OSCE を通して臨床的評価能力の修得状況を確認する。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 「情報収集」から「統合と解釈」「考察」における一連の理学療法評価を理解する。 2. 実症例においてのみ経験できる臨床的な感覚を養う。

回	開講日	講義および実習の内容	担 当
1・2		オリエンテーション	山本 良彦
3・4		理学療法評価演習 1	〃
5・6		理学療法評価演習 2	〃
7・8		理学療法評価演習 3	〃
9・10		実症例評価演習準備	〃
11・12		実症例評価演習 1	〃
13・14		実症例評価演習準備	〃
15・16		実症例評価演習 2	〃
17・18		実症例評価演習準備	〃
19・20		実症例評価演習 3	〃
21・22		実症例評価演習準備	〃
23・24		実症例評価演習 4	〃
25・26		実症例評価演習準備	〃
27・28		実症例評価演習 5	〃
29・30		OSCE	〃

テキスト・参考図書	必要に応じて資料を配布する。
成績・評価の方法	OSCE (Objective Structured Clinical Examination) 50% レポートなどの提出物 50%
その他（履修上の留意点）	実症例演習の講義はユニフォームを着用して行います。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法評価学Ⅵ（高次脳機能検査）		
担当教員	中島 八十一		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
講義と実習を通じて、理学療法における高次脳機能障害の評価と神経学的検査方法の意義と実際について学習する。神経学的検査法では、脳神経の診かた、意識障害、記憶障害、注意障害、認知機能を扱う。高次脳機能障害として失認、失行、失語、遂行機能障害を扱う。脳神経検査ではⅠ～ⅩⅡそれぞれの神経の解剖学的基本事項の確認、検査の目的と意義、検査方法を理解し、実際にその検査を実施できるようにする。また、検査結果の判定、解釈について理解する。高次脳機能障害の評価については、病巣との関連から特徴的な症状や病態を理解し、日常の場面で起こりうる問題となる行動について捉える。代表的な評価法を紹介し、手順や結果の判定について学ぶ。			

学 習 目 標（行 動 目 標）	
1. 神経学的検査法の基礎を説明でき、病歴が取れる。 2. 意識レベルを診ることができる。 3. 脳神経検査を行える。 4. 記憶障害、注意障害、認知機能を説明でき、評価が行える。 5. 失認、失行、失語、遂行機能を説明でき、評価が行える。	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/10	神経学的検査法の基礎・病歴の取り方	中島 八十一
2	4/17	意識レベルの診かた	〃
3	4/24	脳神経の診かた	〃
4	5/8	〃	〃
5	5/15	〃	〃
6	5/22	高次脳機能障害とは	〃
7	5/29	記憶障害の診かた	〃
8	6/5	注意障害の診かた	〃
9	6/12	遂行機能障害の診かた	〃
10	6/19	失行の診かた	〃
11	6/26	失語の診かた	〃
12	7/3	失認の診かた	〃
13	7/10	半側空間無視の診かた	〃
14	7/17	認知症の診かた	〃
15	7/24	高次脳機能障害の検査法	〃

テキスト・参考図書	テキスト： 稲川利光監修：高次脳機能障害－ひと目でわかる基礎知識と患者対応－， 総合医学社 参考書：石合純夫：高次脳機能障害学，医歯薬出版
-----------	---

	松澤 正：理学療法評価学，金原出版 岡庭 豊：病気が見える vol.7 脳・神経，メディックメディア
成績・評価の方法	期末試験１００％
その他（履修上の留意点）	生理学，解剖学の脳神経を復習しておくこと

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動療法学Ⅰ（関節機能系）		
担当教員	下田 浩一		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）

運動療法は、理学療法の中において大きな柱として位置づけられており、解剖学、運動学、生理学などの専門基礎知識を背景に、理学療法士が得意とする分野である。この授業においては、基本的な運動療法を適切に行うための知識と技術を習得することを目的とする。総論として、運動療法の定義、歴史、対象、理論、種類、機器について学び、各論として、関節可動域運動、ストレッチングなどの理論と技術を学ぶ。

学 習 目 標（行 動 目 標）

理学療法を実践するために必要な基礎的知識・技術を修得するために

1. 運動療法の基本的概念を理解し説明できる。
2. 運動療法の基本的技術を理解し説明できる。
3. 各種運動療法の禁忌について説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション、運動療法概論	下田 浩一
2		組織の病態生理と修復-1	〃
3		組織の病態生理と修復-2	〃
4		関節の構造と機能、関節可動域制限の病態	〃
5		運動の種類、筋の収縮様式	〃
6		関節可動域運動-1	〃
7		関節可動域運動-2	〃
8		ストレッチング-1	〃
9		ストレッチング-2	〃
10		ストレッチング-3	〃
11		関節モビライゼーション-1	〃
12		関節モビライゼーション-2	〃
13		関節モビライゼーション-3	〃
14		器具による関節可動域運動	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：市橋則明：運動療法学 第2版，文光堂 参考書：「理学療法士のための運動療法」，金原出版 他
成績・評価の方法	期末試験 60%，レポート 15%，小テスト 15%，ポートフォリオ 10%

その他（履修上の留意点）	この授業は各疾患の運動療法の基礎となる授業です。 予習よりも復習に力を入れて学修しましょう。 また、実技を伴う授業であるため動きやすい服装で参加してください。
---------------------	--

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動療法学Ⅱ（筋・神経機能系）		
担当教員	下田 浩一		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）

運動療法学は、理学療法の中において大きな柱として位置づけられており、解剖学、運動学、生理学などの専門基礎知識を背景に、理学療法士が得意とする分野である。この授業においては、基本的な運動療法を適切に行うための知識と技術を習得することを目的とし、基本的な各種運動療法（筋力増強運動、持久力増強運動、協調性運動、その他の領域の運動療法）の理論と技術を学ぶ。

学 習 目 標（行 動 目 標）

理学療法を実践するために必要な基礎的知識・技術を修得するために

1. 運動療法の基本的概念を理解し説明できる。
2. 運動療法の基本的技術を理解し説明できる。
3. 各種運動療法の禁忌について説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		筋力増強の基礎理論-1	下田 浩一
2		筋力増強の基礎理論-2	〃
3		筋力増強運動-1	〃
4		筋力増強運動-2	〃
5		徒手による筋力増強運動-1	〃
6		徒手による筋力増強運動-2	〃
7		徒手による筋力増強運動-3	〃
8		Closed kinetic chainにおける筋力増強運動	〃
9		腰部安定化機構における筋力増強運動	〃
10		肩関節安定化機構における筋力増強運動	〃
11		持久力増強運動-1	〃
12		持久力増強運動-2	〃
13		協調性運動障害の運動療法	〃
14		神経生理学的アプローチ	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：市橋則明：運動療法学 第2版，文光堂 参考書：「理学療法士のための運動療法」，金原出版 他
成績・評価の方法	期末試験 60%，レポート 15%，小テスト 15%，ポートフォリオ 10%

その他（履修上の留意点）	この授業は各疾患の運動療法の基礎となる授業です。 予習よりも復習に力を入れて学修しましょう。 また、実技を伴う授業であるため動きやすい服装で参加してください。
---------------------	--

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動療法学演習		
担当教員	榎谷 保		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
運動療法学Ⅰ・Ⅱで学んだ理論と方法について学生をモデルにして実際に適応する。その過程では治療前の評価とその結果に基づく目標設定、具体的な治療計画を立てて経過を追い、効果判定を行う。 この演習を通じて理学療法の実施過程を模擬的に体験する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
理学療法技術の基礎的な理論を踏まえて実践することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		筋力増強を目的とした運動療法	榎谷 保
2		〃	〃
3		〃	〃
4		筋持久力の改善を目的とした運動療法	〃
5		〃	〃
6		〃	〃
7		関節可動域の拡大を目的とした運動療法	〃
8		〃	〃
9		〃	〃
10		臨床評価実習で担当した症例に対する運動療法の立案と実施	〃
11		〃	〃
12		〃	〃
13		〃	〃
14		〃	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	なし
成績・評価の方法	レポート，参加状況による総合評価
その他（履修上の留意点）	グループに分かれて実施します。協力し合って行ってください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	物理療法学Ⅰ		
担当教員	下坂 充		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
物理療法学の概論として、各治療手段の物理学の特性を学ぶ。さらに、物理療法の対象となる疾患・障害の概要と物理療法が生体に与える生理学的影響の概要を学ぶ。その上で、物理療法の適応・禁忌および注意事項の基礎を確認する。 各論として、表在温熱・寒冷療法、牽引・圧迫療法、水治療法、超音波療法、超音波画像診断、光線療法、電気診断、筋電図バイオフィードバック、電気療法、ジアテルミーの理論と実際について学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 物理療法の特徴を踏まえ、適応・禁忌を考慮した上で、目的に応じた治療に関する説明を行える。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		物理療法概論、物理療法の対象となる病態	下坂 充
2		熱エネルギー、温熱・寒冷の生理学	〃
3		表在性温熱・寒冷療法総論	〃
4		ホットパック・パラフィン、寒冷療法各論	〃
5		牽引療法、圧迫療法、1～5 回分のまとめ	〃
6		水治療法	〃
7		超音波療法	〃
8		超音波画像診断装置	〃
9		光線療法、6～9 回分のまとめ	〃
10		電磁的エネルギー、電気療法総論	〃
11		電気診断、筋電図バイオフィードバック	〃
12		電気療法各論 (TES, FES)	〃
13		電気療法各論 (TENS, その他)	〃
14		電気療法各論 (干渉波, その他)	〃
15		ジアテルミー、10～15 回分のまとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：渡部一郎訳：EBM物理療法，医歯薬出版 参考書：濱出茂治編：テキスト物理療法学 基礎と臨床，医歯薬出版，2016
成績・評価の方法	・ 期末試験：70% ・ 小テスト結果と講義中の提出課題：30%
その他（履修上の留意点）	・ 教科書以外に配付資料あり。配付資料も学習に活用する。 ・ 講義資料の予習に基づいたグループディスカッションを実施する。 講義中に提出課題作成を求める。 ・ 適宜、小テストを実施する。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	物理療法学演習		
担当教員	下坂 充		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	30 回（15 回 2 コマ続き）	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
各治療機器を用いた実験実習において、治療時の生体反応を簡便な計測機器を用いて確認を行った後、得られたデータに基づき、その意義づけの検討を口頭発表と討論を通して行い、臨床に応用可能な判断能力を身につける。また、物理療法における臨床判断分析の基礎および根拠に基づいた理学療法実践の基礎的概念を学び、模擬症例検討を通して臨床判断の実践を模擬的に経験する。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 各種物理療法の特徴を踏まえ、適応・禁忌を考慮した上で、治療目的に応じて基本的な治療手技を行える。 2. 物理療法における臨床判断および根拠に基づいた理学療法実践の基礎について説明できる。 3. 症例に関する臨床判断を模擬的に経験し、物理療法の臨床的適用の工夫や他の治療法との併用を含む効果的な治療方針の統合が行える。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1・2		実演と説明：実験実習（1）表在温熱・寒冷、牽引、圧迫、光線療法	下坂 充
3・4		実験実習（1）	〃
5・6		実験実習（1）	〃
7・8		実験実習発表会（1）	〃
9・10		実演と説明：実験実習（2）水治療法	〃
11・12		実験実習（2）	〃
13・14		実験実習（2）	〃
15・16		実験実習発表会（2）	〃
17・18		実演と説明：実験実習（3）超音波、超音波画像、電気療法、ジアテルミー	〃
19・20		実験実習（3）	〃
21・22		実験実習（3）	〃
23・24		実験実習発表会（3）	〃
25・26		物理療法の選択と根拠、模擬症例検討会説明と症例紹介	〃
27・28		模擬症例検討会（1）	〃
29・30		模擬症例検討会（2）	〃

テキスト・参考図書	テキスト：渡部一郎訳：E B M物理療法、医歯薬出版（物療Ⅰと同じ）
成績・評価の方法	・講義中の提出課題：100% ・期末の筆記試験は実施しない。
その他（履修上の留意点）	・適宜、提出課題の作成を行う。 ・グループ活動として実験実習と結果発表を行う。 ・模擬症例検討会はグループワークと全体での発表を組み合わせで行う。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	物理療法学Ⅱ（マッサージ）		
担当教員	赤羽 勝司		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
マッサージに関する基礎的な技術と実践的な知識を習得し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養う。具体的には、マッサージの意義・生体作用、マッサージの基本手技、身体各部のマッサージ施術法、運動器疾患に対するマッサージ施術法について、実習を通してそれぞれの技術を習得する。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
人体の筋組織を触診し、筋や筋間を触知できる技術を習得する。さらに触診術を高めた上で、マッサージの基本手技を習得する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		マッサージの意義、生体作用・マッサージの基本手技	赤羽 勝司
2		身体各部の触診・マッサージ・スポーツマッサージ 頸部(1)	〃
3		〃 頸部(2)	〃
4		〃 上肢(1)	〃
5		〃 上肢(2)	〃
6		〃 背部(1)	〃
7		〃 背部(2)	〃
8		〃 背部(3)	〃
9		〃 臀部(1)	〃
10		〃 臀部(2)	〃
11		〃 下肢(1)	〃
12		〃 下肢(2)	〃
13		〃 下肢(3)	〃
14		〃 下肢(4)	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：プリント 参考書：大谷素明／クリニカルマッサージーひと目でわかる筋解剖学と触診・治療の基本テクニック 増田雄一／山本利春著：スポーツマッサージ，新星出版社 荒川規矩男／川合忠一編集：運動療法の実践，南江堂 市川宣恭編集：スポーツ傷害のためのスポーツ外傷・障害，南江堂 黒田善雄編集：実践スポーツクリニックスポーツのためのセルフケア，文光堂
成績・評価の方法	授業態度 30%，期末試験 70%

その他（履修上の留意点）	1・2年生で修得した「解剖学実習（筋系，体表解剖）」の技術を基本に，さらに触診術を高めていきます．必ず復習し整理しておきましょう．
--------------	---

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法系義肢装具学Ⅰ		
担当教員	高嶋 孝倫		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
義肢装具の種類について用語の徹底から基本構成、さらには使用目的に適応した機能を教授する。Ⅰでは、理学療法士が関与することが多い下肢装具に重点を置き、基本的、かつ使用頻度の高い装具について解説する。国家試験に出題される歴史的な義肢装具についても触れる。装具は体表から力を架ける/受ける事によって成立する事、材料の知識は理学療法士にとっても必要な事から、随所に基礎力学、材料学の解説を含めて教授する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 義肢装具の種類と支給体系を説明できる。 2. 下肢装具の基本構造と動作原理を理解し説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		総論：義肢装具の種類と適応，処方の流れ，支給体系，用語体系	高嶋 孝倫
2		装具総論：装具の種類と目的，装具の処方と適合判定	〃
3		下肢装具：下肢装具の種類と構成	〃
4		短下肢装具：装具の剛性と関節自由度の拘束力	〃
5		短下肢装具：尖足歩行と短下肢装具歩行	〃
6		短下肢装具：短下肢装具の製作方法（実習）	〃
7		下肢装具：長下肢装具，骨盤帯長下肢装具	〃
8		対麻痺用装具：脊髄損傷と下肢装具	〃
9		下肢装具：二分脊椎と下肢装具	〃
10		下肢装具：脳性麻痺と下肢装具	〃
11		ペルテス病装具，先天股脱装具	〃
12		膝装具：膝装具の種類と構成，膝継手の変遷	〃
13		上肢装具：上肢装具の種類と適応	〃
14		上肢装具：神経疾患に対する上肢装具	〃
15		上肢装具：骨関節疾患に対する上肢装具	〃

テキスト・参考図書	テキスト：日本義肢装具学会監修「装具学」医歯薬出版 参考書：日本整形外科学会，日本リハビリテーション医学会監修 「義肢装具のチェックポイント 第8版」 医学書院
成績・評価の方法	期末試験 100%
その他（履修上の留意点）	実習の内容を含む

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法系義肢装具学Ⅱ		
担当教員	高嶋 孝倫		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
Ⅱでは、靴型装具、体幹装具の概念と構成、疾患適用について享受する。理学療法士が関与することが多い義足では、基本的、かつ使用頻度の高い義足について解説する。国家試験に出題される歴史的な義足についても触れる。義足は欠失した下肢の部分的な機能を代償する事で義足歩行が成立する事から、正常歩行の状態と退避させての理解となる。さらに、材料、機構の知識も必要な事から、随所に材料学、機構学の解説を含める。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 義足の基本構造と動作原理を理解し説明できる。
2. 義足歩行について体験的に学ぶ。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		靴型装具：足の変形と矯正，一般靴と靴型装具	高嶋 孝倫
2		靴型装具：靴型装具の構成要素	〃
3		足底装具：足底圧分散の概念，靴型装具と足底装具の適応	〃
4		体幹装具：種類と適応疾患，基本構成，腰痛と体幹装具	〃
5		体幹装具：胸椎疾患，側弯症，頸椎装具	〃
6		義足総論：下肢切断と義足，義足ソケットの機能，義足の構成要素	〃
7		下腿義足：アライメント概念，下腿義足歩行	〃
8		下腿義足：ソケットの種類と変遷，義足足部の機能	〃
9		下腿義足：下腿義足歩行と異常歩行	〃
10		大腿義足：大腿義足歩行と膝のコントロール	〃
11		大腿義足：義足膝継手の機能	〃
12		大腿義足：ソケットの種類と変遷	〃
13		大腿義足：アライメントと調整	〃
14		大腿義足：ダイナミックアライメント調整と異常歩行	〃
15		股義足，膝義足，足部義足	〃

テキスト・参考図書	配布資料 参考書：日本整形外科学会，日本リハビリテーション医学会監修 「義肢装具のチェックポイント 第8版」 医学書院
成績・評価の方法	期末試験 100%
その他（履修上の留意点）	実習の内容を含む

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	日常生活活動学Ⅰ（概論）		
担当教員	福谷 保		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	3 0 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
ADL の概念について学び、理学療法士の視点からADLを評価する意義を理解する。B I やF I Mなどの代表的なADL評価表の具体的手法を学び、評価表の持つ機能について考える。基本動作における正常について各動作の構成している運動を分析し、動作の特徴について理解を深める。基本動作を介助する方法を学び、実習を通じて習得する。また、ADLを支援するための様々な器具の構造や基本的な使用法を学び、指導が実践できるようになることを目的とする。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
ADL の概念を説明できる 基本動作を運動学的に分析できる 基本的な動作介助ができる ADL 評価表の目的と意義が説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1, 2		ADL の概念と範囲	福谷 保
3, 4		ADL と運動学	〃
5, 6		寝返り動作の特徴	〃
7, 8		起き上がり動作の特徴	〃
9, 10		起居動作の介助と指導	〃
11, 12		立ち上がり動作の特徴	〃
13, 14		立ち上がり動作の介助と指導	〃
15, 16		移乗動作の特徴	〃
17, 18		移乗動作の介助と指導	〃
19, 20		リフティング	〃
21, 22		車いすの種類と基本構造	〃
23, 24		歩行補助器具の種類と基本構造	〃
25, 26		ADL の定量的評価	〃
27, 28		ADL 評価の実際	〃
29, 30		まとめ	〃

テキスト・参考図書	未定
成績・評価の方法	授業態度：20%，筆記試験：80%

その他（履修上の留意点）	実技練習は積極的に行うこと
--------------	---------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	日常生活活動学Ⅱ（各論）		
担当教員	川井 伸夫、阿部 裕一		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	3 0 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
日常生活活動学Ⅰでの学習をもとに、理学療法の対象となる主な疾患ごとに機能障害とADLの関連を整理し、ADL訓練や指導の実際について学習する。 グループで一つの疾患を担当し、文献などを調べ、レジメにまとめて発表する。 疾患の病理、病態、特徴から医学的治療を概説し、症状から障害構造を大まかに整理し、ADL動作の指導方法についてまとめる。 効果的なADL動作の獲得を促すための運動学習の理論についても学ぶ。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
疾患別の障害像と日常生活活動の特徴を理解し、基本的運動療法および補助誘導法を習得する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1・2		授業オリエンテーションとグループワーク①	川井 伸夫
3・4		グループワーク②	〃
5・6		グループワーク③	〃
7・8		グループワーク④	〃
9・10		グループワーク⑤	〃
11・12		グループワーク⑥	〃
13・14		グループワーク⑦	〃
15・16		グループワーク⑧	〃
17・18		グループ発表①	〃
19・20		グループ発表②	〃
21・22		グループ発表③	〃
23・24		グループ発表④	〃
25・26		グループ発表⑤	〃
27・28		ADLの知識整理①	〃
29・30		ADLの知識整理②	〃

テキスト・参考図書	テキスト：必要に応じて配布する。 参考書：柴喜嵩 他編；PT・OT ビジュアルテキスト ADL 羊土社 鶴見隆正 他編；日常生活活動学・生活環境学(第5版) 医学書院 細田多穂 監；日常生活活動学テキスト(改訂第2版) 南江堂 伊藤利之 他編；新版日常生活活動学(ADL) 医歯薬出版 千住秀明 監；日常生活活動学(ADL)第2版 神陵文庫 伊藤利之 他監；ADLとその周辺(第3版) 医学書院
成績・評価の方法	期末試験 70% グループワークと発表 30%
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法治療学Ⅰ（脳血管障害）		
担当教員	金井 敏男		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習

授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）

講義では、脳血管障害についてその概要、画像、臨床症状、評価法等の知識を再確認する。実技演習では基本動作に関わる評価と治療についてデモンストレーションし、それを踏まえて学生がペアとなって動作の誘導方法を学ぶ。また、脳血管障害の病期、経過と状況の変化に応じ、基本的理学療法治療とその応用性についても実技を通して理解する。患者の障害像を大まかに分類し、それぞれのケースでの操作、誘導する時のポイントを学ぶ。

学 習 目 標（行 動 目 標）

1. 脳血管障害の概要が理解できる。
2. 脳血管障害の病態生理と機能・活動が理解できる。
3. 脳血管障害の運動療法の考え方が理解できる。
4. 脳血管障害の具体的運動療法を健常者で経験する。
5. 健常者同士で行った運動療法の原理と感触を理解し患者との相違が想像できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		脳血管障害の概要（定義・原因・分類）	金井 敏男
2		脳血管障害の画像診断の紹介	〃
3		脳血管障害の臨床症状の特徴	〃
4		脳血管障害の評価概要	〃
5		脳血管障害の理学療法治療の考え方と治療原理	〃
6		脳血管障害の治療体系の概要	〃
7		脳血管障害患者の運動療法の概要	〃
8		背臥位での頭部・上肢・下肢・体幹・骨盤の単独運動による治療操作	〃
9		背臥位からの寝返り・起き上がりと座位保持治療操作	〃
10		側臥位と腹臥位での頭部・上肢・下肢・体幹・骨盤の単独運動による治療操作	〃
11		長座位・横座位・四つ這いでの頭部・上肢・下肢・体幹・骨盤の単独運動による治療操作および姿勢動作変換	〃
12		膝立ち位・片膝立ち位での姿勢動作変換	〃
13		床面・端座位からの立ち上がりおよび立位にいたる姿勢動作変換とステップを用いた歩行前治療	〃
14		歩行治療とその操作法	〃
15		片麻痺患者の運動療法として単独操作から姿勢動作変換と歩行治療にいたる流れと総括	〃

テキスト・参考図書

テキスト：藤田 勉他監修：脳卒中最前線 第4版：医歯薬出版
 参考書：細田多穂 監修：神経筋障害理学療法学テキスト：南江堂
 荒木信夫 他編：脳卒中ビジュアルテキスト第4版：医学書院
 市川博雄 著：症状・経過観察に役立つ脳卒中の画像のみかた：医学書院
 潮見泰蔵 編：ビジュアル実践リハ 脳神経系リハビリテーション：羊土社
 阿部浩明 他編：脳卒中片麻痺者に対する歩行リハビリテーション：メディカル

	ビュー
成績・評価の方法	期末試験 90%、実習への積極性 10%
その他（履修上の留意点）	本科目は中枢神経障害に対する運動療法の基本形ともいえるものである。したがって事前学習では神経生理学や運動生理学・運動力学とともに種々の中枢疾患の特徴や病態生理を整理し、その機能や活動を再確認しておくこと。 事後学習は、講義ノートを作成して内容を整理し、中枢障害に対する運動療法の考え方と治療原理を確認する。また臨床実習や卒後の臨床にあたり、自身の考えと根拠を反映した技術が駆使できるように備える。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法治療学Ⅱ（運動器障害）		
担当教員	赤羽 勝司、川井 伸夫		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	3 0 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
運動器疾患（整形外科系）の機能障害（切断・脊髄損傷・関節リウマチ含む）に関する理学療法評価と治療技術の基本を理解する。その中で、各疾患を想定した理学療法評価のポイントを整理し、さらに超音波画像を用いて病態把握の理解を高め、標準的な治療の概念について理解を深める。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
運動器疾患及び脊髄損傷や関節リウマチに関するの機能障害を整理し、理学療法を実施する上での評価内容と方法を習得する。評価内容から機能障害を臨床推論し、治療技術の基本を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		運動器疾患の理学療法概論(1)	赤羽 勝司
2		運動器疾患の理学療法概論(2)	〃
3		肩関節周囲疾患に対する理学療法(1)	〃
4		肩関節周囲疾患に対する理学療法(2)	〃
5		肩関節周囲疾患に対する理学療法(3)	〃
6		上肢疾患に対する理学療法	〃
7		股関節疾患に対する理学療法(1)	〃
8		股関節疾患に対する理学療法(2)	〃
9		股関節疾患に対する理学療法(3)	〃
10		膝関節疾患に対する理学療法(1)	〃
11		膝関節疾患に対する理学療法(2)	〃
12		膝関節疾患に対する理学療法(3)	〃
13		足関節・足部疾患に対する理学療法(1)	〃
14		足関節・足部疾患に対する理学療法(2)	〃
15		脊柱（胸・腰椎）疾患に対するの理学療法(1)	〃
16		脊柱（胸・腰椎）疾患に対するの理学療法(2)	〃
17		脊柱（頸椎）疾患に対するの理学療法(1)	〃
18		脊柱（頸椎）疾患に対するの理学療法(2)	〃
19		切断の理学療法；切断の疫学と下肢切断の手術前および義肢装着前評価	川井 伸夫
20		切断の理学療法；下肢切断の義足装着(後)評価	〃
21		切断の理学療法；下肢切断端の管理と義足装着前理学療法	〃
22		切断の理学療法；義足装着後理学療法	〃
23		脊髄損傷に対するの理学療法(1)	赤羽 勝司
24		脊髄損傷に対するの理学療法(2)	〃
25		脊髄損傷に対するの理学療法(3)	〃
26		関節リウマチに対するの理学療法(1)	〃
27		関節リウマチに対するの理学療法(2)	〃

28		演習(1)	//
29		演習(2)	//
30		まとめ	//

テキスト・参考図書	テキスト：奈良 勲監修：運動器疾患の病態と理学療法，医歯薬出版株式会社 参考書：澤村誠志 著 切断と義肢 第2版 医歯薬出版 2016. 高田治実 他編 義肢・装具学 第1版 羊土社 2016. 山寄 勉ほか：整形外科理学療法の理論と技術，メディカルビュー社 富士 武史監修：整形外科疾患の理学療法 改訂第2版，金原出版株式会社 林 典雄ほか：整形外科運動療法ナビゲーション 上肢，下肢・体幹，メディカルビュー社 柳澤 健ほか：PT 臨床実習ルートマップ，メディカルビュー社 石川 朗ほか：臨床実習フィールドガイド改訂第2版，南江堂
成績・評価の方法	授業態度 10%，期末試験 90%
その他（履修上の留意点）	臨床推論には，「運動学」・「解剖学」の基礎的知識が役立ちます．必ず復習し整理しておきましょう．

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法治療学Ⅲ（神経系障害）		
担当教員	下坂 充		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
パーキンソン病，脊髄小脳変性症，筋萎縮性側索硬化症等の代表的な神経・筋難病について，その臨床症状，病態，医学的ケア，理学療法評価，治療方針，理学療法の実践および社会的支援体制等の知識を座学により学ぶ。多様な神経症状や身体障害と精神・心理面の障害を配慮した上で，日常生活自立度の維持を図る方策を具体的に学ぶ。さらに，神経疾患に対する基本的理学療法手段に関して，治療実技を模擬的に経験し，その成果を実技デモンストレーションと口頭説明を用いて発表し合うことにより実践的問題解決能力を高める。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 代表的な神経・筋疾患の臨床症状，病態，医学的ケア，評価，理学療法の基本事項について説明できる。 2. 被験者に対する実技デモンストレーションと口頭説明を実践的観点に基づき行うことができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		神経難病の概要 1（定義、分類、症状、治療法、理学療法士の役割、社会資源）	下坂 充
2		神経難病の概要 2（ 〃 ）	〃
3		神経難病の概要 3、各論の学習方法説明	〃
4		パーキンソン病 1（症状、病態、評価、治療方針、理学療法）	〃
5		パーキンソン病 2（症状、病態、評価、治療方針、理学療法）	〃
6		各論担当学生のテーマ別共同学習会	〃
7		脊髄小脳変性症と類似疾患（症状、病態、評価、理学療法）	〃
8		多発性硬化症、多発性神経炎（症状、病態、評価、理学療法）	〃
9		筋萎縮性側索硬化症（症状、病態、評価、理学療法）	〃
10		重症筋無力症、筋強直性ジストロフィー（症状、病態、評価、理学療法）	〃
11		実習オリエンテーション、実習計画立案	〃
12		評価・治療実習 1	〃
13		評価・治療実習 2	〃
14		評価・治療実習 3	〃
15		評価・治療実習の成果発表会	〃

テキスト・参考図書	参考書：嶋田智明、他編：神経難病. 文光堂, 2009 医療情報科学研究所編：病気が見える脳・神経. メディックメディア, 2011
成績・評価の方法	・ 期末試験：70% ・ 講義中の提出課題：30%
その他（履修上の留意点）	・ 講義ごとに配付資料あり。配付資料を学習に活用する。 ・ 講義前後の自己学習は重要である。適宜，提出課題作成を行う。 ・ グループ学習により相互の基礎知識の確認を行う。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法治療学Ⅳ（内部障害）		
担当教員	山本 良彦		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
内部障害は生体機能における呼吸，循環，消化，排泄，代謝などに関わる機能の障害である。これらは人の体の内部で起こっている現象であるため，運動障害のように外部から見ただけでは理解しにくい。その障害を適切に評価し，理学療法アプローチを立案していく方法を学ぶ。特に呼吸障害に対しては徒手呼吸療法および痰吸引手技に関して実技を中心に解説する。また，がんに対するリハビリテーションについては維持的リハ，緩和的リハについて学ぶ。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1．内部障害の特徴を理解し，説明できる。 2．徒手排痰法に関しては，基本的な排痰手技を適切に実施できる。 3．痰吸引の手順を理解し，適切に実施できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		内部障害概説，コンディショニング	山本 良彦
2		呼吸器の解剖学	〃
3		呼吸不全	〃
4		呼吸評価，聴診法	〃
5		徒手排痰法，体位排痰法	〃
6		痰吸引手技	〃
7		循環器解剖学，心不全	〃
8		心電図のみかた	〃
9		循環器障害に対する理学療法	〃
10		高血圧に対する理学療法	〃
11		腎機能障害に対する理学療法	〃
12		糖尿病に対する理学療法	〃
13		肥満に対する理学療法	〃
14		肝機能障害に対する理学療法	〃
15		がんに対する理学療法	〃

テキスト・参考図書	細田多穂監修：内部障害理学療法学テキスト改訂第3版，南江堂 石川 朗編集：内部障害理学療法学 呼吸，中山書店
成績・評価の方法	筆記試験 50%，実技試験 50% 実技試験内容：基本的な徒手排痰手技
その他（履修上の留意点）	必要な時期に聴診器を購入する。 ジャージやユニフォームなど運動しやすい服装で参加すること。 各講義の後半に呼吸介助手技の練習を適宜実施する。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法治療学Ⅴ（発達障害）		
担当教員	山本 良彦, 半田 貴子		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	15 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
肢体不自由児の理学療法治療を中心に，具体的な事例を挙げながら支援の方法を説明していく。整形外科疾患，中枢神経疾患，染色体異常，筋疾患，知的障害，ハイリスク児，装具療法など，小児発達に関わる多くの分野に関連させて理解する。また，地域における発達障害児に対する療育と理学療法士の関わりを紹介する。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1．小児疾患における理学療法士の役割を理解し，説明できる。 2．各種小児疾患に対する理学療法治療を理解し，説明できる。 3．障害児に対する支援の方法を理解し，説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		発達障害総論	山本 良彦
2		発達の診断，評価	〃
3		発達検査法	〃
4		ペルテス病に対する理学療法治療	〃
5		二分脊椎症に対する理学療法治療	〃
6		先天性股関節脱臼に対する理学療法治療	〃
7		脳波異常（WEST 症候群など）に対する理学療法治療	〃
8		脊髄小脳変性症に対する理学療法治療	〃
9		進行性筋ジストロフィー症に対する理学療法治療	〃
10		ダウン症候群に対する理学療法治療	〃
11		脳性麻痺児に対する理学療法治療	〃
12		重症心身障害児に対する理学療法治療	〃
13		低出生体重児，ハイリスク児に対する理学療法治療	〃
14		地域における障害児のサポート活動	半田 貴子
15		障害児スポーツに対するサポート活動	〃

テキスト・参考図書	テキスト 細田多穂監修：小児理学療法学テキスト改訂第3版, 南江堂 前川喜平：乳幼児健診における境界児，診断と治療社 山本良彦：ダウン症リハビリテーションガイド，診断と治療社
成績・評価の方法	期末試験：100%
その他（履修上の留意点）	本講座はそれぞれの小児疾患に対して，臨床場面で実際に行われている理学療法治療を中心に解説する。講義前に疾患像などを確認しておくことは必要だが，毎回の講義をしっかり復習することに重点を置いてほしい。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法治療学Ⅵ（スポーツ障害）		
担当教員	赤羽 勝司		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
競技スポーツから健康維持を含めた生涯スポーツ場面で生じやすい傷害に対して理学療法士として適切に既応するための知識・技術について学習する。スポーツ障害の病態と発生机序を理解し、スポーツ選手の体調を管理し、外傷・障害を予防するための理学療法について理解する。競技復帰する過程のアスレチックリハビリテーションを実践するために必要な知識と技術を習得する。また、障害者スポーツについても理解していく。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
理学療法治療学Ⅱ（運動器障害）で習得した評価内容から、理学療法治療の基本を理解し、治療技術を習得する。各疾患に対する治療法から、スポーツ選手が競技復帰するまでのコンディショニングに至るまでの治療要因を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		スポーツ理学療法概論(1)	赤羽 勝司
2		スポーツ理学療法概論(2)	〃
3		肩関節スポーツ障害（投球障害）(1)	〃
4		肩関節スポーツ障害（投球障害）(2)	〃
5		膝関節スポーツ障害（ACL 損傷）(1)	〃
6		膝関節スポーツ障害（ACL 損傷）(2)	〃
7		患部外トレーニング（コアトレーニング）(1)	〃
8		患部外トレーニング（コアトレーニング）(2)	〃
9		ストレッチング(1)	〃
10		ストレッチング(2)	〃
11		テーピング(1)	〃
12		テーピング(2)	〃
13		アスレチックリハビリテーション(1)	〃
14		アスレチックリハビリテーション(2)	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：陶山 哲夫 監修：スポーツ理学療法学改訂第2版，メジカルビュー社 参考書：浦辺 幸夫：PT マニュアル スポーツ理学療法，医歯薬出版 黒川 幸雄 ほか：スポーツ傷害の理学療法 第2版，三輪書店 山口 光國 ほか：結果の出せる整形外科理学療法，メジカルビュー社
成績・評価の方法	授業態度 10%，期末試験 90%

その他（履修上の留意点）	実技を中心に授業を展開していきます。運動ができる服装で受講して下さい。
--------------	-------------------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	関節モビライゼーション		
担当教員	阿部 裕一		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
各種治療手技の内、徒手療法として関節モビライゼーションの基本概念と基礎技術を習得する。骨運動学と関節運動学の知識を深め、関節モビライゼーションの原理を理解する。また、運動療法を実施していくための関節モビライゼーションの基本的な手技を習得する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
徒手療法の基本的な手技を理解することができる。
基本的な手技を実践することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		徒手療法 総論	阿部 裕一
2		骨運動学と関節運動学	〃
3		関節モビライゼーションの実際 上肢	〃
4		〃 上肢	〃
5		〃 上肢	〃
6		〃 下肢	〃
7		〃 下肢	〃
8		〃 下肢	〃

テキスト・参考図書	テキスト：適宜資料を配布する。
成績・評価の方法	試験 50%、授業態度 50%
その他（履修上の留意点）	積極的に実技に参加してください。 事前事後学習に取り組み、配布資料をよく読んでください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	認知理論に基づく運動療法		
担当教員	山本 良彦		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
運動は身体が外部環境と相互作用を行うための手段とみなされ、それを実現しているのは脳における運動の認知過程であると考えられている。その認知過程を理解し、運動療法に応用する方法を様々な文献および先行研究から示していく。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 運動を制御している脳のしくみを説明できる。
2. 認知理論に基づいたリハビリテーションについて説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		発達科学としての身体認知	山本 良彦
2		空間知覚とボディーイメージ	〃
3		感覚入力と運動出力	〃
4		アフォーダンスと運動制御	〃
5		知覚の回復	〃
6		運動の回復	〃
7		イメージトレーニングとメンタルプラクティス	〃
8		認知神経リハビリテーション（認知運動療法）	〃

テキスト・参考図書	必要に応じて資料を配布する。
成績・評価の方法	レポート100%
その他（履修上の留意点）	特になし

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	固有受容性神経筋促通手技		
担当教員	中澤 住夫		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
PNF の基本概念と基礎技術を理解し、機能評価に役立て、さらに治療プログラムの立案に応用できることを目標とする。実技演習を通して、症例への応用が適切に実施できるようになることを身につける。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. PNF の概念・定義を説明できる。 2. PNF 促通要素の根拠を説明できる。 3. PNF で用いられる基本手技を健常者に対して実施できる。 4. PNF で用いられる特殊テクニックを健常者に対して実施できる。 5. 評価と治療プログラムを立案できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		PNF の概念・定義、理学療法における位置付	中澤 住夫
2		PNF の促通要素	〃
3		PNF の特殊テクニック	〃
4		上肢 PNF パターンでの実技	〃
5		下肢 PNF パターンでの実技	〃
6		肩甲骨・骨盤パターンでの実技	〃
7		上部・下部体幹パターンでの実技	〃
8		PNF の臨床応用、まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：PNF マニュアル改定第 3 版 南江堂， 参考書：理学療法ハンドブック 改訂第 4 版 第 2 巻治療アプローチ 第 38 章 PNF アプローチ 協同医書出版， PNF ハンドブック第 2 版，
成績・評価の方法	期末試験 100%
その他（履修上の留意点）	毎回、実習を行うので運動しやすい服装。スニーカー。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	スポーツマッサージ		
担当教員	赤羽 勝司		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
物理療法学Ⅱで習得した基本的マッサージの基礎をもとに、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を養う。スポーツマッサージの基礎と応用について、各競技特性を理解した上で、コンディショニングや治療のためのマッサージを取得する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
人体組織を触診し、筋や筋間、軟部組織等を触知できる技術を習得する。さらに触診術を高めた上で、スポーツマッサージの手技を習得する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		スポーツマッサージの実践 頭・頸部	赤羽 勝司
2		スポーツマッサージの実践 肩甲帯	〃
3		スポーツマッサージの実践 上肢	〃
4		スポーツマッサージの実践 体幹(1)	〃
5		スポーツマッサージの実践 体幹(2)	〃
6		スポーツマッサージの実践 下肢(1)	〃
7		スポーツマッサージの実践 下肢(2)	〃
8		スポーツマッサージの実践 下肢(3)	〃

テキスト・参考図書	
成績・評価の方法	授業態度 20%、期末試験 80%
その他（履修上の留意点）	直接体表を触診するため、薄着での講義になります。理解して受講してください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	呼吸理学療法		
担当教員	山本 良彦		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
何らかの要因により呼吸が障害を受けると、その影響は全身に及び、QOLの低下をきたし、さらには生命の維持をも困難としてしまう。この講座では臨床的な呼吸理学療法におけるフィジカルアセスメント、コンディショニングについて学び、徒手呼吸介助、排痰手技、痰吸引手技を身につけることを目標とする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 聴診器を用いて、肺音の聴診が実施できる。 2. 徒手的な排痰法を適切に実施できる。 3. 痰吸引の手順を理解し、適切に実施できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		呼吸理学療法におけるフィジカルアセスメント	山本 良彦
2		肺音聴診	〃
3		徒手的な排痰手技①	〃
4		徒手的な排痰手技②	〃
5		徒手的な排痰手技③	〃
6		徒手的な排痰手技④	〃
7		徒手的な排痰手技⑤	〃
8		痰吸引手技	〃

テキスト・参考図書	必要に応じて資料を配布する
成績・評価の方法	実技試験 100% 実技試験内容：肺音聴診，徒手排痰手技，痰吸引手技
その他（履修上の留意点）	ジャージやユニフォームなどの運動しやすい服装で参加すること。 聴診器，吸引シミュレーターを使用する。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	発達学的視点に基づく運動療法		
担当教員	福谷 保		
配当年次	4年次	配当学期	前期
年間授業回数	8回	単位数	1単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
人は生後約1年をかけて、直立・二足歩行を獲得する。そして、幼児期には基本的な身辺自立を果たしていく。この過程は筋骨格系および神経系の成熟によって達成される。 理学療法の対象者は姿勢・動作の障害を伴い、日常生活活動に制限をきたす場合が多い。乳幼児の発達過程の分析に基づいた運動療法について演習する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
乳児の運動発達過程を神経・筋系の観点から説明できる。 患者の姿勢動作を誘導する際の留意点が説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		正常運動発達の概要（マイルストーンの理解）	福谷 保
2		運動発達と重力の関係（安定性と運動性）	〃
3		正常発達と神経系の機能	〃
4		正常発達と筋系の機能	〃
5		治療介入における感覚入力の方	〃
6		動作の誘導（床上動作）	〃
7		動作の誘導（移動動作）	〃
8		まとめ	〃

テキスト・参考図書	未定
成績・評価の方法	レポート
その他（履修上の留意点）	運動ができる服装で参加してください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	感覚統合療法		
担当教員	松下 雅子		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
人のあらゆる行動には、感覚―脳―運動が関わっている。環境の中で身体を効率よく使用することを可能にする神経プロセスを感覚統合という。感覚刺激の受け取り方に偏りがあり、生活の中で上手くいかなさを抱えることや、行為機能での困難さ（運動の苦手さ、不器用さなど）につながっている場合がある。感覚統合障害の中の感覚調整障害と行為機能障害について理解し、アセスメントの種類や方法、演習を通して治療手技について学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 感覚刺激が日常生活や行動に与える影響について理解し説明できる。 2. 感覚刺激を治療的に活用する方法について理解し説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		感覚統合理論について	松下
2		感覚調整障害（感覚過敏、鈍麻などの生活への影響について）とは	〃
3		感覚統合に関する評価の体験	〃
4		治療としての感覚統合	〃
5		演習 感覚統合療法の体験	〃
6		〃	〃
7		〃	〃
8		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：プリント配布 参考図書：土田玲子監修，子どもと理解と援助のための感覚統合 Q&A 改定第 2 版，協同医書出版社
成績・評価の方法	課題レポート：50% 授業への参加度：50%
その他（履修上の留意点）	演習を実施するため、動きやすい服装（ジャージなど）で出席してください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	予防理学療法		
担当教員	大町 かおり		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
さまざまな角度から予測される障害を予防するための理学療法について、そのかかわる領域・制度の理解と、理学療法士の役割を学ぶ。対象者や地域、企業や自治体からの要望などに応じる、あるいは、新たな問題の解決のために理学療法士として行うべきことや、必要な考え方を学び、自ら考えプランを立てられるようになるための授業である。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション	大町かおり
2		予防理学療法の領域	〃
3		予防理学療法と関係する制度	〃
4		予防理学療法と社会のニーズ	〃
5		行政と協働で行う予防理学療法	〃
6		予防理学療法の構成の仕方	〃
7		自ら考える予防理学療法 1（発表）	〃
8		自ら考える予防理学療法 2（発表）	〃

テキスト・参考図書	大淵修一 他 編集：予防理学療法学要論、医歯薬出版、2017
成績・評価の方法	レポート 70%、発表 30%
その他（履修上の留意点）	病後や術後に行う理学療法ではない、予測されるさまざまな障害の予防を目的とする理学療法は、健康長寿の延伸と高まる社会的ニーズを見据えた、新しい分野の理学療法です。 予防理学療法にかかわる領域・制度の理解、理学療法士の役割を学ぶとともに、必要に応じて仕事を作り出すことができるよう、講義と演習を交えながらの授業となります。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域理学療法学Ⅰ（概論）		
担当教員	金井 敏男		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
地域リハビリテーションとは、生活拠点に立脚し、保健・医療・福祉・生活・介護に関わる理念と技術が統合されたものである。ここでは、理学療法を中心としつつも、幅広く地域リハビリテーションに関わる理念、医療モデル・生活モデルの流れと関連性、生活評価、各種サービス供給能力とその連携などに関する理解を深め、地域活動における理学療法士の在り方を提言する。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 障害者や高齢者と社会とのかかわりが理解できる。 2. 地域リハビリテーションに関わる法・制度の概略が理解できる。 3. 理学療法士としての関わり方が考察できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		心身障害者と社会的変遷・リハビリテーションの考え方	金井 敏男
2		人間と社会の関わり・社会的リハビリテーション	〃
3		社会生活力プログラム・障害のとらえ方	〃
4		生活障害・老化と加齢	〃
5		運動療法の基本的な流れ・維持期リハビリテーション	〃
6		地域リハビリテーションの概要	〃
7		地域リハビリテーションの広がり和社会的背景	〃
8		障害者施策 1	〃
9		障害者施策 2	〃
10		高齢者福祉と地域包括ケアシステム	〃
11		地域包括ケアシステムにおける理学療法アプローチ・介護保険制度	〃
12		介護保険サービスの概要	〃
13		介護保険サービスにおける理学療法	〃
14		地域における理学療法士の役割	〃
15		ビデオ供覧：発症から地域リハビリテーションまで	〃

テキスト・参考図書	テキスト：牧田光代 他編：標準理学療法学 地域理学療法学 第4版：医学書院 参考書：細田多徳 監修：地域理学療法学テキスト改訂第3版：南江堂 田中康之 他編：地域包括ケアにおける PT・OT の役割：文光堂 浅川育世 他編：ビジュアルレクチャー地域理学療法学 第2版：医歯薬出版 重盛健太 編：PT・OT ビジュアルテキスト地域理学療法学：羊土社 太田仁史 他編：地域リハビリテーション論 第6版：三輪書店 澤村誠志 監修：社会リハビリテーション論：三輪書店
-----------	--

成績・評価の方法	期末試験 100%
その他（履修上の留意点）	本教科は障害者や高齢者が主体的に生活するための社会的考え方や支援について学ぶものである。 したがって事前学習では、教科書や参考図書、関係文献に目を通しておくことはもちろん、普段から障害者や高齢者を取り巻く社会情勢や問題についてマスコミ情報に目を向け考察する習慣をつけること。 事後学習は、講義ノートを作成し内容を整理し、理学療法士としての考え方や役割を考察することに心がける。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域理学療法学Ⅱ（各論）		
担当教員	金井 敏男, 下田 浩一, 大町かおり		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	15 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
リハビリテーション医療も施設・病院から在宅へと、地域を基盤として展開が図られ、維持期リハビリテーションと統合し、疾患・障害から、生活を基盤とした新たなリハビリテーションの展開が強く求められている。この授業では、保健・医療・福祉の動向を踏まえて、地域包括ケアシステムの概要と理学療法の関わり（通所、入所、訪問、介護予防・健康増進など）を学び、地域リハビリテーションの考え方、システム、チームアプローチの重要性、理学療法士の役割について理解を深める。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1. 維持期とはどんなものが理解できる。 2. 地域包括ケアの考え方が理解できる。 3. 生活機能を維持するために必要な考え方が理解できる。 4. 健康維持と介護予防の考え方が理解できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		維持期リハビリテーションの概念・目的・具体的展開	金井 敏男
2		地域包括ケアシステムの概念・必要性	〃
3		地域包括支援事業の推進に係る機関と会議（地域包括支援センターと地域ケア会議）	〃
4		地域包括支援における介護予防	〃
5		ヘルスプロモーション	〃
6		介護予防と予防的リハビリテーション①（サルコペニア・フレイル・ロコモティブシンドローム）	〃
7		介護予防と予防的リハビリテーション②（転倒・認知症）	〃
8		介護保険サービスの詳細	下田 浩一
9		理学療法の展開①（介護保険老人施設）	〃
10		理学療法の展開②（介護老人福祉施設）	〃
11		理学療法の展開③（通所リハビリテーション）	〃
12		理学療法の展開④（訪問リハビリテーション）	〃
13		理学療法の展開⑤（障害者施設・行政における理学療法士の役割）	〃
14		福祉用具供給システム	〃
15		地方自治体と協働で行うロコモ予防事業の実例紹介	大町かおり

テキスト・参考図書	テキスト：牧田光代 他編；標準理学療法学 地域理学療法学 第4版；医学書院 細田多穂；地域リハビリテーション学テキスト 第3版；南江堂 参考書：村田 伸 他著；地域理学療法学テキスト；学術研究出版 田中康之 他編；地域包括ケアにおける PT・OT の役割；文光堂 重盛健太 他編；PT・OT ビジュアルテキスト 地域理学療法学；羊土社
-----------	--

	浅川育世 他編：ビジュアルレクチャー 地域理学療法学 第2版：医歯薬出版株式会社 太田仁史 他編：地域リハビリテーション論 第6版：三輪書店
成績・評価の方法	期末試験 50%、課題レポート 50%
その他（履修上の留意点）	本科目は、障害者や高齢者が主体的に生活するために必要な生活機能の維持向上を図るために理学療法士としての具体的係わりを考えるものである。 事前学習では、これまでに学んできた知識や演習、臨床実習での経験を応用することはもちろん、参考書、文献、教員等とのディスカッション、自主的な施設見学、報道、社会生活等を通して、障害者・高齢者問題についての認識を深め自分なりの係わり方を考えることができるようにすること。 事後学習では、講義内容を参考に高齢者・障害者問題に対する批判的吟味の上で、自分の成すべき方向を模索したり学生同士や多職種との討論などができ、それらを臨床実習や卒後に生かせるようにする。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域理学療法学Ⅲ（演習）		
担当教員	下田 浩一，金井 敏男，大町かおり		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	15 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
前半は、地域リハビリテーションを展開する上で重要な知識となる健康状態やリスクの把握・対応方法について、チームアプローチと理学療法の観点から学ぶ（嚥下障害，虚弱，褥瘡，転倒，低栄養，排尿障害，認知機能低下，口腔機能低下，足部のトラブルなど）。 後半は，通所，入所，介護予防，健康増進等の事業における意義，目的，期待できる効果などについて学ぶ。また，グループワークを通じて方法論を学び，具体的なプログラムを立案する力を身につける。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1．生活に影響に及ぼす二次的続発症や併存症状について、グループワーク等を通じ理解を深める。 2．通所、入所、介護予防、健康増進などさまざまな集団活動における意義、目的、方法についてグループワーク等を通じ理解を深める。 3．それぞれの目的に応じた集団活動の具体的なプログラムを提示できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		施設入所および通所リハビリテーション	金井 敏男
2		居宅支援と訪問リハビリテーション	〃
3		理学療法士の資格と知識を活かしたさまざまな分野での働き方	大町かおり
4		健康状態とリスクの把握・対処法について グループワーク①	下田浩一，金井敏男
5		グループワーク②	〃
6		グループワーク③	〃
7		発表・まとめ①	〃
8		発表・まとめ②	〃
9		発表・まとめ③	〃
10		生活支援・介護予防・健康増進等における事例研究 グループワーク①	〃
11		グループワーク②	〃
12		グループワーク③	〃
13		発表・まとめ①	〃
14		発表・まとめ②	〃
15		発表・まとめ③	〃

テキスト・参考図書	テキスト：細田多穂；地域リハビリテーション学テキスト 第3版；南江堂 参考書：牧田光代 他編；標準理学療法学 地域理学療法学 第4版；医学書院 村田 伸 他著；地域理学療法学テキスト；学術研究出版 田中康之 他編；地域包括ケアにおける PT・OT の役割；文光堂 重盛健太 他編；PT・OT ビジュアルテキスト 地域理学療法学；羊土社 浅川育世 他編；ビジュアルレクチャー 地域理学療法学 第2版；医歯薬出版株式会社
-----------	--

	寺山久美子；レクリエーション第2版；三輪書店 太田仁史 他編；地域リハビリテーション論 第6版；三輪書店
成績・評価の方法	期末試験 50%、課題レポート 50%
その他（履修上の留意点）	本科目は、生活を基盤とした施設・在宅でのリハビリテーションの在り方や介護予防・健康増進等の社会活動における理学療法士の具体的関わりを考えるものである。 事前学習では、地域理学療法学Ⅰ・Ⅱで学んだことを応用し、参考書や文献を参考に臨床実習・施設見学・ボランティア活動等の経験を生かし、地域での関わり方を考え、それを討論に反映できるようにすること。 事後学習では、講義および討論の内容・結果などをまとめ、それらを臨床実習や卒後に生かせるようにする。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	生活環境学		
担当教員	川井 伸夫		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	15 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
身体障害を有しても快適な生活を営むことができる生活環境の構築を目的として、生活者である人間に影響を及ぼす外界の諸条件を学ぶ。 具体的な支援方法として、福祉機器や住宅改修の基礎について学ぶ。 事例紹介を通して具体的な解決方法の実践的な要点を学ぶ。 福祉機器の体験実習、家屋環境の計測実習、および模擬症例の生活像に応じた生活環境整備計画立案をグループワークにより経験し、種々の要因を考慮した上での総合的環境整備の実践的なアプローチ方法を演習する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 各障害特性に応じた生活のありかたに配慮した生活環境整備の原則を理解する。 2. 生活環境整備に必要な社会資源や法制度を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション、生活環境総論	川井 伸夫
2		福祉用具の種類と機能①	〃
3		福祉用具の種類と機能②	〃
4		福祉用具(機器)体験実習①	〃
5		福祉用具(機器)体験実習②	〃
6		住環境整備①	〃
7		住環境整備②	〃
8		住環境の寸法計測実習①	〃
9		住環境の寸法計測実習②	〃
10		障害別住宅改修	〃
11		障害別住宅改修案作成演習①	〃
12		障害別住宅改修案作成演習②	〃
13		障害別住宅改修案作成演習③	〃
14		障害別住宅改修案報告会①	〃
15		障害別住宅改修案報告会②	〃

テキスト・参考図書	テキスト：橋元隆 編；生活環境論 神陵文庫 参考書：木村哲彦 編；生活環境論第6版 医歯薬出版 徳田良英 監；生活環境論入門第2版 DTP 出版 細田多穂 監；生活環境学テキスト 南江堂 市川洸 編；福祉用具アセスメント・マニュアル 中央法規
成績・評価の方法	個人レポートとグループワークへの参加度(20%)、期末試験(80%)
その他（履修上の留意点）	グループ演習が中心になります。 実習室使用および他科目実施の都合により授業曜日および授業時限の変更が生じる可能性があるので注意すること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	臨床見学実習		
担当教員	阿部 裕一		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
基本的なマナーに加え、接遇などを学修し、将来理学療法士として働くための役割や心構えを学修する。医療施設見学を行い、医療現場の中での理学療法の機能や役割を理解し、理学療法士としての基本姿勢を考える。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・ 医療関係施設の中で理学療法士の働く場面を必要な役割や心構えを理解することができる。 ・ 施設見学の中で学んだことをグループの中で伝えることができる。 ・ 見学した内容をグループで協力しまとめて発表することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		1. オリエンテーション 2. 接遇研修 3. 施設見学：総合病院、回復期病院、小児施設の中から2施設を訪問する。 期間：6月4日～7日 4. グループワーク：見学内容の振り返りを行う 5. 発表：グループ発表を実施する	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	特になし
成績・評価の方法	オリエンテーション、接遇研修への取り組み状況、施設見学状況、発表から総合的に判断する。
その他（履修上の留意点）	見学先の施設の方々に対し、失礼のないように心掛けるようにしてください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法臨床評価実習Ⅰ		
担当教員	専任教員		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数		単位数	3 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
初めて経験する臨床現場である実習施設の機能、各医療従事者と対象者の関わりや理学療法士の業務と範囲、さらに対象者の抱える心理的・身体的・社会的な種々の問題点について具体的に学ぶ。また、学内で学んだ知識・技術を基に、対象者に応じて適切な情報を集め、基本的検査および測定などの評価を実施し、対象者の状態を把握する。第3 学年への準備、臨床評価実習Ⅱ、臨床実習の前段階として、学内で学んだことを臨床で体験的に学修し、理解を深める。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
学内で学んだ知識や技術をもとに、必要な情報を集めることができる。 基本的な検査および測定などの評価を実施することができる。 各医療従事者と適切に関わることができる。 理学療法士の業務と範囲について学ぶことができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		①情報収集 学内で学んだ知識や技術を元に、必要な情報収集を行う。 ②評価を実施 基本的な検査および測定などの評価を実施する。 ③各医療従事者との関わり 各医療従事者と適切に関わる。 ④理学療法士の業務と範囲について 理学療法士の業務と範囲について学ぶ。 日程については後日連絡する。	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	テキスト：臨床実習の手引き
成績・評価の方法	実習遂行状況（評価表、実習記録等）、実習後反省会、症例発表会 合計 100%
その他（履修上の留意点）	実習開始前に実習の手引きを配布し、オリエンテーションをおこなう。実習生の心得等を熟読し、実習を受けていただく施設の情報をもとに、患者評価に必要な基礎知識を事前学修することが望ましい。また、体験患者の情報をもとに学んだ知識や技術を事後学修として取り組むことが望ましい。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法臨床評価実習Ⅱ		
担当教員	専任教員		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	4 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
学内教育で学んだ知識・技術を基に、対象者に応じて適切な情報を集め、検査および測定などの評価を実施し、解釈・分析・統合して対象者の全体像を把握し、治療プログラムを作成し、一部の治療技術を実践して、その過程・方法を具体的に学び、その中で応用能力を養う。また、臨床実習の前段階として学内教育で学んだことを臨床で体験的に学習し、理解を深める。さらに、実習施設における理学療法士の役割や理学療法部門の管理・運営を学び、医療・社会における理学療法士の役割について理解し、理学療法士として取るべき行動、態度を養う。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
学内で学んだ知識や技術をもとに、必要な情報を集めることができる。 基本的な検査および測定などの評価を実施することができる。 収集した情報から治療プログラムを作成し、一部の治療技術を実践することができる。 各医療従事者と適切に関わることができる。 理学療法士の業務と範囲について学ぶことができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		①情報収集 学内で学んだ知識や技術を元に、必要な情報収集を行う。 ②評価を実施 基本的な検査および測定などの評価を実施する。 ③治療プログラムを作成し一部の治療技術を実践 収集した情報を解析・分析・統合して、対象者の全体像を把握し、治療プログラムを作成し、一部の治療技術を実践する。 ④各医療従事者との関わり 各医療従事者と適切に関わる。 ⑤理学療法士の業務と範囲について 理学療法士の業務と範囲について学ぶ。	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	テキスト：臨床実習の手引き
成績・評価の方法	実習遂行状況（評価表、実習記録等）、実習後反省会、症例発表会 合計 100%
その他（履修上の留意点）	実習開始前に実習の手引きを配布し、オリエンテーションをおこなう。実習生の心得等を熟読し、実習を受けていただく施設の情報をもとに、患者評価に必要な基礎知識を事前学修することが望ましい。また、体験患者の情報をもとに学んだ知識や技術を事後学修として取り組むことが望ましい。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域理学療法実習		
担当教員	専任教員		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
高齢化に伴い、地域における理学療法士の役割は拡大してきている。この科目では、通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションの現場において他職種との連携や、地域の理学療法士の役割を理解し、そこで必要な技術や知識・評価・実施方法を学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
地域の理学療法士の役割を理解することができる
地域の理学療法士が必要な知識や技術を理解することができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		①事前のオリエンテーションを実施する（事前学習） ②通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設での実習（3 日間） ③グループワークによるディスカッションを行う（事後学修） ④症例報告会を実施する	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	臨床実習の手引き
成績・評価の方法	実習遂行状況、事前事後学修への取り組み、症例報告会 合計100%
その他（履修上の留意点）	臨床実習の手引きにある実習の目的、実習生の心得等を熟読し 実習を受けていただく施設の情報をもとに必要な基礎知識を事前学習してください。また、実習後は学んだことを踏まえて事後学修をしてください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法臨床実習 I		
担当教員	理学療法学専攻専任教員		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	8 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
実習指導者による指導，助言の下に，評価・治療計画・治療という一貫した治療行為，そのために必要な記録・報告を経験する。また，実習施設における理学療法士の役割や理学療法部門の管理運営を学び，医療・社会における理学療法士の役割について理解し，理学療法士としての行動，態度を実践的に学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
高い倫理観のもと，専門的な知識を基盤とする，根拠に基づく基本的な理学療法を適切に実践できる。 具体的には，以下の4点を実践する。 ①理学療法評価（初期および最終）を実施する ②担当患者（利用者）のリスクを評価し，適切なリスク管理を行う ③適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し，実施する ④理学療法実施中におけるプログラムを適切に変更する

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		①理学療法評価の実施 理学療法評価（初期および最終）を実施する。	
2			
3		②リスク管理 担当患者（利用者）のリスクを評価し，適切なリスク管理を行う。 さらに，実習指導者の助言を仰ぎながら治療・指導実習中のリスク管理を行う。	
4			
5			
6		③理学療法プログラムの立案と実施 適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し，実施する。	
7			
8			
9		④理学療法実施後の評価・報告 評価や理学療法の結果について必要事項を記載し，また報告する。	
10			
11		⑤理学療法実施中におけるプログラムの変更等 患者（利用者）の状態を適宜評価し，実習指導者の助言を仰ぎながら，必要に応じてより適切なプログラムへの変更を行う。	
12			
13			
14		⑥チーム体制の経験・情報交換等 チームアプローチの必要性を理解し，他部門との情報交換を行う。	
15			

テキスト・参考図書	テキスト：臨床実習の手引き
成績・評価の方法	実習遂行状況（評価表、実習記録等）、実習後反省会、症例発表会 合計100%
その他（履修上の留意点）	臨床実習の手引きにある実習の目的，実習生の心得等を熟読し ・実習を受けていただく施設の情報をもとに 患者評価に必要な基礎知識について事前学修してください。

	・体験患者の情報をもとに、根拠に基づいた統合と解釈ができるよう事後学修してください。
--	--

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	理学療法臨床実習Ⅱ		
担当教員	理学療法専攻専任教員		
配当年次	4年次	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	8単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授業科目の概要（一般目標）			
実習指導者による指導，助言の下に，評価・治療計画・治療という一貫した治療行為，そのために必要な記録・報告を経験する。また，実習施設における理学療法士の役割や理学療法部門の管理運営を学び，医療・社会における理学療法士の役割について理解し，理学療法士としての行動，態度を実践的に学ぶ。			

学習目標（行動目標）
高い倫理観のもと，専門的な知識を基盤とする，根拠に基づく基本的な理学療法を適切に実践できる。 具体的には，以下の4点を実践する。 ①理学療法評価（初期および最終）を実施する ②担当患者（利用者）のリスクを評価し，適切なリスク管理を行う ③適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し，実施する ④理学療法実施中におけるプログラムを適切に変更する

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		①理学療法評価の実施 理学療法評価（初期および最終）を実施する。	
2			
3		②リスク管理 担当患者（利用者）のリスクを評価し，適切なリスク管理を行う。 さらに，実習指導者の助言を仰ぎながら治療・指導実習中のリスク管理を行う。	
4			
5			
6		③理学療法プログラムの立案と実施 適切な評価過程に基づいた理学療法プログラムを立案し，実施する。	
7			
8			
9		④理学療法実施後の評価・報告 評価や理学療法の結果について必要事項を記載し，また報告する。	
10			
11		⑤理学療法実施中におけるプログラムの変更等 患者（利用者）の状態を適宜評価し，実習指導者の助言を仰ぎながら，必要に応じてより適切なプログラムへの変更を行う。	
12			
13			
14		⑥チーム体制の経験・情報交換等 チームアプローチの必要性を理解し，他部門との情報交換を行う。	
15			

テキスト・参考図書	テキスト：臨床実習の手引き
成績・評価の方法	実習遂行状況（評価表、実習記録等）、実習後反省会、症例発表会 合計100%
その他（履修上の留意点）	臨床実習の手引きにある実習の目的，実習生の心得等を熟読し ・実習を受けていただく施設の情報をもとに 患者評価に必要な基礎知識について事前学修してください。

	・体験患者の情報をもとに、根拠に基づいた統合と解釈ができるよう事後学修してください。
--	--

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	大学基礎セミナー		
担当教員	OT 専攻教員		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
導入教育である大学基礎セミナーでは、 1)リハビリテーション専門職連携の基礎（作業療法士の役割と他職種の役割を知る） 2)スタディスキル：図書館の利用法、情報収集の仕方、レポートの書き方等 3)ソーシャルスキル：社会人として、未来の医療従事者としての心構え 4)建学の精神：四徳の意味・意義について考え、大学生活で実践する能力を養う。 ポートフォリオの作成を通して、理想とする作業療法士になるために必要な具体的な行動指針を作成し、大学での生活が計画的で有意義なものとなるように支援する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
1. リハビリテーションチームにおける作業療法士の役割と他職種の役割を理解し説明できる。 2. 本学で学ぶためのスタディスキルを理解し、より幅広く深い知識や技術を身に付けるための態度や心構えで行動できる。 3. 作業療法士になり、働くことを可能にするための知識、技術、態度、心構えとは何かを理解し達成するために行動化することが出来る。 4. ポートフォリオをとおして目標指向的な考え方や自己や他者が作業的存在であることを理解し説明できる。	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/10	オリエンテーション：自己紹介	OT 専任教員
2	4/17	スタディスキル：大学生活、連絡方法、カリキュラム、専門職の倫理、	〃
3	4/22	マナー講座1：学習態度・社会規範	〃
4	5/8	スタディスキル：授業の受け方、ノートの取り方、図書館ガイダンス	〃
5	5/13	金融リテラシーⅠ「人生を取り巻く社会環境の変化と金融リテラシーの必要性」	〃
6	5/20	金融リテラシーⅡ「資産形成、社会保障制度と保険、借りる、金融トラブル」	〃
7	5/27	金融リテラシーⅢ「金融と経済、最近の話題、ライフプラン演習」	〃
8	6/3	マナー講座2：学習態度・社会規範	〃
9	6/19	メディアリテラシー・アルバイトリテラシー	〃
10	6/26	ポートフォリオとはなにか：目標管理と作業的な振り返りとは	〃
11	7/3	グループワーク ポートフォリオ作成 準備	〃
12	7/10	グループワーク ポートフォリオ作成 材料収集	〃
13	7/17	グループワーク ポートフォリオ作成 目標設定と作成	〃
14	7/24	パーソナルポートフォリオ 発表 ①	〃
15	7/31	パーソナルポートフォリオ 発表 ②	〃

テキスト・参考図書	テキスト：配布プリント 参考書：鈴木敏恵：目標管理はポートフォリオで成功する。（メヂカルフレンド社）
-----------	--

成績・評価の方法	ポートフォリオ、参加態度、発表態度
その他（履修上の留意点）	第 1. 2. 4. 9 回は「シラバス」と「学生生活の手引き」を持参すること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法基礎セミナー		
担当教員	OT 専攻教員		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
前期の大学基礎セミナーを踏まえて、引き続き 1)リハビリテーション専門職連携の基礎（作業療法士の役割と他職種の役割を知る） 2)スタディースキル：図書館の利用法、情報収集の仕方、レポートの書き方等 3)ソーシャルスキル：社会人として、未来の医療従事者としての心構え 4)建学の精神：四徳の意味・意義について考え、大学生活で実践する能力を養う。 各教員の指導のもとで、各科目に触発されたテーマを選定するとともに、内容に応じて障害者体験、各種の調査、簡易的実験などもおこない、前期に学んだスキルを活かして発表会を行う。また、高齢者施設におけるコミュニケーション体験を通し、専門職に必要なコミュニケーションの素地を養い、医療保健福祉領域への動機づけを行う。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
1. リハビリテーションチームにおける作業療法士の役割と他職種の役割を理解し説明できる。 2. 本学で学ぶためのスタディスキルを理解し、より幅広く深い知識や技術を身に付けるための態度や心構えで行動できる。 3. 作業療法士になり、働くことを可能にするための知識、技術、態度、心構えとは何かを理解し達成するために行動化することが出来る。 4. 他者と協力するコミュニケーション力、課題に対して自ら取り組む主体性を身につける。 5. PBL(問題基盤型学習) の学習プロセスを応用した能動的な学習法について理解し実践できる。	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/2	能動的学習とは、PBLの学習プロセスとは	OT 専任教員
2	10/9	グループワーク テーマ（課題）の発見	〃
3	10/16	グループワーク テーマ（課題）の発見 ディスカッション	〃
4	10/23	グループワーク 解決方法 ディスカッション	〃
5	10/30	グループワーク 解決方法 計画立案	〃
6	11/6	グループワーク 情報収集 役割分担	〃
7	11/13	グループワーク 情報収集 学習	〃
8	11/20	グループワーク 情報収集 学習	〃
9	11/27	グループワーク 情報収集 学習	〃
10	12/4	グループワーク 情報収集 学習	〃
11	12/11	グループワーク テーマ（課題）の解決 ディスカッション	〃
12	12/18	グループワーク テーマ（課題）の解決 ディスカッション	〃
13	1/8	グループワーク 学習の要約 パワーポイントによるまとめ	〃
14	1/15	グループ発表①	〃
15	1/22	グループ発表②	〃

テキスト・参考図書	
成績・評価の方法	
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動器系解剖学 I		
担当教員	宮脇 利幸、古川 智巳		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	15 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
解剖学の中でも医療リハビリテーションで特に必要とされる運動器系の理解を深めるために、人体を構成している骨、軟骨、関節、靱帯および骨格筋の構造・運動作用について系統的に理解する			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 人体の骨格とその連結(関節)の構造と機能を説明できる
2. 骨格筋の一般的な作用の原理を説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/8	運動器系解剖学総論（位置と方向，骨，関節・靱帯，筋学総論）	宮脇
2	4/15	〃	〃
3	4/24	上肢の骨・連結	古川
4	5/6	〃	〃
5	5/15	〃	〃
6	5/22	〃	〃
7	5/29	〃	〃
8	6/10	〃	〃
9	6/12	上肢帯，上肢の筋	宮脇
10	6/17	〃	〃
11	6/24	〃	〃
12	7/1	〃	〃
13	7/8	〃	〃
14	7/15	〃	〃
15	7/22	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：細田多穂監修：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 運動器系解剖学テキスト，南江堂 野村巖 編：標準理学療法学・作業療法学 解剖学，医学書院 中村隆一・齋藤宏・長崎浩：基礎運動学，医歯薬出版 Frank H. Netter(相磯貞和訳)ネッター解剖学アトラス，南江堂 参考書：M. Schunke 他(境建雄他監訳)：ブロッサス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系，医学書院
成績・評価の方法	筆記試験 50%、課題レポート 50%

その他（履修上の留意点）	ただ憶えるのではなく，体の仕組みとして理解する
--------------	-------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動器系解剖学Ⅱ		
担当教員	宮脇 利幸、古川 智巳		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
解剖学の中でも医療リハビリテーションで特に必要とされる運動器系の理解を深めるために、人体を構成している骨、軟骨、関節、靱帯および骨格筋の構造・運動作用について系統的に理解する			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 人体の骨格とその連結(関節)の構造と機能を説明できる
2. 骨格筋の一般的な作用の原理が説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/1	下肢の骨・連結	古川
2	10/8	〃	〃
3	10/15	〃	〃
4	10/22	〃	〃
5	10/29	〃	〃
6	11/5	下肢の筋	宮脇
7	11/12	〃	〃
8	11/19	〃	〃
9	11/26	〃	〃
10	12/3	頭蓋・胸郭の骨・連結	古川
11	12/10	〃	〃
12	12/17	頭蓋・体幹の筋	宮脇
13	12/24	〃	〃
14	1/7	まとめ（骨・連結）	古川
15	10/1	まとめ（筋）	宮脇

テキスト・参考図書	テキスト：細田多穂監修：シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 運動器系解剖学テキスト，南江堂 野村巖 編：標準理学療法学・作業療法学 解剖学，医学書院 中村隆一・齋藤宏・長崎浩：基礎運動学，医歯薬出版 Frank H. Netter (相磯貞和訳) ネットー解剖学アトラス，南江堂 参考書：M. Schunke 他 (境建雄他監訳)：プロマクス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系，医学書院
成績・評価の方法	筆記試験 50%、課題レポート 50%

その他（履修上の留意点）	ただ憶えるのではなく，体の仕組みとして理解する
--------------	-------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	体表解剖学演習		
担当教員	宮脇 利幸、古川智巳		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義・実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
解剖学の知識をもとに、体表からの視覚的または徒手的に人体の構造を立体的に理解し、臨床上の評価、治療に役立てることをねらいとする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
対象者に不快感を与えないような身体への触れ方ができる。
触診対象の位置を正しく指し示すことができる。
触診対象の性状に合わせた触れ方ができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		上肢の筋：上肢帯の筋，上腕の筋，前腕の筋，手の筋	宮脇、古川
2			
3			
4			
5			
6			
7		上肢の筋 まとめ	
8		下肢の筋：下肢帯の筋，大腿の筋，下腿の筋，足の筋	
9			
10			
11			
12			
13			
14		下肢の筋 まとめ	
15		背部の筋，頭頸部，胸腹部筋/まとめ	

テキスト・参考図書	テキスト：鈴木重行：触診術，三輪書店 H. J. Hishop 他 (津山直一他訳)：新・徒手筋力検査法，協同医書出版 参考書：林典雄 「機能解剖学的触診技術」上肢、下肢・体幹 マジカルビュー社 (テキスト変更の場合あり)
成績・評価の方法	実技発表 70%、受講態度 30%
その他 (履修上の留意点)	触診部位が露出できるような衣服を準備すること 対象者を傷つけないように配慮すること 各自、積極的かつ自主的にこなすこと

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	リハビリテーションのための人体構造（運動器）		
担当教員	宮脇 利幸		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
基礎医学科目および臨床医学科目，そして作業療法評価学実習Ⅰを終えた時期に改めて疾患・障害と関連づけた身体運動に関わる骨，靱帯，関節，筋および神経など運動器系の解剖学知識を再認識する			

学 習 目 標（行 動 目 標）
人体の骨格とその連結（関節）の構造と機能を疾患・障害と関連づけて説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		上肢の骨・関節，筋	宮脇
2		〃	〃
3		〃	〃
4		〃	〃
5		下肢の骨・関節，筋	〃
6		〃	〃
7		〃	〃
8		〃	〃

テキスト・参考図書	テキスト：（未定）
成績・評価の方法	課題レポート 100%
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	リハビリテーションのための人体構造（神経系）		
担当教員	宮脇 利幸		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	8 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	選択	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
基礎医学科目および臨床医学科目，そして作業療法評価学実習Ⅰを終えた時期に改めて疾患・障害と関連づけた中枢神経系および末梢神経系の解剖学知識を再認識する			

学 習 目 標（行 動 目 標）
中枢神経系および末梢神経系の構造と働きを疾患・障害と関連づけて説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		中枢神経系：脊髄、脳幹、小脳、間脳、終脳、伝導路	宮脇
2		〃	
3			
4			
5			
6		末梢神経系：腕神経叢、腰仙骨神経叢、筋と支配神経	
7			
8		〃：脳神経、交感神経系	

テキスト・参考図書	テキスト：（未定）
成績・評価の方法	課題レポート 100%
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法基礎運動学 I		
担当教員	松房 利憲		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
ここでは機能解剖学を中心に人体の正常な運動を理解できるようにする。地球上での運動は抗重力で行われることから力学の基礎について教授する。人体の構造および機能について、解剖学、生理学等に触れながら身体運動との関係を理解する。各筋の作用を関節との関係において理解し、身体運動を成立させている機構の基礎を学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 運動学の概略を説明できる 2. 基礎的な生体力学について説明できる 3. 筋収縮の様態を説明できる 4. 各筋の関節に作用する機能を説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/ 4	運動学概論、生体力学の基礎 (1)	松房 利憲
2	10/11	生体力学の基礎 (2)	〃
3	10/18	生体力学の基礎 (3)	〃
4	10/25	上肢の運動 (上肢帯と肩関節)	〃
5	11/ 1	〃 (肩関節)	〃
6	11/ 8	〃 (肘関節と前腕)	〃
7	11/15	〃 (手関節と手)	〃
8	11/22	〃 (手関節と手)	〃
9	11/29	下肢の運動 (下肢帯と股関節)	〃
10	12/ 6	〃 (膝関節)	〃
11	12/13	〃 (足関節と足)	〃
12	12/20	〃 (足関節と足)	〃
13	1/10	体幹の運動 (脊柱の運動)	〃
14	1/17	〃 (胸郭)	〃
15	1/24	〃 (胸郭と顔面の運動)	〃

テキスト・参考図書	テキスト：中村隆一，斎藤 宏，長崎 浩：基礎運動学，医歯薬出版 参考書：松房利憲：運動学で心が折れる前に読む本，医学書院
成績・評価の方法	期末試験 6 0 点以上を合格とする
その他（履修上の留意点）	2 回目以降、復習のため毎回小テストを行う

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法基礎運動学Ⅱ		
担当教員	松房 利憲		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
基礎運動学Ⅰで取得した知識を基に、姿勢やバランス能力について理解する。また歩行について運動学的分析や運動力学的分析を通して理解を深める。さらに運動の基礎となる反射および運動学習について学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 姿勢と姿勢の安定性について説明できる 2. 歩行について、運動学的分析および運動力学的分析から説明できる 3. 反射および姿勢反射について説明できる 4. 運動発達について説明できる 5. 運動学習について説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		姿勢	松房 利憲
2		〃	〃
3		歩行	〃
4		〃	〃
5		〃	〃
6		反射	〃
7		〃	〃
8		姿勢反射	〃
9		〃	〃
10		運動発達	〃
11		〃	〃
12		〃	〃
13		運動学習	〃
14		〃	〃
15		〃	〃

テキスト・参考図書	テキスト：中村隆一，斎藤 宏，長崎 浩：基礎運動学，医歯薬出版 参考書：松房利憲：運動学で心が折れる前に読む本，医学書院
成績・評価の方法	期末試験60点以上を合格とする
その他（履修上の留意点）	2回目以降、復習のために毎回小テストを行う

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	運動学実習		
担当教員	宮脇 利幸、古川 智巳		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	3 0 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義・実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
人間の運動動作について、観察・測定・分析の初歩的手段を体験し、レポートにまとめる。また運動機能障害を持つ人の問題点を運動学的に捉え、評価や治療に応用する基礎を学ぶ。 その目的・方法を理解するためのオリエンテーションや実習後のフィードバックを各課題ごとに行う。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・運動学で学んだ基礎的な知識を、身体活動と結びつけて理解する。 ・各種機器を用いた分析の手法を学び、実践する。 ・人間の運動動作の観察力を身につけ、分析できるようになる。 ・実験の結果をレポートにまとめる能力をつけ、発表することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		起居動作（寝がえり、起き上がり、座位保持）、立ち上がり、立位保持）の分析 動作工程表の作製、動作観察	宮脇, 古川
2			
3		〃	〃
4			
5		〃	〃
6			
7		〃	〃
8			
9		筋電図	〃
10			
11		〃	〃
12			
13		〃	〃
14			
15		歩行分析	〃
16			
17		〃	〃
18			
19		〃	〃
20			
21		上肢・手指操作の分析	〃
22			
23		〃	〃
24			
25		〃	〃
26			

27		H	H
28			
29		まとめ	H
30			

テキスト・参考図書	テキスト：（未定）
成績・評価の方法	演習・課題への取り組み:30% レポート:70%
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法概論		
担当教員	外里 富佐江		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
作業療法という学問について、その専門性や特性を概括的に学び、世界と日本における作業療法の歴史的経過、作業療法の適応となる医療・保健・福祉領域における位置づけ、対象となる疾患と急性期から終末期の作業療法の役割、治療・援助目的や手段などについて初歩的な内容を概観する。同時に作業療法士としてのアイデンティティの基盤を培うべく、資質としての倫理感、専門職業人としての作業療法への取り組み方、学習領域としての4年間の流れ、情動領域としての授業への取り組み方の基本も学ぶ。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 生活している人の健康、病気、障害について推測し、行動、行為の変容を予測し、表現することができる。 2. 作業療法の起源と伝承される原理について述べるができる。 3. 作業療法の実践の仕組みについて記述することができる。 4. 作業療法実践の事例を想像し、疑問点を調べ、思考した問題解決方法を説明することができる。 5. 作業療法士の専門職としての資質に関して述べるができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/9	オリエンテーション/授業の進め方 (SB01, 2)	外里
2	4/16	作業療法とは何かを説明できる。課題① (SB01, 2)	外里
3	4/23	作業療法とは何かを説明できる。課題② (SB01, 2)	外里
4	5/7	作業療法とは何かを説明できる。課題③ (SB01, 2, 3)	外里
5	5/14	作業療法とは何かを説明できる。課題④ (SB01, 2, 3)	外里
6	5/21	模擬授業発表・グループ発表、課題 (個人レポート)	外里
7	5/28	作業療法紹介の DVD から作業療法士の役割を述べるができる。	外里
8	6/11	身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題① (SB03, 4)	外里
9	6/18	身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題② (SB03, 4)	外里
10	6/25	身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題③ (SB03, 4)	外里
11	7/2	身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題④ (SB03, 4)	外里
12	7/9	専門職の備えるべき条件と役割について述べるができる。(SB05)	外里
13	7/16	身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題⑤ (SB03, 4)	外里
14	7/23	グループ発表・課題 (個人レポート)	外里
15	7/30	グループ発表・課題 (個人レポート)	外里

テキスト・参考図書	テキスト：矢谷令子 監修，二木淑子他(編)標準作業療法学 作業療法概論 医学書院 参考書：長崎重信 監修，里村恵子編 作業療法学概論 メヂカルビュー ：矢谷令子・福田恵美子 編集 作業療法実践の仕組み 協同医書 授業の進行状況に合わせて必要な資料を提供する。
-----------	---

成績・評価の方法	試験50％，レポート50％
その他（履修上の留意点）	グループでの議論や発表が中心になるため，積極的な授業への参加を期待する． また， 広範な知識を必要とするので，新聞，メディアの情報に敏感であること．

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	基礎作業療法学		
担当教員	春原 るみ		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
作業療法の概念，前提となる理論，目標などの知識を学び，作業療法とは何かを理解する。作業療法の中核である作業について，人間－作業－環境の関係および健康との関係に基づき，作業とは何か，作業に対する文化的影響，人びとはなぜ作業に従事するのか，作業はどのように遂行され，どのように組織されるのか，作業の時間的側面，等作業の主観的意味，作業の文脈，作業の成果などについて理解する。また，作業を分析し段階づけるために必要な知識を学び実際に分析する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 作業療法の中核をなす作業について、作業の広がり、主観的意味、文脈、作業による成長と回復について説明できる。 2. 作業と人と健康の関係を説明できる。 3. 作業分析の手法、適応や段階づけについて説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	4/8	作業とは何か 作業の定義	春原 るみ
2	4/15	作業と何か 作業の種類と階層	
3	4/22	作業の主観的意味 生産的作業	
4	5/6	作業の主観的意味 楽しい作業	
5	5/13	作業の主観的意味 休息になる作業 作業バランス	
6	5/20	作業の文脈 空間的側面	
7	5/27	作業の文脈 時間的側面	
8	6/3	作業の文脈 社会的・文化的側面	
9	6/10	作業による健康と回復 作業と健康	
10	6/17	作業による成長と回復 作業の変遷	
11	6/24	作業による成長と回復 社会改革と作業	
12	7/1	作業分析とは	
13	7/8	包括的作業分析の試み	
14	7/15	作業療法と作業 適応と段階づけ	
15	7/22	作業療法と作業 手段としての作業・目的としての作業	

テキスト・参考図書	テキスト:吉川ひろみ:「作業」って何だろう 作業科学入門 第2版, 医歯薬出版, 2008 エリザベス・タウンゼント:続・作業療法の視点, 大学教育出版 参考書:日本作業療法士協会:作業療法学全書第2巻 基礎作業学, 山根寛:ひとと作業・作業活動, 三輪書店
成績・評価の方法	レポート 30%・期末試験 70%

その他（履修上の留意点）	教科書、必要に応じて参考図書を事前に読んで予習すること
--------------	-----------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	基礎作業学Ⅰ（基本・技法）		
担当教員	松房 利憲、松下 雅子、栗林 美智子		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
臨床で用いる作業種目の基本的技法を身につけ、作業手順や使用器具についての基礎的知識を得る。また、各作業の素材、作業の流れ、作業の工程の複雑さ、作業とコミュニケーションとの関係などを考察し、心身に与える影響や、治療的側面について、実際の作業活動を通して学ぶ。結果として治療活動としての作業の持つ役割を理解し、作業療法場面において応用的な活用ができるようになる。 下記の教員が作業活動を分担して担当する。（松房利憲）木工 （栗林美智子）陶芸 （松下雅子）革細工			

学 習 目 標（行 動 目 標）
・各種活動の基本的な技法を理解し、活動の指導方法を考察する。 ・作業活動ごとに、作業の意味、身体的・精神的影響因子の特徴を理解できる。 ・作業活動が人間に与える身体的・精神的・心理的影響や効果が理解できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		月曜日3限：革細工	
2		金曜日1限（時に3限も）：陶芸	
3		金曜日3,4限：木工	
4		上記時間に木工：松房5回 陶芸：栗林5回 革細工：松下5回	
5		計15回をグループ毎に分かれて実施する。	
6		詳細な日程は後日掲示する。	
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	テキスト：革の技法 楽しむための基本集，日本ヴォーグ社 参考書：日本作業療法士学会編：作業・その治療的応用 協同医書出版 岩瀬義昭編：基礎作業学実習ガイド 協同医書出版社 長崎重信編：作業療法ゴールドマスター 作業学，メジカルビュー社
成績・評価の方法	作品の製作過程を含む演習：60% 演習の理解度の筆記試験 40%
その他（履修上の留意点）	テキストおよび配付資料を参考に事前学習を行うこと。また、授業時間内に終わらなかった課題については各自の空き時間を利用し、次の講義に間に合わせる。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	基礎作業学Ⅱ（作業分析）		
担当教員	松房 利憲、春原 るみ、松下 雅子		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
1， 2 年で学んだ作業療法学の知識を応用し、作業の分析能力と治療的応用能力を学ぶ。 作業がもつ治療的意味と個人的な意味合いを総合して、治療効果があがるように工夫して適用できるよう、各作業がもつ特性を学び、その特性が持つ治療的意味を持ちうるかを明らかにし、それぞれの領域で治療手段として使用できるようになる。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
1． 包括的作業分析の観点を説明できる 2． 限定的作業分析の観点を説明できる 3． 作業を評価的に用いる意義について説明できる 4． 作業を治療的に用いる意義について説明できる 5． 分析結果と治療目標のマッチングができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		作業分析とは	松房 利憲
2		作業（1）の分析と治療的応用（GW）	〃
3			〃
4			〃
5			〃
6		作業（2）の分析と治療的応用（GW）	春原 るみ
7			〃
8			〃
9			〃
10		作業（3）の分析と治療的応用（GW）	松下 雅子
11			〃
12			〃
13			〃
14		各作業の分析と治療的応用の発表	松房、春原、松下
15		各作業の分析と治療的応用の発表・まとめ	松房、春原、松下

テキスト・参考図書	テキスト：その都度指定する 参考書：その都度指定する
成績・評価の方法	演習：30% レポート：70%
その他（履修上の留意点）	テキストおよび配付資料を参考に事前学習を行うこと。授業時間内に終わらなかった課題については各自の空き時間を利用し、次の講義に間に合わせることを。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法研究法Ⅰ		
担当教員	熊本 圭吾		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
臨床実践とともに「研究」に取り組む事は、理学療法という専門領域を確立・発展させるためにも重要である。また、Evidence Based Medicineを実施していくためには、エビデンスとなる学術論文が読めることと、実証的な取り組みができることが必要となる。 本講義では、医療分野における研究に関する基礎的な知識を概観するとともに、研究倫理や研究における不適切な行為について学び、理学療法研究法演習（卒業研究）および今後の研究活動を進める上で必要となる基礎的な知識を身に付けることを目標とする。また、関連領域の研究論文を読むことを通して、研究の方法や科学的な態度に触れることも目的とする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・ 研究や研究論文の意義が理解できる ・ 目的とする研究論文を探すことができる ・ 論文の基本的な読み方と書き方を理解する ・ 先行研究をまとめて伝えることができる ・ 研究倫理、研究における不正について理解できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		なぜ研究？	熊本 圭吾
2		基本となる力	〃
3		文献の探し方	〃
4		学術論文の読み方・読解力	〃
5		学術論文の読み方	〃
6		テーマ・課題選び	〃
7		先行研究の理解・論文を批判的に紹介する	〃
8		研究倫理	〃
9		文献をレビューする・引用の作法	〃
10		文献をレビューする	〃
11		研究方法	〃
12		研究計画	〃
13		統計解析、その前に	〃
14		プレゼンテーション	〃
15		卒業研究用文献レビューの発表	〃

テキスト・参考図書	特に指定しません
-----------	----------

成績・評価の方法	期末試験 50%, 提出課題・発表 50%
その他（履修上の留意点）	文献を読む課題が多くなります。レポートや発表も研究を念頭に置いたものとなりますので、そのつもりで取り組んでください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法研究法Ⅱ		
担当教員	専任教員		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
作業療法研究法Ⅰで学んだ内容を具体的に実践し、最終的な卒業研究の研究計画を立てる。文献の抄読では批判的な読解を心掛け、客観的な思考を展開する。研究計画の作成途上では科学的な判断ができるように、他者とのディスカッションが積極的にできることを期待する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・研究疑問を明確にし、研究テーマが設定できる ・研究計画が立てられる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		1. 研究テーマの絞り込み 先行研究の収集と抄読 2. 研究方法の検討 3. 予備的な実験・調査の実施 4. 研究計画書の作成 5. 研究計画発表会 6. 研究計画書の修正	専任教員
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	なし
成績・評価の方法	研究計画発表会，提出物，参加状況，参加態度により総合的に判定する。
その他（履修上の留意点）	担当教員，他学生とのディスカッションを積極的に行うこと

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法研究法演習（卒業研究）		
担当教員	OT 専攻教員		
配当年次	4 年次	配当学期	通年
年間授業回数	30 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
学内および臨床実習で学んだ知識からの問いや疑問から、学生自らが考えた研究テーマを基に、作業療法に関する論文の作成を行う。その過程において、文献検索の手法、参考文献の整理をおこない、具体的な実験計画を明確にする一連の流れを学ぶ。そして論文の主要な構成である緒言・研究材料・方法・結果・考察・あるいは、図・表や参考文献などの取り扱い方法について、具体的に学び、最終的には論文として完成させるまでを行う。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
・研究テーマに沿った資料の収集ができる。 ・援助を受けながら、研究の実施計画書作成することがきでる。 ・研究計画に基づき、調査実験を具体的に進めることができる。 ・統計的手法を用いて結果の整理を行い、考察することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		9月下旬：発表会	
2		12月：完成論文提出	
3		詳細については、各担当教員に確認して勧めること	
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			

26			
27			
28			
29			
30			

テキスト・参考図書	テキスト：特に指定しない 参考書：特に指定しない
成績・評価の方法	課題70%、参加姿勢30%
その他（履修上の留意点）	自ら進んで、研究を展開していく姿勢を持って行うこと

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法管理学		
担当教員	清水万紀子、岩谷力、栗林美智子、松下雅子		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
作業療法を実践する上での職場管理（教育）、職業倫理を学び、実務遂行に欠かせない組織の管理運営の基礎知識を習得する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
作業療法士として働くための基本的な職場内での業務管理が説明できる。 人事管理等に関する基本的な知識、社会人・職業人として職場における作業療法士の役割を説明できる。 2 年毎に改定される診療報酬、3 年毎に改定される介護報酬についてのおおまかな概要を説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	未定	医療倫理	岩谷力
2	未定	臨床実習について	清水万紀子
3	未定	個人情報保護法について	〃
4	未定	医療報酬その他（障害者福祉領域）	〃
5	未定	医療報酬その他（精神科領域）	栗林美智子
6	未定	医療報酬その他（発達障害領域）	松下雅子
7	未定	医療報酬その他（身体障害領域）	清水万紀子
8	未定	作業療法と倫理	〃
9	未定	作業療法部門の管理・運営	〃
10	未定	〃	〃
11	未定	〃	〃
12	未定	医療職としての接遇・リスク管理	〃
13	未定	ホスピタリティーについて	〃
14	未定	作業療法が関わる医療保険・介護保険・自立支援	〃
15	未定	まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：岩崎テル子編集：標準作業療法学 作業療法学概論第 2 版，医学書院 参考書：砂屋敦忠他編：医療保健専門職の倫理テキスト，医療科学社 その他：随時プリントを配布
成績・評価の方法	レポート

その他（履修上の留意点）	授業内容を4年次の臨床実習に活かす。※開講日は随時連絡する
--------------	-------------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学総論		
担当教員	外里 富佐江		
配当年次	1 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)

作業療法を実施するためには、対象者の評価ができることが前提となる。評価とはなにかを中心に、領域を問わず、どの領域であっても必要とされる考え方および知識を教授する。2 年次に学ぶ評価学につなげるものである。対象者の持っている機能や能力、失った機能や能力を正しく評価し、把握したうえでプログラムを立てられるよう、作業療法の評価全般にわたって目的、種類、手順、注意事項などの概略について学ぶ。

学 習 目 標 (行 動 目 標)

1. 評価とは何か説明できる
2. 何のために評価をするかを説明できる
3. 各領域に共通な機能の基礎知識を説明できる
4. 面接・観察の意味と重要性を説明できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	10/3	オリエンテーション/授業の進め方 (SB0 1)	外里
2	10/10	身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題① (SB0 2, 3, 4) /補足	外里
3	10/17	身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題② (SB0 2, 3, 4) /補足	外里
4	10/24	身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題③ (SB0 2, 3, 4) /補足	外里
5	10/31	身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題④ (SB0 2, 3, 4) /補足	外里
6	11/7	身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題⑤ (SB0 2, 3, 4) /補足	外里
7	11/14	身体障害/精神科/発達/高齢期各領域の課題⑥ (SB0 2, 3, 4) /補足	外里
8	11/21	グループ発表, 課題 (個人レポート) 身体障害/精神科各領域	外里
9	11/28	グループ発表, 課題 (個人レポート) 発達/高齢期各領域	外里
10	12/5	作業療法における排泄機能評価 (SB0 3)	今西
11	12/12	作業療法における排泄機能評価 (SB0 3)	今西
12	12/19	課題⑦ 記録・報告・面接の意義・再評価と効果判定 (SB0 1, 2, 3, 4)	外里
13	1/9	課題⑧ 作業療法評価とはなにか/問題点, 利点の抽出 (SB0 1, 2, 3, 4)	外里
14	1/16	グループ発表, パワーポイント作成	外里
15	1/23	グループ発表, パワーポイント作成	外里

テキスト・参考図書	テキスト：能登真一他編集：作業療法評価学 第3版，医学書院 テキスト：鈴木則宏 神経診察クローズアップ（正しい病巣診断のコツ），メジカルビュー社 参考書：福田修也：ROM測定 第2版 三輪書店 その他，適宜資料を配布する。
成績・評価の方法	試験50%，レポート50%，出席態度を見て総合的に判断する。

その他（履修上の留意点）	広範な知識を必要とするため、積極的な授業への参加を期待する.
--------------	--------------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	身体系作業療法評価学		
担当教員	清水 万紀子、古川 智巳		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
身体障害作業療法を実施する上で必要となる基本的評価の意義と目的を知り、測定技法、検査器具の使用方法、検査手順、記録方法を学ぶ。また、対象者の状況を正しく把握するため、画像評価を学び、客観的な評価が行えることを目的とする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 各評価の目的を理解し、評価の留意点を知る。 2. 検査の意味を理解し、検査について説明することが出来る。 3. 検査を健常者に対して実施できる。 4. 検査から得られた結果を記録し、内容を把握することができる。 5. 画像評価の基礎を説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	未定	面接法・観察法,形態測定,意識の評価バイタルサインの測定	清水万紀子
2		関節可動域測定 上肢	古川 智巳
3		〃	〃
4		関節可動域測定 下肢,体幹	〃
5		〃	〃
6		徒手筋力検査法 肩甲帯,肩	清水万紀子
7		〃 上肢	〃
8		〃	〃
9		〃	〃
10		〃 下肢	〃
11		筋緊張検査,協調性検査	〃
12		反射検査,姿勢反射検査	〃
13		画像評価	清水万紀子
14		知覚検査・脳神経検査	古川 智巳
15		脳神経検査・上肢機能検査	〃

テキスト・参考図書	テキスト：岩崎テル子他編：標準作業療法学 作業療法評価学 医学書院 津山直一訳：新・徒手筋力検査法：協同医書出版社 鈴木則宏：神経診察クローズアップ（正しい病巣診断のコツ）：メジカルビュー社 その他：資料の配布
成績・評価の方法	期末筆記試験 90%, 実技試験 10%

その他（履修上の留意点）	範囲が広いので、予習・復習を行って授業に参加すること。
--------------	-----------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	精神系作業療法評価学		
担当教員	春原 るみ、栗林 美智子		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
精神障害および心理・社会的要因により作業遂行上の問題を抱えている対象者に対して、援助のための理解に必要な評価の視点、面接・観察・検査・調査の各手法を適切かつ統合的に活用するための知識、態度、技術を学習することを目標とする。学生 2 人がペアになって検査者と被検査者の双方を体験する。また、自分自身についての背景情報の整理といくつかの評価結果を合わせて自己分析を行い、自己の治療的応用の視点を学ぶ。講義と合わせ、演習を通して臨床評価実習につなげる。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 精神障害作業療法における評価の基本的な流れと評価の視点を理解する 2. 各評価法を理解し、学生同士で適切に実施することができる 3. 2 について、学生パートナーの結果と自己の結果を分析し、それを系統的に記述することができる 4. 援助者としての自己の特徴について、関心・気づきを持つことができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		オリエンテーション、学内実習とレポート、個人情報保護	春原・栗林
2		I C F に基づく評価、評価の概要、情報収集とインタビュー面接	〃
3		研究発表①（カナダモデル／COPM） 演習（インタビュー・COPM）	〃
4		観察、質問紙をもちいた面接、演習（インタビュー面接の準備）	〃
5		演習（インタビュー面接、C O P M、質問紙）	〃
6		研究発表②（標準化とは）、③（内田クレペリン精神作業検査）	〃
7		演習（内田クレペリン精神作業検査）	〃
8		研究発表④（人格検査） 演習（T E G）	〃
9		研究発表⑤（職業適性検査）、⑥（VPI 職業興味検査）	〃
10		演習（職業適性検査、VPI 職業興味検査）	〃
11		作業面接とは・作業面接の視点（箱づくり法を利用して）	〃
12		演習（箱づくり法）	〃
13		演習（箱づくり法の読み方、まとめ方）	〃
14		研究発表⑦（ケアアセスメント）、⑧（投影法／バウムテスト）	〃
15		社会生活機能評価尺度	〃

テキスト・参考図書	テキスト：山根 寛：精神障害と作業療法 第3版，三輪書店 能登真一他編：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院 眞岡詔子：作業面接としての箱づくり法 吉川ひろみ：作業療法がわかる COPM・AMPS スターティングガイド，医学書院 WHO：I C F 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－，中央法規 参考書：香山明美他編 作業療法の面接技術，三輪書店 岩崎テル子他編：標準作業療法学 作業療法評価学 医学書院
-----------	---

	新版－TEG手引書、解説とエログラムパターン、内田クレペリン解説書 VPI 職業検査手引書、VPI 利用者のための職業ガイド、 C. コッホ：バウムテスト－樹木画による人格診断法一、日本文化科学社 高橋雅春他：樹木画テスト、北大路書房、労働省一般職業適性検査手引き K. ボーランダー：樹木画によるパーソナリティの理解、ナカニシヤ出版
成績・評価の方法	期末試験：８０％ 私についてのレポート：１０％ 演習・研究発表・授業への参加度：１０％ ＊各評価法のケースノートについて、不備の連続や提出遅れがあった場合減点する。 ＊提出物や課題について不正が認められた時は、減点あるいは単位を認めないことがある。
その他（履修上の留意点）	・学生パートナーを対象者として評価を体験するが、評価ごっこではないので真剣に臨むこと。対象者についての個人情報の管理は、医療従事者を志す者として個人情報保護法に則り十分に留意すること。 ・日常生活の自己管理に配慮し、パートナー（対象者）に迷惑をかけないように努めること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	発達系作業療法評価学		
担当教員	松下 雅子、福田 恵美子		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
1. 発達過程で疾病や障害を受けた対象児・者の状態（病態・障害）と、彼らが生活する環境 について理解を深め、作業療法士が実践する評価の目的を理解し修得する。 2. 対象児・者の生活行動を疎外している因子を把握するために、発達障害関係の各種評価法の内容及び実施方法が理解できる。 3. 対象児者に合わせた評価計画の立案方法を理解できる。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
1. 発達過程の障害の概略を理解し、作業療法が支援する疾患と障害の特性を説明できる。 提示された各種評価の目的を説明し、適用する理由を述べることができる。 2. 各種評価の目的を理解し、留意点を説明することができる。 各種評価方法を安全に配慮して実施することができる。 3. 対象児者に合わせて作業療法評価計画を立案をし、説明することができる。 評価計画立案についてクラス内で発表とディスカッションを行うことができる。	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		授業オリエンテーション、発達障害とは	松下
2		発達障害児者の評価の実践課程	福田
3		発達全般の評価について（発達検査）	松下
4		運動機能面の評価	〃
5		〃	〃
6		感覚統合機能の評価	〃
7		〃	〃
8		視機能・視知覚の評価	〃
9		知能・認知機能の評価	〃
10		行動の評価	〃
11		作業遂行・ADL の評価	〃
12		事例に合わせた評価（評価計画の立案）	〃
13		〃	〃
14		〃	〃
15		発表	〃

テキスト・参考図書	テキスト：福田恵美子編集：標準作業療法学 発達過程作業療法学第2版，医学書院 岩崎テル子他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院 岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編） 第2版，三輪書店 岩崎清隆，岸本光夫：発達障害と作業療法（実践編） 第2版，三輪書店 参考書：辛島千恵子：発達障害を持つ子どもと成人，家族のためのADL，三輪書店
-----------	--

	福田恵美子：ゆっくり発達している子どもが輝く遊びの処方箋，株式会社 CBR
成績・評価の方法	期末試験：70％ 課題レポート：20％ 授業及びグループワークへの参加度：10％
その他（履修上の留意点）	授業該当範囲の予習・復習を行い，疑問点について質問できるようにしてください。 グループワークでは主体的に取り組み，ディスカッションを深めてください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法評価学演習（総合）		
担当教員	宮脇 利幸、清水 万紀子、古川 智巳、春原 るみ、栗林 美智子、松下 雅子		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	3 0 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要（一 般 目 標）			
小グループを単位（5～6 人）として、評価学で学んだ知識を具体的に应用するために演習を行う。具体的には実際に模擬患者に対し、対象者とのセラピストとしての接し方を学び、疾患特性をもとに評価計画の策定方法を学ぶ。またそれに基づいて検査・測定を実際に行い、診断的思考過程を学ぶとともに I C F に基づく障害の整理を行うことで全体像を作ることができるようにする。2 年後期最後の評価実習までに評価全体の流れがイメージできるようにする。			

学 習 目 標（行 動 目 標）
・提示される疾患の特性を理解できる。 ・疾患特性に基づいた評価計画が作成できる。 ・学んだ評価を、対象者に適切に行うことができる。 ・行った結果を SOAP で記述できる。 ・ICF に基づき全体像を把握し、課題の焦点化ができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		時間割上のコマで、6 グループに分かれ、演習を行う。	
2		詳細な日程は担当教員より指示がある。	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			

25			
26			
27			
28			
29			
30			

テキスト・参考図書	テキスト： 参考書：特に指定しない
成績・評価の方法	演習およびグループワークへの取り組み 50%、レポート 50%
その他（履修上の留意点）	事前学習および演習の模擬練習を事前に行うこと

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	身体系作業療法学		
担当教員	清水 万紀子、古川 智巳		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
各疾患の特性を知り、疾患に合致した基礎的な評価法を体得するため、学生間で実技演習をまじえて評価方法の実際を学ぶ。身体的な評価だけでなく心理・社会的・環境的背景などを考慮し、包括的な視点から評価が出来るようになることを目標とする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 各疾患の評価目的を理解できる。 2. 検査の意味を理解し、疾患に応じた検査を選択、実施できる。 3. 検査を被検者に対して実施できる。 4. 検査から得られた結果を記録し、内容を把握することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		脳血管障害の作業療法学	清水・古川
2		〃	〃
3		〃	〃
4		〃	〃
5		脊髄損傷の作業療法学	〃
6		〃	〃
7		〃	〃
8		上肢の末梢神経障害の作業療法学	〃
9		〃	〃
10		〃	〃
11		関節リウマチおよびその類縁疾患の作業療法学	〃
12		〃	〃
13		その他の神経疾患・神経・筋疾患の作業療法学	〃
14		〃	〃
15		〃	〃

テキスト・参考図書	テキスト：能登真一他：標準作業療法学 作業療法評価学 医学書院 津山直一訳：新・徒手筋力検査法 協同医書出版社 参考書：田中宏太佳：脊髄損傷のリハビリテーション 医学書院 その他：必要に応じてプリントを配布
成績・評価の方法	期末筆記試験 9 0 %、授業態度 1 0 %

その他（履修上の留意点）	シラバスで授業内容確認を行い、予習して授業に参加して下さい。
--------------	--------------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	身体系作業療法治療学Ⅰ		
担当教員	清水 万紀子、古川 智巳		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
それぞれの身体障害機能的障害の原因を知り、作業療法を実施するために必要な基本的な考え方や治療法について学ぶ。講義を中心に進めるが、治療法を展開する上で役立つよう、具体的な障害像と治療イメージを繋げる。またリスク管理を行いながら個々の障害に応じた治療法が展開できることを目標とする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 機能的身体障害を治療するための基本概念と基礎技術を説明することができる。
2. 初歩の手技を被検者に対して実施することができる。
3. 基礎的治療法を習得し、治療方法を選択することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		身体機能作業療法学の基礎	古川 智巳
2		対象者とセラピストのためのボディーメカニクス	清水 万紀子
3		関節可動域の拡大	〃
4		〃	〃
5		筋力と持久力の維持・拡大	古川 智巳
6		〃	〃
7		筋緊張異常とその治療	古川 智巳
8		〃	〃
9		不随意運動とその治療	清水 万紀子
10		〃	〃
11		協調性障害とその治療	古川 智巳
12		〃	〃
13		知覚再教育	清水 万紀子
14		廃用症候群とその対応	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：山口 昇他：標準作業療法学 身体機能作業療法学 医学書院 医療情報科学研究所 編集：病気がみえる vol.7 脳・神経, メディックメディア その他：資料を配布
成績・評価の方法	期末筆記試験 9 0 %, 小テスト 1 0 %
その他（履修上の留意点）	授業内容の予習・復習を心がけること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	身体系作業療法治療学Ⅱ		
担当教員	清水 万紀子、古川 智巳		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
作業療法治療学Ⅰ（身体障害）で学んだ知識を元に、喀痰等の吸引を含む治療技術を身につける。学生同士でグループに分かれ、手技の目的や理論を確認しながら治療方法を学習する。また、演習を通して対象疾患に対する治療リスク管理について学び、グループで学習した内容をクラスで共有することを目標とする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 身体障害の各疾患の治療特性を説明できる。 2. 各疾患に対して基本的治療の治療技術内容を説明できる。 3. 各疾患に対して基本的治療技術を説明、実施できる。 4. 各疾患の治療技術に対してリスク管理ができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		(開講日と内容は一致しない)	清水 万紀子
2		グリーンヒル見学 (校外実習)	〃
3		中枢神経疾患 (脳血管障害・頭部外傷・脊髄損傷)	〃
4		骨関節疾患 (関節リウマチ・全身性エリテマトーゼス等)	〃
5		上肢の末梢神経損傷	〃
6		神経筋疾患 (多発性硬化症・ギランバレー症候群等)	〃
7		神経変性疾患 (パーキンソン病・脊髄小脳変性症等)	〃
8		悪性腫瘍	〃
9		切断	高嶋 孝倫
10		骨関節疾患 (骨折・加齢性関節疾患)	古川 智巳
11		腱損傷・腱板断裂	〃
12		内部疾患 (心疾患・呼吸器疾患・糖尿病等)	〃
13		熱傷	〃
14		喀痰等の吸引	〃
15		まとめ	清水 万紀子

テキスト・参考図書	テキスト：山口昇編集：標準作業療法学 身体機能作業療法学 医学書院 参考書：石川 察他 編集：図解 作業療法技術ガイド，文光堂 医療情報科学研究所 編集：病気がみえる脳・神経，メディックメディア 中田眞由美：作業療法士のためのハンドセラピー入門，三輪書店 八木範彦 西林保朗 編集：リハ実践テクニック 関節リウマチ，(株)メジカルビュー社 石川 朗 編集：作業療法士のための呼吸ケアとリハビリテーション，(株)中山書店
-----------	---

成績・評価の方法	期末筆記試験 80%、発表 20%
その他（履修上の留意点）	詳しい日程は別途周知する

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	精神系作業療法学		
担当教員	春原 るみ、栗林 美智子		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)

学生 2 人がペアになって検査者と被検査者の双方を体験し、検査者は被検査者の評価結果をまとめて発表する。コミュニケーションの基礎技法を意図的に利用し、作業療法で用いる面接・観察・検査の各基礎技法を実施する。各種評価法の実施結果から得られた情報を系統的に記述し、その要約を口頭で発表することを通し、情報収集―分析―統合に必要な思考力と問題解決能力を高めることを目標とする。また、事例を通して、評価演習・評価実習を見据えた評価計画をグループで立案し発表し討議することで、評価のプロセスと視点を具体的に学ぶ。

学 習 目 標 (行 動 目 標)

1. 各種評価法を理解し、演習パートナーに対し適切に実施することができる
2. 評価の実施結果から得られた情報を系統的に記述し、その要約を口頭で責任もって発表することができる
3. 演習を通して、援助者として必要な態度をとることができるようになる
4. 事例に対して、各種評価法を利用した評価計画を立案できる
5. 自分の特徴を理解し、援助者として自分自身を活かしていくための見通しを持つことができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		演習（投影法／バウムテスト）	春原・栗林
2		集団について	〃
3		評価実習（集団）	〃
4		I C F の理解（わたしについて）	〃
5		I C F の理解（わたしについて）	〃
6		評価プログラム立案（演習）	〃
7		評価プログラム立案（演習）	〃
8		評価プログラム立案（演習）	〃
9		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
10		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
11		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
12		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
13		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
14		評価結果レポート発表及びグループ討議	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書

テキスト：山根 寛：精神障害と作業療法―治る・治すから生きるへー，第3版，三輪書店
 能登真一他編：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院
 WHO：I C F 国際生活機能分類―国際障害分類改訂版―，中央法規
 参考書：山根寛他：ひとと集団・場―集まることの利用―，第2版，三輪書店

	山根 寛：ひとと作業・作業活動，三輪書店 吉田道雄：人間理解のグループダイナミクス，ナカニシヤ出版
成績・評価の方法	総合レポート（最終レポートがどれだけ改善されたかも含む）：70% グループワークへの貢献度：10% レポート発表の内容：10% レポート発表会・グループ討議への貢献度：10% ＊総合レポートのデータ不備，提出遅れは減点する． ＊レポートの作成・提出に不正があった場合は単位を認めないことがある．
その他（履修上の留意点）	・発表会も含め，グループワークに各人がどれだけ真剣に参加するかで，全体の学習成果に大きな差が出ることに留意すること． ・対象者についての個人情報の管理は，医療従事者を志す者として個人情報保護法に則り十分に留意すること．このことに関し不正があった場合は単位を認めないことがある．

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	精神系作業療法治療学Ⅰ		
担当教員	栗林 美智子、小林 正義、春原 るみ		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
精神保健医療福祉の歴史と現状を学び、精神医療の目指す方向性と精神障害リハビリテーションの基本的視点を理解する。精神障害作業療法に関連する理論・モデル、及びその基本的実践論について学び、障害・健康概念の変遷と心身の健康に貢献する作業療法の基本的役割と対象者に応じて理論やモデルを応用（折衷）していくという考え方のバリエーションを身に付ける。＜オムニバス方式／全15回＞（春原るみ／2回）作業療法理論（Fidler, Mosey）、作業行動理論（Reilly）、人間作業モデル（Kielhofner）、カナダモデル、（小林正義／1回）急性期・早期作業療法、（栗林美智子／12回）上記以外その他。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 精神医療の歴史と現状についての知識を習得し、作業療法の意義について説明することができる 2. 精神障害作業療法に関連する理論やモデルについての知識を習得し、それを説明することができる 3. 精神障害作業療法の治療構造とその実践プロセスについて説明することができる 4. 精神疾患の回復過程と回復過程に応じた援助について説明することができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		精神医療の歴史と作業療法、精神障害の特性	栗林美智子
2		精神保健医療福祉の動向と作業療法士の役割	〃
3		作業療法の基本的な視点と方法	〃
4		作業療法の構造と実施形態、作業面接の技術、作業療法実践のプロセス	〃
5		理論・関連モデル・技法：精神力動論、集団力動論、治療構造論	〃
6		①作業療法理論（Fidler）、②作業療法理論（Mosey）	春原るみ
7		③作業行動理論（Reilly）、④人間作業モデル、⑤カナダモデル	〃
8		⑥精神療法・集団精神療法 ⑦認知行動療法	栗林美智子
9		⑧SST ⑨心理教育	〃
10		⑩森田療法 ⑪芸術療法 ⑫BACS-J	〃
11		回復状態に応じた作業療法・生活支援、統合失調症の作業療法とリハビリテーション	〃
12		急性期・早期作業療法の実践	小林正義
13		退院支援、地域生活支援（再発防止プログラム・外来作業療法・精神科デイケア）	栗林美智子
14		地域生活支援（訪問・資源利用）	〃
15		不安障害と神経症性障害の作業療法	〃

テキスト・参考図書	テキスト：富岡詔子他編：作業治療学Ⅱ 精神障害、協同医学出版社 伊藤順一郎監修：統合失調症－正しい理解と治療法、講談社 参考書：香山明美他編：生活を支援する精神障害作業療法－急性期から地域実践まで 医歯薬出版 香山明美他：作業療法の面接技術、三輪書店 澤 俊二、他・編：作業療法評価のエッセンス、医歯薬出版
-----------	--

	岩崎テル子監訳：作業療法実践のための6つの理論，協同医書出版社 広沢正孝：統合失調症を理解する，医学書院
成績・評価の方法	期末試験：80% 課題レポート及び発表：10% グループワーク・授業中の討論への貢献度：10% ＊レポートの不備の連続や提出遅れがあった場合は減点することがある。 ＊レポートの作成・提出において不正があった場合は，単位を認めないことがある。
その他（履修上の留意点）	範囲が広いので，授業後にテキストの関連ページを復習し知識を定着させること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	精神系作業療法治療学Ⅱ		
担当教員	栗林 美智子、小林 正義、春原 るみ		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
精神障害作業療法の主対象となる精神疾患の特徴について理解し、障害構造論と回復段階に応じたリハビリテーションの立場から、各種精神疾患の障害特性に応じた作業療法の基本的な治療理論について学習する。また、精神障害とそれに伴う生活障害の特性と、それらに対する援助の基本、具体的な作業療法アプローチについて学習する。＜オムニバス方式／全15回＞（春原るみ／1回）てんかん・老年期精神障害の作業療法、（小林正義／1回）精神系作業療法の実践マネジメントとトピックス、（栗林美智子／13回）気分障害・パーソナリティ障害の作業療法摂食障害・依存性障害・大人の発達障害の作業療法、司法精神医療における作業療法、認知行動療法、認知リハ、ACT、当事者活動			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 各疾患の特徴や障害の特性、作業療法実施上の留意点について説明することができる 2. 精神障害作業療法に関連する治療モデルや技法について説明することができる 3. 精神障害がある人たちに対する地域生活の具体的な支援について説明することができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		摂食障害の作業療法	栗林美智子
2		気分障害の作業療法とリハビリテーション	
3		パーソナリティ障害の作業療法	〃
4		アルコール・依存性障害の作業療法	栗林美智子
5		大人の発達障害の作業療法	〃
6		てんかんの作業療法、老年期精神障害の作業療法	春原るみ
7		作業療法の実践マネジメントとトピックス	小林正義
8		事例検討	栗林美智子
9		事例検討	〃
10		事例検討	〃
11		認知リハビリテーション	〃
12		認知行動療法と作業療法、ストレス対処とセルフトーク	〃
13		認知行動療法と作業療法、コラム法と問題解決法	〃
14		当事者研究、当事者活動	〃
15		司法精神医療における作業療法	〃

テキスト・参考図書	テキスト：富岡詔子、小林正義・編：作業療法学全書改訂第3版第5巻精神障害（協同医学出版） 野村総一郎：新版 入門 うつ病のことがよくわかる本（講談社） 参考書：香山明美他：作業療法の面接技術 ストーリーの共有を目指して（三輪書店） 澤 俊二、他・編：作業療法ケースブック-作業療法評価のエッセンス（医歯薬出版）
-----------	---

	澤 俊二，他・編：作業療法ケースブック-コミュニケーションスキルの磨き方 (医歯薬出版)
成績・評価の方法	期末試験及び小テスト：80％ 授業への参加態度・課題への取り組み状況：20％
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	発達系作業療法学		
担当教員	松下 雅子、福田 恵美子		
配当年次	2 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
1. 発達障害児者に対して、その臨床像を理解できる。 2. 対象児・者の生活行動を疎外している因子を把握するために、発達障害関係の各種評価法の内容を理解できる。 3. 各種評価方法を演習を通し習得する。 4. 発達障害児者の特性に応じて必要な評価項目を選択できる。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)	
1. 発達障害作業療法の対象のうち、それぞれの障害を伴う疾患をと臨床像を説明できる。 2. 各種評価方法の特徴や適応範囲を説明できる。 3. 各種評価方法を実施できる。 4. 障害特性に応じて評価項目を選択でき、評価計画を立案できる。	

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		発達障害の概要（法的、臨床的）	福田
2		発達障害児者の理解①	松下
3		発達障害児者の理解②	〃
4		ICF の理解	〃
5		運動機能の障害に対する作業療法学	〃
6		〃	〃
7		感覚統合機能の障害に対する作業療法学	〃
8		視機能・視知覚機能の障害に対する作業療法学	〃
9		知能・認知機能の障害に対する作業療法学	〃
10		行動の障害に対する作業療法学	〃
11		作業遂行・ADL の障害に対する作業療法学	〃
12		事例に合わせた評価（評価計画の立案）	〃
13		〃	〃
14		〃	〃
15		発表	〃

テキスト・参考図書	テキスト：福田恵美子編集：標準作業療法学 発達過程作業療法学第2版，医学書院 岩崎テル子他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院 岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編） 第2版，三輪書店 岩崎清隆，岸本光夫：発達障害と作業療法（実践編） 第2版，三輪書店 参考書：辛島千恵子：発達障害を持つ子どもと成人，家族のためのADL，三輪書店 福田恵美子：ゆっくり発達している子どもが輝く遊びの処方箋，株式会社 CBR
-----------	--

成績・評価の方法	期末試験：70％ 課題レポート：20％ 授業及びグループワークへの参加度：10％
その他（履修上の留意点）	実技を行う際はジャージ着用としてください。 授業該当範囲の予習・復習を行い、疑問点について質問できるようにしてください。 グループワークでは主体的に取り組み、ディスカッションを深めてください。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	発達系作業療法治療学Ⅰ		
担当教員	松下 雅子、福田 恵美子		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義

授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)

1. 発達障害作業療法で対象となる主たる疾患について、それぞれ障害像に合わせた作業療法の基本的なアプローチについて学習する。
2. ライフステージに応じた課題の絞り込み、目標設定、治療の方向性について学習する。
3. 対象児者に合わせて評価～治療計画まで考えられるようになる。

学 習 目 標 (行 動 目 標)

1. 発達障害作業療法の対象となる疾病と作業療法との関係について説明することができる。
2. 基本的な治療理論やアプローチについて説明できる。
3. ライフサイクルを考慮しながら課題を絞り込み、目標設定することができる。
4. 対象児者に合わせて治療計画を検討し、説明することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		発達障害作業療法の歴史の変遷と哲学	福田
2		発達障害作業療法で用いられる基本的治療理論	〃
3		発達障害作業療法の評価から治療の流れ、進め方	松下
4		事例検討～課題の焦点化、ゴール設定	〃
5		〃	〃
6		脳性麻痺等運動機能障害に対する作業療法アプローチ	〃
7		重症心身障害に対する作業療法アプローチ	〃
8		知的機能障害に対する作業療法アプローチ	〃
9		自閉症スペクトラムに対する作業療法アプローチ	〃
10		注意欠如・多動性障害、学習障害に対する作業療法アプローチ	〃
11		神経筋疾患に対する作業療法アプローチ	〃
12		骨関節疾患に対する作業療法アプローチ	〃
13		事例検討～治療計画の立案	〃
14		〃	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：福田恵美子編集：標準作業療法学 発達過程作業療法学第2版，医学書院 岩崎テル子他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院 岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編） 第2版，三輪書店 岩崎清隆，岸本光夫：発達障害と作業療法（実践編） 第2版，三輪書店 参考書：福田恵美子：ゆっくり発達している子どもが輝く遊びの処方箋，株式会社 CBR
成績・評価の方法	期末試験：70％ 課題レポート：20％ 授業及びグループワークへの取り組み状況：10％

その他（履修上の留意点）	授業範囲に関して予習・復習を行い，主体的に授業に臨んでください.
--------------	----------------------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	発達系作業療法治療学Ⅱ		
担当教員	松下 雅子		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
1. 運動機能障害を持つ児者に対する positioning の基本を、演習を通して学習する。 2. 発達系作業療法治療学Ⅰで学んだことを応用し、障害特性やライフサイクルを考慮した作業療法アプローチを検討できる。 3. 事例に合わせて作業療法アプローチを検討し、プログラムの一部を発表する。 4. 発達障害児者の家族支援や、地域支援、多職種連携について学習する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)			
1. 基本的な positioning の手技を身につけ、学生相手に実施できる。 2. 疾患特性や障害像、ライフサイクルに合わせた作業療法アプローチを検討し、説明することができる。 3. 事例に合わせて実現可能な作業療法プログラムを立案し、一部を発表することができる。 4. グループワークを通して問題解決のためのディスカッションを行い、自分自身の意見を述べるができる。 5. 発達障害児者に関わる様々な職種との連携のあり方を理解し、説明することができる。			

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		Positioning の基本と実践	松下
2		〃	〃
3		感覚統合障害に対する作業療法アプローチ	〃
4		その他臨床で出会う疾患について	〃
5		発達障害児者の家族支援	〃
6		地域支援、教育機関との連携について	〃
7		発達障害作業療法の展開、最近のトピックス	〃
8		発達障害児者に対する SST の実践	〃
9		事例検討（事例に合わせた作業療法アプローチの検討）	〃
10		〃	〃
11		〃	〃
12		事例検討（プログラム発表）	〃
13		〃	〃
14		〃	〃
15		まとめとフィードバック	〃

テキスト・参考図書	テキスト：福田恵美子編集：標準作業療法学 発達過程作業療法学第2版，医学書院 岩崎テル子他：標準作業療法学 作業療法評価学 第3版，医学書院 岩崎清隆：発達障害と作業療法（基礎編） 第2版，三輪書店 岩崎清隆，岸本光夫：発達障害と作業療法（実践編） 第2版，三輪書店 参考書：福田恵美子：ゆっくり発達している子どもが輝く遊びの処方箋，株式会社 CBR
-----------	---

成績・評価の方法	期末試験：４０％ 実技試験：１０％ 課題レポート：１０％ 発表及びグループワーク：２０％ 授業及への取り組み状況：１０％
その他（履修上の留意点）	授業範囲に関して予習・復習を行い，主体的に授業に臨んでください.

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	高次脳機能系作業療法学Ⅰ		
担当教員	外里 富佐江		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
1. 高次脳機能障害の基礎知識を理解できる。 2. 高次脳機能障害の主な症状と成り立ちを理解できる 3. 高次脳機能障害の代表的な検査法を修得する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 高次脳機能障害を説明できる。 2. 高次脳機能障害の種類・概要を説明できる。 3. 高次脳機能障害の解釈方法を説明できる。 4. 高次脳機能障害の評価を説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	未定	高次脳機能障害の基礎知識（高次脳機能のとらえ方）	外里
2	未定	高次脳機能障害（失語）	外里
3	未定	高次脳機能障害（失行）	外里
4	未定	高次脳機能障害（失認、半側無視）	外里
5	未定	高次脳機能障害（記憶障害・注意障害）	外里
6	未定	高次脳機能障害（遂行機能障害）	外里
7	未定	高次脳機能障害（その他）	外里
8	未定	小テスト	外里
9	未定	高次脳機能障害の評価（失語・失行）グループワーク	外里
10	未定	高次脳機能障害の評価（失認・半側空間無視）グループワーク	外里
11	未定	高次脳機能障害の評価（記憶障害・注意障害・遂行機能障害）グループワーク	外里
12	未定	高次脳機能障害の評価 発表	外里
13	未定	高次脳機能障害の評価 発表	外里
14	未定	高次脳機能障害の評価 発表	外里
15	未定	まとめ	外里

テキスト・参考図書	テキスト：能登真一編：高次脳機能作業療法学，医学書院，2012 講師作成の配布資料 参考書：鈴木孝治編：高次脳機能障害作業療法学改訂第2版，メジカルビュー社，2012 石合純夫：高次脳機能障害学第2版，医歯薬出版，2003
成績・評価の方法	試験 60%，小テスト 20%，レポート 20%

その他（履修上の留意点）	
--------------	--

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	高次脳機能系作業療法学Ⅱ		
担当教員	外里 富佐江		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
① 高次脳機能障害の生活障害を理解できる。 ② 高次脳機能障害の画像診断を修得する。 ③ 高次脳機能障害の代表的な治療法を修得する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 高次脳機能障害とは何かを説明できる (①) 2. 高次脳機能障害の特徴と捉え方を説明できる (①, ②) 3. 高次脳機能障害が作業行動に与える影響について説明できる (①) 4. 作業療法プログラムの立案ができる (③)

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	未定	評価実習のフィードバック	外里
2	未定	事例検討 (半側空間無視)	外里
3	未定	身近な素材で Activity を考える ①	外里
4	未定	身近な素材で Activity を考える ②	外里
5	未定	集団プログラム 羅針盤 ①	外里
6	未定	集団プログラム 羅針盤 ②	外里
7	未定	認知訓練 ①	外里
8	未定	認知訓練 ②	外里
9	未定	事例検討 (1) 作業療法プログラム立案	外里
10	未定	事例検討 (2) 作業療法プログラム立案	外里
11	未定	事例検討 (3) 作業療法プログラム立案	外里
12	未定	事例検討 (4) 作業療法プログラム立案	外里
13	未定	事例検討 発表	外里
14	未定	事例検討 発表	外里
15	未定	事例検討 発表	外里

テキスト・参考図書	テキスト：長崎重信監修 鈴木孝治編：高次脳機能障害作業療法学改訂第 2 版，メジカルビュー社， 講師作成の配布資料 参考書：石合純夫：高次脳機能障害学第 2 版，医歯薬出版，2003
成績・評価の方法	

その他（履修上の留意点）	
--------------	--

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	高齢期作業療法学Ⅰ		
担当教員	宮脇 利幸		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
作業療法の対象となる高齢者および老年期障害の特徴を理解し，高齢期作業療法における評価から目標設定の流れに続き，具体的な介入方法，援助方法について習得する．			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・ 高齢者および老年期障害を理解する ・ 高齢者を取り巻く医療・保健・福祉領域における社会環境を理解する ・ 高齢者および老年期障害者に対する作業療法の役割および援助法を理解する

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		高齢社会，高齢者社会制度の変遷	宮脇
2		高齢者の特性：加齢と老化，生活障害	〃
3		〃	〃
4		高齢期作業療法の役割	〃
5		高齢期作業療法 評価	〃
6		〃	〃
7		〃	〃
8		〃	〃
9		高齢期作業療法の実践：病期の違いによる援助	〃
10		高齢期作業療法の実践：実施場所の違いによる援助	〃
11		高齢期作業療法の実践：老年期に起こりやすい症候	〃
12		〃	〃
13		高齢者のリスク管理	〃
14		〃	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：（未定）
成績・評価の方法	筆記試験 100%
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	高齢期作業療法学Ⅱ		
担当教員	宮脇 利幸		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
高齢期に多い疾患の特徴とそれをふまえた援助法を講義およびグループワークを通じて高齢者に対する作業療法での援助法を習得する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・ 老年期作業療法で必要とされる介入技術を身につける ・ 老年期に多い疾患を理解し、老年期における作業療法を企画・立案できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		高齢期脳血管障害の作業療法	宮脇
2		高齢期運動器疾患の作業療法	〃
3		高齢期パーキンソン病（パーキンソンニズム）の作業療法	〃
4		認知症の作業療法	〃
5		〃	〃
6		高齢者の抑うつ	〃
7		高齢者と集団作業療法（講義）	〃
8		〃（実技）	〃
9		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：廃用性症候群	〃
10		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：呼吸器疾患	〃
11		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：運動器疾患	〃
12		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：パーキンソン病・パーキンソンニズム	〃
13		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：認知症	〃
14		老年期に多い疾患と作業療法 グループ発表：老年期うつ	〃
15		まとめ	〃

テキスト・参考図書	テキスト：（未定）
成績・評価の方法	期末試験（50％），課題レポート（50％）
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	日常生活活動学Ⅰ		
担当教員	清水 万紀子		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義・演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
日常生活活動の意義やその評価方法について学び、評価の目的、判定、記録方法についての知識を得る。また、日常生活活動の分析を行い、心身機能・身体構造や環境との関連性について理解を深め、活動に与える影響を学ぶ。さらに、対象者の動作や活動の特性を理解するために、演習を行う。また、自助具や福祉用具の種類や適応となる疾患、導入時の注意点などについて理解を深めることを目的とする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 日常生活活動の概念を理解し、説明できる 2. 日常生活活動の評価方法を習得する 3. 日常生活活動への援助方法を習得する

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	未定	日常生活活動の概念と範囲	清水万紀子
2	〃	日常生活活動と ICF との関連	〃
3	〃	ADL への作業療法の役割	〃
4	〃	基本的 ADL：起居・移動・食事（摂食・嚥下含む）・入浴・更衣・排泄動作	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	生活関連活動（I-ADL，コミュニケーション ADL，余暇活動）	〃
9	〃	グループワーク（起居・移動動作，B-ADL）	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	ADL 評価の実際	〃
15	〃	〃	〃

テキスト・参考図書	テキスト： 濱口豊太編；標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学，医学書院 参考書： 澤田雄二編；考える作業療法-活動能力障害に対して-，文光堂 障害者福祉研究会編；ICF 国際生活機能分類，中央法規出版
成績・評価の方法	筆記試験(70%)，課題レポート(30%)

その他（履修上の留意点）	予習・復習をしっかりと行うこと。
--------------	------------------

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	日常生活活動学Ⅱ		
担当教員	清水 万紀子		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義・演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
日常生活活動学で学んだ基本的理論と評価方法をもとに、様々な疾患・環境的要因を背景とする事例に対して、個別性を重んじながら、どのように日常生活活動の治療的アプローチを実践したらよいか、グループで検討しながら考察を深める。また自助具の作成，家事動作指導の実際や実技を習得することが出来る。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 障害者の家庭生活をイメージし、個々の状態に合わせた生活行為について説明できる。 2. 障害者の個別性に合わせた福祉用具・自助具の選定ができる。 3. 住環境支援についての説明と支援ができる。 4. 片手動作による家事動作の説明と支援ができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	未定	グループワーク：疾患別に使用する自助具・福祉用具の選定	清水万紀子
2	〃	〃	〃
3	〃	〃	〃
4	〃	グループワーク発表	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	片手で行う家事動作演習	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	グループワーク：片麻痺と ADL	〃
9	〃	：脊髄損傷と ADL	〃
10	〃	：パーキンソン病と ADL	〃
11	〃	：関節リウマチと ADL	〃
12	〃	：神経・筋疾患と ADL	〃
13	〃	：在宅障害者と ADL	〃
14	〃	グループワーク発表	〃
15	〃	〃	〃

テキスト・参考図書	テキスト： 濱口豊太編；標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学，医学書院 その他：適宜配布
成績・評価の方法	筆記試験(70%)，課題レポート(30%)
その他（履修上の留意点）	自身の ADL, IADL を自立させて下さい。そこを元に障害者の生活を想像しながらイメージを膨らませましょう。予習、復習を行うこと。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法系義肢装具学Ⅰ		
担当教員	高嶋 孝倫		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
義肢装具の種類について用語の徹底から基本構成、さらには使用目的に適応した機能を教授する。Ⅰでは、作業療法士が関与することが多い上肢装具に重点を置き、基本的かつ使用頻度の高い装具について解説し、スプリントの製作を含める。国家試験に出題される歴史的な義肢装具についても触れる。装具は体表から力を架ける／受ける事によって成立する事から、随所に基礎力学の解説を含めて教授する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 義肢装具の種類と支給体系を説明できる。 2. 義肢装具の基本構造と動作原理を理解し説明できる。 3. スプリントの原理と効果を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		総論：義肢装具の種類と適応，処方の流れ，支給体系，用語体系	高嶋 孝倫
2		総論：義肢装具の種類と適応，処方の流れ	〃
3		装具総論：装具の種類と目的，装具の処方と適合判定	〃
4		上肢装具：種類と適応	〃
5		上肢装具の疾患別適応：リウマチ，外傷性疾患，その他骨関節疾患	〃
6		ハnadスプリント：指用スプリントの製作方法（実習）	〃
7		上肢装具の疾患別適応：末梢神経障害，その他神経疾患	〃
8		ハnadスプリント：カックアップスプリントの製作方法（実習）	〃
9		ハnadスプリント：カックアップスプリントの製作方法（実習）	〃
10		屈曲ダイナミックスプリント，装具の採型と陽性モデル（実習）	〃
11		屈曲ダイナミックスプリント，装具の採型と陽性モデル（実習）	〃
12		下肢装具：種類と適応，短下肢装具；短下肢装具の剛性と矯正	〃
13		尖足歩行と装具歩行	〃
14		長下肢装具，骨盤帯長下肢装具，膝装具	〃
15		二分脊椎と下肢装具	〃

テキスト・参考図書	テキスト：義肢装具と作業療法 大庭潤平，他，編著，医歯薬出版 参考書：日本義肢装具学会監修「装具学」医歯薬出版
成績・評価の方法	前期期末試験・後期期末試験 100%
その他（履修上の留意点）	実習の内容を含む

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法系義肢装具学Ⅱ		
担当教員	高嶋 孝倫		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
Ⅱでは、靴型装具、体幹装具の概念と構成、疾患適用について享受する。作業療法士が関与することが多い義手では、基本的、かつ使用頻度の高い義手について解説する。国家試験に出題される歴史的な義手についても触れる。義手は欠失した上肢機能の一部を代償する事によって成立し、上肢切断者のADLで必要となる事から、操作・調整の実習を含める。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 義肢装具の基本構造と動作原理を理解し説明できる。
2. 欠失した上肢機能と義手の構成要素による代償を説明できる。
3. 義手の操作・調整について体験的に学ぶ。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		靴型装具：足の変形と矯正、一般靴と靴型装具、靴型装具の構成要素	高嶋 孝倫
2		靴型装具：一般靴と靴型装具、靴型装具の適用	〃
3		足底装具：足底圧分散の概念、靴型装具と足底装具の適応	〃
4		体幹装具：種類と適応疾患、基本構成、腰痛と体幹装具	〃
5		体幹装具：胸椎疾患、側弯症、頸椎装具	〃
6		義手総論：上肢切断と義手の種類、構成要素	〃
7		前腕義手：構成要素	〃
8		前腕義手：能動義手、義手操作体験（実習）	〃
9		上腕義手：構成要素	〃
10		上腕義手：上腕能動義手の機能と調整方法	〃
11		能動義手操作の基本と体験、上腕能動義手の機能と調整方法（実習）	〃
12		能動義手操作の基本と体験、上腕能動義手の機能と調整方法（実習）	〃
13		上腕義手、肩義手：ソケット、肘継手、肩継手	〃
14		電動義手：筋電義手の原理と実際、ハイブリッド義手	〃
15		下肢切断 と 義足 のはなし	〃

テキスト・参考図書	テキスト：義肢装具と作業療法 大庭潤平，他，編著，医歯薬出版 参考書：日本義肢装具学会監修「装具学」医歯薬出版
成績・評価の方法	期末試験 100%
その他（履修上の留意点）	実習の内容を含む

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	職業前評価・治療学		
担当教員	春原 るみ		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
ひとの人生において職業に就く（働く）ことの意味を理解し、作業的公正の視点から障害を持つひとの就労支援について、作業療法士の就労支援における役割と可能性について最新のトピックスを理解しながら学ぶ。障害を持つ人に対する就業支援に必要な法律、事業所等の環境についてや、就労支援に必要なパラダイム・理論、支援に必要な面接、評価、計画などの技術を学習する。また、実際に地域の就労支援施設を訪問し、障害を持つひとが働くということや就労について理解する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 職業（働く）ことの意味を理解し、説明できる。 2. 職業リハビリテーションに関わる知識、法律、関連施設について理解し、説明できる。 3. 就労支援における作業療法士の役割を理解し、説明できる。 4. 就労支援での作業療法遂行過程での評価過程・方法、留意点を理解し、説明できる。 5. 就労支援での作業療法遂行過程での治療過程を理解し、説明できる。 6. 地域の就労支援施設に行き実際に就労の場について理解し、説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		職業の意味と就労支援に関する理論	春原 るみ
2		障害者と職業 障害者の就労	
3		障害者と職業 就労支援技術	
4		職業関連活動における作業療法 文献抄読と討論	
5		職業関連活動における作業療法 作業療法士の役割	
6		職業関連活動における作業療法 評価過程	
7		職業関連活動における作業療法治療過程	
8		障害別就労支援 統合失調症	
9		障害別就労支援 うつ病	
10		障害別就労支援 身体障害	
11		障害別就労支援 高次脳機能障害	
12		障害別就労支援 知的障害	
13		職務分析とは	
14		地域就労施設での実習	
15		地域就労施設での実習	

テキスト・参考図書	テキスト：平賀昭信、岩瀬義昭編集：作業療法技術学4 職業関連活動、協同医学出版 参考書：ジャーナルなど必要に応じて授業の中で紹介する。
-----------	---

成績・評価の方法	レポート 30%・期末試験 70%
その他（履修上の留意点）	教科書・文献をよく読んでおくこと 新聞・TVなどで就労に関するニュースに関心を持つ

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法治療学演習(総合)		
担当教員	OT 専攻教員		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数	15 回	単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	演習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
臨床現場で求められる対象者への適切な関わり，検査や面接，治療介入の実施などの臨床能力を高めることと 4 年次臨床実習前に各学生の臨床能力の学習程度を確認することを目的として，患者を想定した状況で検査や面接技法などの実践能力と治療計画立案能力の習得状況を確認する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・職業人・作業療法学生として適切な行動がとれる。 ・対象者に対して適切な動作の誘導・介助，評価手技ができる ・ICF に基づき全体像を把握し，作業療法の一連の実施プロセスを理解する ・記録および報告を適切に実施できる ・作業療法計画を立案できる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		少人数グループに分かれ、身体領域，精神領域，発達領域の各領域で想定された模擬患者に対して面接，評価，作業療法立案など与えられた臨床技能の課題をおこなう。 詳細については担当教員より別途連絡する。	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	指定無し
成績・評価の方法	臨床技能課題の遂行度 50%，課題レポート 50%
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域作業療法学Ⅰ		
担当教員	外里 富佐江、(清水 万紀子、春原 るみ、松下 雅子)		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
地域作業療法の視点を養うために生活障害のとらえ方と作業活動の広がりを理解する。地域作業療法の実践過程における評価の視点から支援計画までの枠組みを理解する。 地域作業療法を実践するためのプログラム立案と実践方法を事例から理解する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 身近な地域で働いている作業療法士を知ることができる。 2. 身体障害、発達障害、精神障害、老年期障害の各領域の作業療法を説明できる。 3. 生活構造の視点と地域作業療法の評価の視点の共通性について説明できる。 4. 地域作業療法における評価から援助目標が説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	未定	地域リハビリテーションと作業療法	外里
2	未定	身体障害領域における社会資源と作業療法士の役割	未定
3	未定	身体障害領域における社会資源と事例紹介	未定
4	未定	発達障害領域における社会資源と作業療法士の役割	未定
5	未定	発達障害領域における社会資源と事例紹介	未定
6	未定	精神障害領域における社会資源と作業療法士の役割	未定
7	未定	精神障害領域における社会資源と事例紹介	未定
8	未定	高齢者領域における社会資源と作業療法士の役割	未定
9	未定	高齢者領域における社会資源と事例紹介	未定
10	未定	終末期医療における作業療法①	未定
11	未定	終末期医療における作業療法②	未定
12	未定	作業療法における IT 活用①	未定
13	未定	作業療法における IT 活用②	未定
14	未定	未来における作業療法士の役割を考える	未定
15	未定	まとめ	外里

テキスト・参考図書	テキスト：小川恵子編集：標準作業療法学「地域作業療法学第3版」，医学書院 参考書：浜村明德編著：地域リハビリテーションプラクシス，医療文化社 鳥羽研二監修：高齢者総合的機能評価ガイドライン，厚生科学研究所 澤村誠志編集：リハビリテーション連携論，三輪書店
-----------	---

成績・評価の方法	試験 60%, レポート 40%
その他（履修上の留意点）	

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域作業療法学Ⅱ		
担当教員	外里 富佐江、(清水 万紀子、春原 るみ、松下 雅子)		
配当年次	3 年次	配当学期	後期
年間授業回数	1 5 回	単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	講義
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
地域で作業療法・リハビリテーションを展開していく上での他職種との協業の必要性、地域性、ニーズ抽出、プログラム展開、援助方法について、グループワークを通して考える。具体的には介護予防の事業を基に、地域における高齢者のための作業療法的プログラムを、健康教育の方法として考える。また、精神障害や発達障害を含めてプロシードブリシードモデルなどの集団的アプローチ手法を等して具体的な健康課題を設定し、その解決方法を演習する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・地域のニーズ抽出の手法を知り、説明することができる。 ・目標に沿った具体的なプログラムの展開方法を立案することができる。 ・介護予防事例を学び、実践できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	未定	オリエンテーション	外里
2	未定	地域作業療法の実際 プログラム立案	未定
3	未定	地域作業療法の実際 プログラム立案	未定
4	未定	地域作業療法の実際 プログラム立案	未定
5	未定	地域作業療法の実際 プログラム実施 ①	未定
6	未定	地域作業療法の実際 プログラム実施 ②	未定
7	未定	地域作業療法の実際 プログラム実施 ③	未定
8	未定	フィードバック	未定
9	未定	地域作業療法の実際 プログラム立案	未定
10	未定	地域作業療法の実際 プログラム立案	未定
11	未定	地域作業療法の実際 プログラム実施 ④	未定
12	未定	地域作業療法の実際 プログラム実施 ⑤	未定
13	未定	地域作業療法の実際 プログラム実施 ⑥	未定
14	未定	フィードバック	未定
15	未定	まとめ	外里

テキスト・参考図書	テキスト：使用しない。適宜資料の配布をおこなう。 参考書： 作業療法士協会監修：作業の捉え方と評価・支援技術，医歯薬出版 大淵修一他監修：介護予防完全マニュアル，東京都高齢者研究・福祉振興財団，
成績・評価の方法	試験 40%、レポート 60%

その他（履修上の留意点）	事前学習が必須である．また、課題の進行に合わせて各自復習をすること、積極的な授業への参加を求める、
---------------------	--

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	臨床見学実習		
担当教員	OT 専攻教員		
配当年次	1 年次	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
作業療法を志す学生にとって臨床見学の持つ意味は重要である。現場の作業療法士の対象者への関わり方や対象者の状態を間近に見ることによって、将来の職業についてイメージを持つことができる。また、作業療法士が組織の中で関係職種と連携をとらなければならないことも知ることができる。そして、作業療法士になるための意識を高めることにつながる。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・各施設における対象者の状態を知ることができる ・各領域で作業療法士が対象者にどのように関わっているかを知ることができる ・各領域の対象者と作業療法士の関わり方の違いを知ることができる ・各施設での職員の連携のあり方を知ることができる

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		6 月に身体障害領域と発達障害領域の 2 カ所	
2		7 月に高齢者領域を 1 カ所	
3		8 月～9 月に精神障害領域を 1 カ所	
4		事前にオリエンテーションを実施する	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	事前のオリエンテーション資料を配付する。 指定されるテキストはない。
成績・評価の方法	見学態度、参加状況、レポートにより評価
その他（履修上の留意点）	事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、引率者・説明者の言うことをよく聞き、自ら積極的に行動すること

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法臨床評価実習Ⅰ		
担当教員	OT 専攻教員		
配当年次	2 年次	配当学期	後期
年間授業回数		単位数	2 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
臨床現場である実習施設の機能，各医療従事者と対象者の関わりや作業療法士の業務と範囲さらに対象者の抱える心理的・身体的・社会的な問題点を学ぶ。学内教育で学んだ知識・技術をもとに，対象者に応じて適切な情報を集め基本的検査・測定などの評価を実施し，対象者の全体像を把握する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・ 作業療法士の具体的な業務と範囲を学び説明することができる。 ・ 指導を受けながら、対象者の状況に応じて適切な検査測定が実施できる。 ・ 学内で学んだ知識を、臨床場面の体験を等して学び、理解することができる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		2 月～3 月にかけての 2 週間	
2		事前にオリエンテーションを実施する。	
3		臨床実習の手引きを熟読し、確認すること。	
4		実習終了後、反省会・発表会を実施する。	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	事前のオリエンテーション資料を配付する。 指定されるテキストはない。
成績・評価の方法	臨床評価実習の遂行状況：60％ 学内での発表 40％
その他（履修上の留意点）	事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、自ら積極的に行動すること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法臨床評価実習Ⅱ		
担当教員	OT 専攻教員		
配当年次	3 年次	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	3 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
臨床現場である実習施設の機能，各医療従事者と対象者の関わりや作業療法士の業務と範囲さらに対象者の抱える心理的・身体的・社会的な問題点を学ぶ。臨床評価実習Ⅰをもとに，治療プログラムを作成し，一部の治療技術を実践して，その過程・方法を具体的に学び，応用能力を養う。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・ 学内で学んだ知識をもとに、対象者に応じた検査測定などの評価が実施できる。 ・ 結果を解釈・分析・統合して対象者の全体像を把握することができる。 ・ 治療プログラムの作成を試み、治療手技を具体的に学び、応用する。 ・ 作業療法士部門の管理運営を学び、医療・社会における作業療法士の役割を理解する。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		8 月下旬～9 月中旬の 3 週間	
2		事前にオリエンテーションを実施する。	
3		実習終了後、反省会を実施する。	
4		担当した症例の事例報告会を実施する。	
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	事前のオリエンテーション資料を配付する。 指定されるテキストはない。
成績・評価の方法	臨床評価実習の遂行状況：60% 学内での発表等：40%
その他（履修上の留意点）	事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、自ら積極的に行動すること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	地域作業療法実習		
担当教員	OT 専攻教員		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	1 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
地域作業療法は、家庭生活、地域生活、職業生活などの作業行動に不自由があり、そのために生活課題に支障をきたすおそれがある人を対象にして、人としての生活での再建・再構築を支援することである。この授業では、地域包括ケアを担う作業療法士にとって必要な心構え、実践能力などを実習経験を通して修得する。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
1. 国際生活機能分類（ICF）によって、生活障害を説明できる。 2. 評価で得られた情報をもとに統合と解釈、対応すべき生活課題を焦点化できる。 3. 施設利用者や在宅生活者のリスク管理を記述できる。 4. 地域作業療法の目標と課題、関連職種、他機関との連携について説明できる。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1	未定	未定	未定
2	〃	〃	〃
3	〃	〃	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	〃	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	〃	〃	〃

テキスト・参考図書	実習のオリエンテーション時に資料を配布する。 指定されるテキストはない。
成績・評価の方法	実習の遂行状況：60%，学内での発表など：40%
その他（履修上の留意点）	事前のオリエンテーションの内容を理解し、自ら積極的に行動すること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法臨床実習 I		
担当教員	OT 専攻教員		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	9 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
臨床実習を通して、学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合する過程とする。対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。 1 期目では、関係者と良好な関係を築き、安定して維持できること。2 年次3 年次の評価実習体験とこれまでの学内学習をふまえ、対象者の全体像を的確に把握したうえで、指導を受けながら治療を行い、その効果判定ができる。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合することができる。 ・作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、実践できる。 ・保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		臨床実習期間は、6 月から 8 月にかけての 8 週間	
2		事前にオリエンテーションを実施する	
3		臨床指導者会議において、指導者との面談の機会を設ける	
4		臨床実習終了後、反省会を実施する	
5		担当した事例の事例報告会を実施する	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	事前のオリエンテーション資料を配付する。 指定されるテキストはない。
成績・評価の方法	臨床実習の遂行状況：60% 学内での発表等：40%
その他（履修上の留意点）	事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、自ら積極的に行動すること。

保健科学部リハビリテーション学科 シラバス

授業科目	作業療法臨床実習Ⅱ		
担当教員	OT 専攻教員		
配当年次	4 年次	配当学期	前期
年間授業回数		単位数	9 単位
必修・選択等の別	必修	授業の方法	実習
授 業 科 目 の 概 要 (一 般 目 標)			
臨床実習を通して、学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合する過程とする。対象者の全体像の把握、作業療法計画、治療・指導・援助などを通して、作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。 2 期目では、具体的な治療計画を自分で立てながら指導のもとに治療を行い、再評価、治療計画立て直しの一連の PDCA サイクルに基づく臨床実践ができるようになることを目標とする。			

学 習 目 標 (行 動 目 標)
・学内教育で学習した知識と技術技能を臨床における作業療法体験により統合することができる。 ・作業療法士としての知識・技術・技能および態度を身につけ、実践できる。 ・保健・医療・福祉に関わる専門職としての認識を高める。

回	開講日	講義および実習の内容	担当
1		臨床実習期間は、10 月から 11 月にかけての 8 週間	
2		事前にオリエンテーションを実施する	
3		臨床指導者会議において、指導者との面談の機会を設ける	
4		臨床実習終了後、反省会を実施する	
5		担当した事例の事例報告会を実施する	
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

テキスト・参考図書	事前のオリエンテーション資料を配付する。 指定されるテキストはない。
成績・評価の方法	臨床実習の遂行状況：60% 学内での発表等：40%
その他（履修上の留意点）	事前のオリエンテーションの内容を十分理解し、自ら積極的に行動すること。